

【長期交換留学】

(アメリカ)

	派遣時期: 2013年8月～2014年5月		
16F2025	古久根 寛二	アラスカ大学フェアバンクス校	1
16F0023	伊藤 千沙	ボーリング・グリーン州立大学	5
15F0087	谷口 千波	ボーリング・グリーン州立大学	9
15E0049	岩井 恭平	コー大学	15
16F0161	松田 ジブ	ミドルテネシー州立大学	19

(中国)

	派遣時期: 2013年9月～2014年7月		
16F1033	中津川 法恵	華東師範大学	23
16F1004	安藤 誉文	天津外国語大学	26

(韓国)

	派遣時期: 2013年8月～2014年6月		
16C1027	大須賀 浩紀	東義大学	30

【中期交換留学】

(カナダ)

	派遣時期: 2013年8月～2013年12月(延長～2014年5月)		
15F0095	寺田 百合名	グラント・マキーワン大学	33
16F2023	黒田 秀世	アルゴマ大学	36
	派遣時期: 2013年8月～2013年12月		
15F0023	大野 将平	アルゴマ大学	38
16F0105	傍島 佳奈子	ジョージブラウン大学	41
16F0157	古川 紗矢香	クワントレン大学	44
16F0114	谷口 真結	クワントレン大学	45
16F0051	小田原 滉司	グラント・マキーワン大学	48
16F0147	樋口 あゆみ	グラント・マキーワン大学	50
15F0041	久野 孝文	オカナガン大学	51

(アメリカ)

	派遣時期: 2013年8月～2013年12月(延長～2014年5月)		
15F2021	河合 紗希	コー大学	54
16F0004	秋田 真江	ペンシルバニア州立インディアナ大学	57
	派遣時期: 2013年8月～2013年12月		
16F0046	小笠原 汐理	アラスカ大学フェアバンクス校	60
16F0101	鈴木 貴登	アラスカ大学フェアバンクス校	62
15E0151	近藤 崇	コー大学	64
15F0006	天野 志穂	ペンシルバニア州立インディアナ大学	67
16F0149	平野 敬己	ペンシルバニア州立インディアナ大学	70
16F0039	大角 真理	マドンナ大学	74
16F0054	加納 裕太	メンフィス大学	76
16F0026	犬飼 将章	メンフィス大学	80
16E0136	榊原 陸	メンフィス大学	84
15F0045	小林 拓也	メンフィス大学	87
15E0063	内田 健介	メンフィス大学	91
15E0329	村瀬 萌子	パシフィック大学	94
15F0120	野本 実早希	パシフィック大学	96

(中国)

	派遣時期: 2013年9月～2014年1月		
16F1044	箕浦 健二	天津外国語大学	98

(タイ)

	派遣時期: 2013年9月～2014年3月		
16F2065	山田 優花	コンケン大学	101
16F2026	小林 祐子	コンケン大学	105

(フィリピン)

	派遣時期: 2013年10月～2014年3月		
16F0044	大町 真葵	フィリピン大学	109

(中国・特別留学)

	派遣時期: 2013年9月～2014年1月		
17F1003	井ノ口 茜	華東師範大学	112
17F1016	黄トントン	華東師範大学	115
17F1011	加藤 梢	華東師範大学	123
17F1036	松井 春樹	華東師範大学	126
17F1037	松本 裕奈	華東師範大学	129
17F1001	青木 佑理子	華東師範大学	132
17F1022	丹 早苗美	華東師範大学	137
17F1023	茶園 香穂	華東師範大学	145
17F1028	中川 美里	華東師範大学	148
17F1025	飛永 夏澄	華東師範大学	152
17F1015	木村 美佳	華東師範大学	155
17F1034	濱田 華奈子	華東師範大学	159

【中期私費留学】

(台湾)

	派遣時期: 2013年9月～2014年1月(延長～2014年6月)		
16F1015	後藤 優季	中国文化大学	162

(中国)

	派遣時期: 2013年9月～2014年1月		
16F1024	澤岷 光	北京師範大学	165
16F1039	福井 洋介	北京師範大学	167

(フィリピン)

	派遣時期: 2013年10月～2014年3月		
15F1052	堀田 久恵	ラサール大学	171

長期留学報告書 ～出会いと感謝～

アラスカ大学フェアバンクス校 16F2025 古久根 寛二

私は 1 年生のときにフィリピン・スタディーツアーに参加しました。そこではお金がなく私たち観光客にお金を乞う子供たちがいました。そのような光景は私にとってとてもショックなものでした。このスタディーツアーに参加し、はじめて目にする光景や、様々な新鮮な経験をすることができました。フィリピンから帰国後、英語を仕事に活かせる会社に就きたいと強く思うようになり、留学を真剣に考えるようになりました。そこから、留学の選考に必要な TOEFL で良い結果を出すため、授業後に勉強をしたり、たくさんの映画を観たりしました。

昨年 8 月のコー大学のプログラムから私の留学は始まりました。出発前より、名古屋学院大学の留学経験がある先輩方から、コー大学のプログラムは英語の勉強がたいへん熱心でついていくのも難しいと聞いていました。その為、あまり楽しさを期待してなく、不安が多くありました。実際にコー大学のプログラムは、当時の英語の実力の私には辛く感じるがよくありました。プログラムの内容とは別に、私が関心したことはコー大学と一緒に学習した早稲田大学からの生徒達です。例えば、私がある課題ををするとして、私とその宿題を終わらせるのに 2 時間 30 分ほどかかるのに対し、彼らはわずか 1 時間ほどでできてしまいます。このようなことが毎日のようにあり、私は何がそれほど私と彼らの間で違うのか気になり、彼らはいつ勉強しているのかなど直接聞いてみました。彼らは、ほぼ私が勉強する時間と同じ時間から勉強し始めていて、こういった面では何も違いがないことに気が付きました。なので、これは集中力と効率が私と大きく私と違うのではないかと私は思いました。このことに気づき、勉強のスタイルを少なからず変えなければいけないと感じました。それからは、より集中して勉強をとりかかろうと努力しました。また、ノートの付け方も普段のものより少しでも授業の後に見たときにわかりやすくなるようにマーカーの使い方を変えるなど工夫するようにしました。コー大学で楽しかったことは、学校のグラウンドで友達とサッカーをして遊んでいたら、知らない人が今からサッカーをやるから一緒にやろうと誘ってくれ一緒にサッカーを何度かすることができました。彼らは、仕事が終わってから友達同士で集まって週に 2 回ほどサッカーをしているらしく、日本ではこのように仕事が終わってから友達同士集まることなどないと思います。なので、これが文化の違いなんだと感じました。このような形でアメリカにいる間に何人も友達を作ることができました。

アラスカ大学での、学校が始まる前の最初のプログラムに参加し、そこではバックパックを背負ってハイキングを 3 泊 4 日ほどしました。私たちの、バックパッキングのグルー

プはアジア人が私しかいなくてわくわくしました。このプログラムの参加者の多くは、私と同じように海外からの交換留学生や新しくアラスカ大学に入学するような人たちばかりで友達を作りやすく、楽しむことができました。グループにはフランスやドイツからの留学生がいて、このプログラムがきっかけで彼女らと友達になることができました。このバックパックを背負ってハイキングをするプログラムは大いに楽しむことができました。ブルーベリーを食べながらハイキングをして、日本とは違う山の景色はとてもきれいでした。また幸運にも遠くに茶色の熊を観ることができました。

私は幸運にもカトラールと呼ばれるアパートメントで生活することになりました。なので、ルームメイトは3人でした。1人はアラスカ出身の子で2人目はオレゴン州のポートランド出身の子で、3人目の子は中国出身だけれども、一般の生徒として学校に通っています。彼らは、ときどき料理をしたときに私に分けてくれたり、英語でわからないことがあったらいつでも聞いていいと言ってくれたり、私にいつもよくしてくれたので感謝しています。私はルームメイトを通じて新しい友達を持つことができました。時にはパーティーを住んでいるアパートメントですることがあり不快に感じることもありました。けれども、冬休みの時などよく遊びに誘ってくれたりしてくれて嬉しかったです。私のルームメイトの1人は車を持っていて一緒にティナ温泉へ車で行ったり、オーロラがよく見えそうな日には他のアメリカ人の友達も一緒にアパートメントから1時間ほど車で行ったところにある丘へ星やオーロラを観に行けたことはとても嬉しかったです。その友達たちの何人かは、休みになるとハンティングをしたりします。なので、そのハンティングをするために使うショットガンやハンドガンを実際にシューティングをする場所に私を連れて行って実際にその銃を撃つことができました。ショットガンを撃たせてもらったが、やはり想像以上の衝撃で肩にあざができたのではないかと感じるくらい反動がありました。シューティングをする人はたいへん多く、幼い6歳くらいの子供でさえも人を殺せてしまえそうな銃を撃っていてなんだか少し怖いなと感じました。また、これほど銃がアメリカ人に浸透しているとは知りませんでした。

彼ら以外で仲の良い友達たちはたまたま私のアパートメントの外を私が散歩していた時に、今からハングアウトをみんなでするけど来ると誘ってくれてそこで会った友達が私の親友たちです。彼らはみんな自分よりも年上で、いつも自分に優しくしてくれてとても嬉しかったです。その他に嬉しかったことは、最初に彼らに会ったときは全く日本語に彼らは興味がなかったようですが、よく遊ぶにつれて日本語で Thank you ってなんていうなどと日本に興味を持ってくれて嬉しかったです。日本に帰る少し前にその友達たちの何人かで一緒に映画を観に行けたのはとてもいい思い出です。また、一緒によく日本のテレビゲームをできたことも嬉しかったです。ポケモンの名前がアメリカと日本のものでは違うことに驚きました。その他の特に思い出深い思い出は、一緒にオーロラをアパートメントの外で12月くらいから何度も観ることができたことです。

最初のセメスターは ESL の授業だけを取り、春のセメスターは ESL の授業とドイツ語の授業を受けました。ドイツ語を受けようと思ったきっかけは、英語でドイツ語を学びたいと考えていたからです。実際に英語でドイツ語の授業を英語で受けるのは想像以上に難しく最初の授業に出席したときに、他のアメリカ人の生徒がドイツ語を話しているのを聞いて私はこの授業をやっているのかなどと不安になりました。けれども、ドイツ語の先生がチューターの制度を使うことを私に勧めてくださったおかげで、平日はほぼ毎日そのチューターの人と勉強をできたおかげでドイツ語がはるかに理解しやすくなりました。また、わからないことも何度も聞き理解できるまで説明してくれたので感謝しています。日本のドイツ語の授業とアメリカでの授業との違いで 1 番大きいことは、日本でドイツ語を学ぶと週に 1、2 時間しかありませんが、アメリカでは週に 5 時間もあり毎日必ず宿題が出ることではないかと思います。そして、アメリカではそれぞれの言語の授業をする先生は、全員ネイティブの先生で、例えばロシア語の先生ならロシア人だし、スペイン語の先生ならスペイン出身の先生などネイティブの先生を採用していて、授業の中でその言語の発音などをしっかり学ぶことができていると思いました。ドイツ語の授業は、ほぼ毎日あったので毎日の予習だけでも大変でした。けれども、毎日必ず予習をして 1 日も休まずしっかり授業を受けていたので最後に先生にいつもしっかり勉強をしていて頑張ったと褒めていただき嬉しかったです。

留学生活は、レギュラーの授業が難しかったり最初の方は友達を作るのに苦労したりと大変に感じることもあったり、留学というものが楽しくないと感じてしまったこともありました。けれども、英語を勉強して少しずつアメリカ人の友達を作ることができるようになっていき留学がどんどん楽しいものになっていきました。この留学生活は基本的に何もかもが新鮮でわくわくする経験もたくさんすることができました。私の留学生活はほんとうに多くの方に支えられていたと留学していた時も、また日本に帰ってきた今でもそのように強く感じています。なので、この留学から学んだことを精いっぱい活かせるように英語の勉強もドイツ語の勉強もしていきたいです。また、これからの生活もたとえ小さなことでも感謝の精神を忘れず目標に向かって日々精進していきたいです。そしてまたアメリカでできた私の親友たちに日本かアメリカで会うのを楽しみにしています。



長期留学報告書 ～長期留学を通して学んだこと～

ボーリング・グリーン州立大学 16F0023 伊藤 千沙

初めに、長期として10ヵ月間留学が出来たことにとても満足していると同時に、私を支えて頂いた周りの方々に本当に感謝しています。大学入学当初、特にこれといった目標がなく、ただ学校に行き、アルバイトをしてという普通の生活を送っていました。しかし、高校生の頃にオーストラリアに留学した経験から、またもう一度留学をしてもっと英語を自分のものにしたいと思い、1年生の秋ごろから長期留学を目指し勉強に励みました。

TOEICやTOEFLの点数は下がる一方でいい点数をとることはなく、結果の用紙をもらう度に落胆していました。1番初めに受けたTOEFL以降、スコアが上がることはなかったのですが、公費での長期留学をする機会をいただくことができました。留学を終え今振り返ってみると、あの頃を振り返ると、当時の自分は全く勉強していなかったため、いろいろな方に申し訳なさを感じます。しかし、留学を経験したことで英語だけでなく、自分自身の強みや弱み、どのように勉強するのが1番自分に合っているかなど、それまで気づかなかった新しい自分を見つけることができました。

留学中は、毎月自分自身で振り返る時間を作り、反省点や改善点などを考え、来月の目標を定めていました。実際に目標が達成できなかつた月もありましたが、振り返って見直す時間を作るだけでもすごく重要なことだったなと感じます。このことは留学中だけでなく、様々な場面で活用できるので、今後も実践していきたいと思います。

私は、オーストラリアやアメリカへ短期留学を経験したことがあり、ホームシックなどの不安や心配はなく、出発前とはとにかく早く行きたいという気持ちでいっぱいでした。私が留学していたオハイオ州は、とても静かで住みやすい所です。視点を変えてみると単に田舎なのかもしれませんが、人口密度の高い日本と比べるともの凄く新鮮で、私にとって本当に大好きな場所の1つです。オハイオ州は全米で唯一なまりがない英語を話すということ、のちに友達が教えてくれ、その点も留学するにあたってはすごくいい点だなと感じました。ただ、冬は日本の冬と比べものにならないくらい寒く、外に出るのも嫌になるほどでした。夏が終わると、秋が来ないまま、あっという間に冬がきて、11月にはすでに雪が降りました。私の故郷は全く雪が降らない場所なため、最初は雪と寒さに慣れるのが大変でした。また、皆さんがご存知の通り日本と外国の方とでは体感温度が全く違い、その違いがルームメイトや他の友達とトラブルになったこともありました。それでも私とルームメイトは仲が良く、一緒にハングアウトするのはもちろん、Thanks Givingで親戚一同が集まるパーティー、クリスマスパーティー、日本へ帰国する3週間前にあったイースター感謝祭など、様々なイベントにルームメイトが招待してくれ、留学を通じたくさんの事を経験することができました。帰国してからも時々連絡をしていて、いつかまた会えたら

いいなと思っています。

私は寮全体を通して仲良くなった友達が多く、週末などはいつも誰かの部屋に行き、みんなで遊びました。ドームメイトは毎週のようにハングアウトに誘ってくれるので、週末を迎えるのがいつも楽しみでした。最初の1学期は、日本語を勉強しているアメリカの友達や、他国から来た留学生と遊ぶことがほとんどでした。しかし2学期目になってアメリカでの生活に慣れ、徐々に他のアメリカ人の友達もたくさんでき、ほんとうにたくさんの人と遊びました。たくさん友達ができただけからこそ、帰国するときは本当に涙がでるほど寂しく、出来ることならもう1年滞在したいなと思いました。

留学中は、誰と会うのにも一生に一度しかない出会いばかりで、まさに一期一会という言葉が合うと感じました。残りのアメリカでの生活が少なくなるにつれて、より一層この四字熟語を思い出し、次にこの人たちと会うのはいつなのだろうかと思いました。そして、だからこそ一つ一つの出会いがとても大切だと、日頃から心がけていました。留学を通して、一期一会という四字熟語がより大好きになりました。もちろん、日本でも常にこの言葉を胸において人と接していきたいと思います。

留学中には何回か数日間の休日があり、その期間にはアメリカのあちこちを旅行しました。留学してから初めに行ったビッグシティの1つ、シカゴは想像を絶する市でとても刺激を受けました。他にも、ニューヨーク、ボストン、フロリダへ行きました。友達がナイアガラ滝にも連れてってくれ、これは世界遺産ということもあり、本当に素晴らしかったです。世界遺産、メジャーリーグ、NBAを見ることは留学中で達成したい目標だったため、全て叶えることができとても満足しています。これらのような旅行もなかなか普段できることではなく、留学していたからこそできた経験だと思います。

本当にアメリカ留学での毎日は新鮮で貴重な時間でした。留学を通して私が感じた良い点、悪い点は数えきれないほどありますが、すべて私にとってプラスとなることばかりでした。やはり、このような経験ができたことは決して私だけでは出来なかったため、本当に両親や周りの方々に感謝をしています。そして今後は、培った英語力を生かして周りのお世話になった方々に恩返しができるようなことをしていけたらいいなと思います。







長期留学報告書 ～アメリカで学んだこと～

ボーリング・グリーン州立大学 15F0087 谷口 千波

私が留学を決めたのは、今から1年3ヶ月前の2年生の2月のことでした。3年生の夏から1年間の公費留学のチャンスをいただけるということは、その年が初めてのことであり、一番始めに頭に浮かんだことは一年の公費留学が出来るかもしれないという期待と、就職活動に対しての不安でした。3年生の12月から就職活動をスタートしても内定をもらえる自信がなかった私が、同級生から遅れてスタートをして間に合うのだろうか。そういった不安があったにも関わらず、留学選考面接時に先生方から「一年行けると言われたら行く気はある？」と聞かれ、「行けたら行きたいです。」と中途半端な答えをしてしまったことを今でも覚えています。

アメリカのアイオワ州にある Coe collage にサマーオリエンテーションに参加したとき、早朝から夕方まできっちり詰まっている授業と宿題の大変さに驚きました。朝起きて1日授業を受け、ご飯を食べて宿題をし、シャワーを浴びて就寝する、その繰り返しでした。Coe での生活を乗り越えられたのは一緒に勉強した名古屋学院からの友人、そして早稲田からの学生がいたからだと思います。2週間が経ちオリエンテーションを終え、私は一足先に一人でオハイオ州にある、ボーリング・グリーン州立大学 (BGSU) に発ちました。一人きりで乗る初めての飛行機、2週間共に過ごした仲間から離れる不安、BGSU での生活に対しての緊張感など、そのときはネガティブな考えしか浮かびませんでした。トレド空港に着いたときも自分のミスで BGSU からの迎えの時間を把握しておらず、いつまで経っても迎えが来ない。いつまで待ったらいいのだろうかということしか考えられず、タクシーを使うことさえ恐れて一人ではどうすることも出来ませんでした。幸い、友人から紹介をされていた BGSU の学生がいたので、彼に連絡をとって迎えに来てもらうことが出来ました。寮にチェックインをして RA に自己紹介をしたときも RA の言っていることが速く聞き取れない。でもそれを伝えることも出来ず、分かったふりをしていました。これが、アメリカに着いた当初の私でした。

秋のセメスターが始まり、授業と日本語クラブの活動が始まりました。履修登録をした際にアドバイザーの方に薦められてとった Asian American studies という授業がとても大変で、アメリカのアジア人移民の歴史なので内容が難しいのはもちろん、2日後までに60ページ読んでくる、といった課題も頻繁にありました。手を抜こうにも、どこで抜いたらいいのか分からないことと、ほとんど毎回クイズがあるので読んで理解をしなければ点数がとれないので手を抜くことは許されませんでした。お昼過ぎの3時ごろに授業が終わ

ってから宿題を始め、気づけば10時過ぎているということもしばしばありました。クラスで新しく出来たクラスメートに助けをもらい、秋学期を乗り越えることが出来たと思っています。授業だけでなく、アメリカの大学には様々な行事がありました。例えばインターナショナルディナー。インドや中国などの食事を囲みながらパフォーマンスを見るといったものです。スリランカやベトナムのダンス、留学生を含めた各国出身の学生が伝統的な衣装を着て行うファッションショー、メキシコの音楽などのパフォーマンスを見ることが出来、様々な人種を受け入れるアメリカの大学ならではの行事であると思います。日本の大学ではなかなか経験出来ない行事だったので、とても新鮮でした。そういったアソシエーションが運営するイベントもありましたが、なんと言っても学生が盛り上がるのが自分の学校で行われるスポーツの試合です。アメリカで人気なスポーツの一つ、フットボールの開幕が9月頃でした。こちらの学生は学校を表すマスコットキャラクター（BGはファルコン）やカラー、グッズなどがあり、学生はこぞってBGグッズに身を包んで応援します。点数を決めれば吹奏楽部が音楽を弾き、その最後にみんなで「Go BG!」や「Let's go falcon!」と言った掛け声も叫びます。フットボールだけでなく、アイスホッケーやバスケットボールの試合も学生みんなが点数を決めれば喜び、とられれば悔しがるといったようにスポーツ観戦は自分がBGの一員であることを認識出来る行事だと思いました。また、隣の人が知らない人でもスポーツ観戦を通して一緒に盛り上がったり、話が弾むこともあります。後から思えばあの人誰だっけ?となることもありましたが、知らない人でも気軽の話しかけるアメリカ人のフレンドリーさが私はとても大好きです。そしてアメリカにしかない行事といえば、Thanks giving dayです。Thanks giving dayとは、家族が集い、テレビでフットボール観戦をしながら、料理に感謝をしつつターキーやマッシュドポテトなどの伝統的な料理を食べる行事のことです。学校から一週間ほどの休みをもらい、学生は寮を出なければならぬため、私はペンシルバニアにある友人の家にお邪魔しました。IUPに留学している友人とも会い、アメリカの文化を学びながら休日を送ることができました。海外に浸り、文化を知り、受け入れる。こういったことが出来るのは留学ならではのことであり、素直に受け入れられるのも人生経験の浅い今の時期だからこそだと思います。

秋学期が終了し、寮を出なければいけなかったので私は友人と二人でワシントンDCへ行きました。ワシントンには歴史がたくさんあり、建物も歴史にちなんだものが多いことで有名です。日本人の女の子2人で旅行ということでもとても不安でしたが、思っていたよりもアメリカは危険な街ではないということに気がつきました。ここで私が学んだことは、夜道を一人きりで歩かない、危険な通りは歩かない、失くし物には気をつけるなど最低限のことをしていればアメリカは安全であり、十分に楽しむことが出来るということです。一度携帯のナビに従って電車に乗ったところ、危険な道で降ろされてしまいホームレスがたくさんいて怖いと感じたことがありました。その時同じ駅で降りたアメリカ人の男性に「ここは危険な道だから歩かない方がいいよ」と言われ、親切なことにタクシーを捕まえ

てもらい、無事に帰宅することができました。その男性の親切にとっても感動し、日本での自分の無防備さと警戒心の薄さに反省しました。また、宿泊先も何日もホテルに宿泊するわけにはいかないのので、ホステルに宿泊しました。4人部屋や6人部屋などの他人とシェアをする部屋だったので盗難などを心配していましたが、他の宿泊客も私と同じように留学生であったりインターンシップ生であったりしたので、不快な思いをしたことはありませんでした。

そして、そのワシントン旅行が終わってからは一人でバスに乗り、ニューヨークに向かいました。違う場所で共に勉強を頑張っている名古屋学院の友人たちに会うためです。思えば一年生のころ、留学へのモチベーションを上げるために私が思いつきで言った「年末はタイムズスクエアで会おうよ!」という言葉が本当に実現するとは信じられませんでした。半年ぶりに会った友人たちは精神的にとっても成長しているように感じ、また最初はコーヒーをオーダーすることもできなかった自分が、ニューヨークに一人で向かい友達に会えていることを考えると、自分もとても成長したなと感じました。そんなふうに分を省みたときにアメリカの生活にやっと少し余裕が出来て、この大切な時期に一年の交換留学を決めたからには「楽しかった」だけで終わってはいけない。英語に加えてプラスαで「勉強」をしなければならないという初心を思い出しました。

春学期が始まってからは、自分の留学に対する目的が変わったように思います。アメリカに来る前は、海外の人と出会い視野を広げたい、たくさんの経験をしたいというのが私の目標でした。アメリカでの生活を半年終えてその目標が「もっと自分に挑戦したい」というものになりました。それは、秋学期をアメリカで過ごしてみて、とてもキツイレギュラー授業を乗り越えたこと、現地の人と意思疎通が出来るようになったこと、疑問があったら妥協せずに聞けるようになったことというような壁を一つ一つ乗り越えることでそれが自分の自信につながると分かったからです。一度自分に圧をかけることでそれを乗り越えた自分の中身に自信を持つことが出来るようになると実感したからです。それに気がついてからは、常にどんな些細なものでも目標を持つことを決めました。今までは英語や授業についての目標ばかりでしたが、日常生活でも意識することを決めました。例えば、お店に入ったときや会計をするときはいつも「Hi, how are you?」と聞かれます。たいていは「I'm good」で終わらしてしまうところを「Good, you?」と聞き返してみよう。天気についての会話をしてみよう。コーヒーをオーダーするときに氷少なめでと言ってみよう。そのような簡単な目標を決めて、それが出来たら新しい目標を決める。レギュラークラスでも、グループワークで自分の意見を言ってみたり、それが出来たらクラス全体でディスカッションをするときに手を挙げて発言してみようなどと1つ1つこなしていきました。そうすることによって自信がついていき、英語の間違いを気にして焦ったりすることが少なくなりました。

春学期はアメリカの生活に慣れたためか、とてもはやく感じました。そしてアメリカ生活を通して感じた良いところは、自分の意見を受け入れられるということでした。アメリカの学生だけでなくサウジアラビアや中国などの学生は自分の意見に自信を持っていると感じました。授業中の発言も恥ずかしがらず、誰かの意見に被せてでも意見をします。それに対して日本人の学生は発言しようとしているところに、他国の学生に言われてしまうといった状況が多かったように思います。このことについてはスピーキングの授業で話したことがあります、それは日本人の学生は小中学生のころ「私語を謹んで、先生が言うことを静かに聞きなさい。」と言われていたからのように思います。そういった習慣を何年も続けてきた日本人学生は発言をすることに多少なりとも躊躇ってしまうのです。きちんと自己主張をすることは人と関わるうえでとても大切なことであり、アメリカではその主張が受け入れられます。上下の関係を気にせず一人一人の意見が尊重されるといった意味で、アメリカはとても生活しやすい国だと感じました。授業面では、春学期に受講したアメリカでは有名なポピュラーカルチャーという授業はとても興味深く、いままで受けた授業のなかで一番勉強したいと思える授業でした。ポピュラーカルチャーとは文字通り大衆文化のことを指します。アメリカの音楽から映画、そして時々日本のアニメについて勉強しました。そのほかに、時計ブランドなどの広告でメガネをかけて高級なスーツを身にまとったインテリ系の男性がそのブランドの時計をつけていると、その時計が高級そうに見える。広告はそのような効果を利用して、自社の価値を高めています。このような内容は、私達の生活にとっても身近かつ無意識に見ていたもののことを勉強して気付かされるので、非常に面白いと感じました。

もうひとつ心がけたことはなるべく人と関わることでした。日本人なので、初めて会う人とは少し気まずいと感じたりしたこともあります。しかし、そこで会話を終わらせてしまったり別れてしまうのではなく、もっと相手はどんな人なのか知ろうと考え話しているうちに共通点が見つかり仲良くなる、ということもありました。寮でも、秋学期のルームメイトとはたくさん話そうとしても返事が”Okay”や”That’s good.”のように広がるものではなく、せっかくルームメイトがいるのにこれではもったいないと思い、寮を変えることを決め、春学期からは別の寮で生活を始めました。19歳のルームメイトでとても優しく話すことが好きで、時には寝る前にお互いの悩みを相談しあったりなどとてもリアルなアメリカの学生生活過ごせたと思っています。ルームメイトだけでなくフロアメイト、RAにも恵まれ、前期は寮を変えることを戸惑っていましたがこのことを通してたった一年しかないアメリカ生活では後悔しないために、したいと思ったことはすぐに行動しようと考えようになりました。

留学前からアメリカにいる間、3年生の夏から一年という就職活動も始まる大切な時期から、英語力以上のものを得てこなければならぬと意識をして過ごしていました。留学

を終えた今は目標であった英語力以上のものを得ることが出来たと確信しています。帰国前に最後に一人で訪れたニューヨークは自分に対する“度胸試し”とも言えるものでした。BGSUの何人かの友人は、「危ないから一緒に行こうか？」を言ってくれましたが、友人と一緒に旅行に行けば旅の楽しさは保証されるものの、私の性格上友人に頼ってしまう。一人で行って困ったことがあれば自分で判断し解決する能力を養いたいと考えたため、一人で行くことを決めました。行ってみれば不自由は少なくなく、夜道を一人で歩かなければならなかったときの不安、重い荷物をたった一人ですべて移動させなければならなかった体力的な面での疲労、自分の持ち物に対する責任感が常にありました。友人が一緒であれば、「荷物見ておいてね。」と言い、バスルームに行くことが出来ます。ですが、そのたった5分のためでも道や空港に置き去りにすることは出来ません。そういった不自由を通したうえで、知らない人と交わすちょっとした会話を楽しむことが出来たり、観光を楽しむことが出来、終わったあとの達成感を感じられました。旅行のたびに心の優しい方々に助けをもらい、また新しい旅の楽しさを知ることが出来ました。



(左) スターバックスやジャンバジュースなどが入っている Student Union

(右) ESOL の授業がある East hall から見えるメモリアルホール

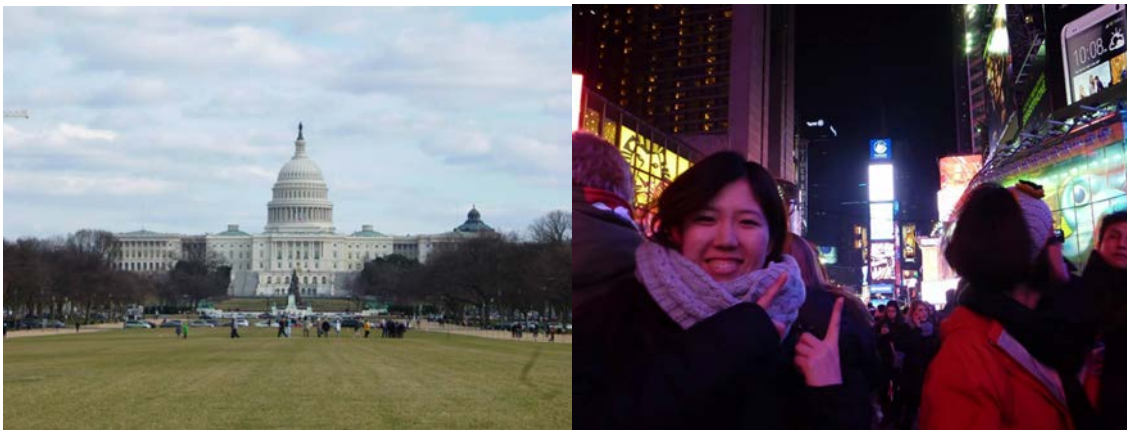


(左) ESOL Speaking 香港やマレーシア、サウジアラビアや中国からの学生と一緒に

(右) フットボールスタジアムにて！トレド大学がBGのライバルです。



(左) アメリカ人のフロアメイトと一緒に :)
(右) お気に入りの Wild Buffalo Wings で。



(左) ワシントンDCにて。国会議事堂
(右) ニューヨークのタイムズスクエアで。



イリノイ州からカリフォルニア州まで繋がる Route66

長期留学報告書 ～アメリカでの生活を振り返って～

コー大学 15E0049 岩井 恭平

私は2013年8月から2014年5月中旬までCoe College(コー大学)という私立大学に交換留学生として派遣されていました。コー大学はアメリカアイオワ州シーダーラピッズに位置し、生徒数が1000人ほどの小さな私立大学です。大学周辺には特に何もなく田舎といった感じでした。

私の留学はまず研修から始まりました。毎年留学先の大学に派遣される前に研修が行われている大学がたまたま私が留学するコー大学でした。この研修は二週間実施されます。いま振り返ってもこの二週間が留学生活で一番大変でした。

10月はCoe Collegeに留学する学生は入らなければならないInternational Clubにてメインイベントの一つである、2泊3日のシカゴ旅行へ10月5日から7日まで行ってまいりました。こちらに来てから私は髪が切りたく、しかしながら近所の床屋は行かない方がいいとのアドバイスを受け、切れずにいました。そのため、シカゴには日本人の美容師がいると思い、調べて予約をして当日切ってもらえることが出来ました。値段もCoeの先生には高いと言われましたが、私的にはシカゴということもあり多少は高くても仕方がないと思っていましたが、\$55で切ってもらえたので良かったです。女の方はもう少し高かったです。かなり短くしてもらい、だいぶすっきりしました。私ははさみを持っていかなかったのですが、持ってきている子もいて、器用な友達とかに切ってもらったりしていました。意外と髪については皆さん困っていて、何かしらの対策は必要だと感じました。完全に盲点でした。こちらに来てから発覚する個人的な問題も結構あり、学習以外の面でこんなに苦労するとは思いませんでした。

また、シカゴではミシガンストリートと呼ばれる有名な通りがあり、そこには世界的に有名なお店が軒を連ねていました。私はそこを散歩したり、夜にはJohn Hancock Observatoryへ行き、シカゴの夜景を30分くらい眺めていました。ちなみに価格は大人が\$18でした。

次に日本からの交換留学生と先生で小旅行(遠足)へ行きました。当初の予定では、国立公園へ行く予定だったのですが、ちょうどそのタイミングで国の機関の一部がシャットダウンしてしまい、中止せざるを得ない状況になってしまいました。そこで次の週に学校から30分くらいの山に紅葉を見に行きました。その時、あまり木々は色付いていませんでしたが色々な景色を見ることが出来、楽しく過ごせました。ですそのあと、ハロウィンが近いということもあり、ハロウィン関連でかぼちゃがたくさんある場所へ行きました。

パンプキンのところにはたくさん子供たちがいて賑わっていました。31日には先生の家
に招待され、ほとんどの子は仮装して Trick-or-treaters たちにお菓子をくばったりしま
した。また、カレーまでご馳走になってしまいました。非常においしかったです。とても
楽しく過ごすことが出来ました。

11月の第三週の週末に私ともう一人日本人の留学生で先生の家に一泊二日でホームステ
イをしました。このホームステイは日本人留学生全員が体験しました。人によっては、私
のように先生の家ではなく、私たちには全く面識のない方の家に行った子もいました。も
ちろんその方々は先生の知り合いの方です。

伺った先生のお子さんがまだ未就学児の子と、小学生の子だったので基本的に私たちは子
供たちと遊んでいました。万国共通で子供は疲れを知らないのだなと思いました。夜には、
近くで日本人の劇団が公演に来ていたので見に行きましたが、シュールすぎて私には理解
できませんでした。しかし、面白かったです。そのあと家に帰り、先生と色々な話をして
いました。普段は聞けないようなことが聞けたりして、この時間が一番楽しかったです。
また、私たちが行った先生の奥さんが中国人の方だったので、中華料理や、わざわざ日本
食まで作ってくださり、とても嬉しかったです。しかし、この期間中、若干体調を崩して
おりました。

11月26日の業後から12月1日まで Thanksgiving と呼ばれる休暇がありました。私は、
ルームメイトの家に誘われていたため、彼の家と、彼の親戚の家にお邪魔しました。彼の
家族とは何回か会っていたため、緊張等はありませんでした。しかし、この Thanksgiving
はアメリカの方にとって大切な休日と認識していたので、彼と彼のご両親にも本当に大丈
夫なのか何回か確認しましたが、むしろ来てくださいといった感じだったのでとても嬉し
かったです。

出発当日に風邪をぶり返してしまい、熱が出たりと、休暇中は喉がとても痛くて大変で
した。薬など服用したのですが効かず、まだ治らないという状況です。早く治るといいで
す。Thanksgiving では伝統的な料理を食べることが習わしであり、私は、ルームメイトの
親戚の家で七面鳥や、マッシュポテト、パンプキンパイなど食べました。とても美味しく、
至福のひと時を過ごすことが出来ました。ルームメイトの家は Coe College から約一時間
半で、そこから親戚の家までは三時間ほどかかりました。26日と29日、30日はルームメ
イトの家に泊まり、27日、28日はルームメイトの親戚の家に泊まりました。
ルームメイトの家に滞在していた時は、夕食を食べ終わってからルームメイトの友達の家
に行きました。

親戚の家は人口がとても少ないところで、落ち着いた雰囲気のある場所でした。印象に残っ
たことは基本的に家が驚くほど広いです。私がルームメイトに日本で同じサイズの家を買
ったら一億円ぐらいするよと言ったら、だいたい二千万ぐらいだよと言われさらに驚きま
した。また、オート開閉式のガレージも標準装備なので一億円あればもはやビルが買える
勢いでした。土地が安いのか、それとも他の要因があるのか気になりました。

最終日にはルームメイト一家と教会へ行きました。これはもちろん初めてだったので貴重な体験になりました。また、行った教会は私が想像していた建物よりはるかに大きく、とても驚きました。

ルームメイト、ルームメイトの家族、親戚の方に私は、初対面にもかかわらずとても親切にして頂いてとても嬉しかったです。お土産も急ぎょルームメイトの家族には私の親に事前にたくさん送ってもらい準備していたのですが、親戚の家に訪問するということを Thanksgiving 当日の一週間ほど前に教えてもらったため間に合わず、来年また親戚一同が集結するようなので、その時期に合わせて日本から何かしら送ろうと考えています。

無事秋学期が終了し、冬休みはシカゴにホームステイに行きました。コー大学の日本人留学生は毎年ホームステイを先生たちに勧められて、ほとんどの学生はホームステイに行きます。私は最初、ロサンゼルスに決まったのですが、キャンセルされたりとトラブルが発生し、最終的にシカゴへ行くことが決まりました。シカゴ市街へは電車で20分ぐらいのところでした。シカゴへはインターナショナルクラブの旅行のようなもので一回行っていたので二回目のシカゴとなりました。ホームステイ先の人はおばあさんが一人だけでした。このおばあさんはものすごくいい人でしたが、ホームステイ中、私はクリスマスにむけた準備をひたすらやっていた気がします。ホームステイには当たりはずれがあるとよく耳にしていますが、何とも言えないようなところでした。ただ、他の人の話を聞いたりするといい方だったのかもしれませんが。シカゴ周辺でホームステイを同じ会社を通して人たちが集まる機会がたくさんあったのですが、色々な国の人がいて国際交流していると実感しました。偶然にも私が住んでいる地元周辺に住んでいる同い年の学生がおり、世界は狭いと感じました。

春学期からはよいよレギュラークラスでの受講が始まりました。一つだけ ESL のクラスがありましたが秋学期のものとは難易度がかなり上がり、正直私が選んだレギュラーのクラスよりも大変でした。私は ESL のクラスのほかに音楽系のクラスをとりました。私はこの学期では、ESL のクラス（私を含め名古屋学院の学生四人）一つと、レギュラーのクラスを二つ取っています。ESL のクラスは履修登録のときから元々取るようにと言われており、また、この授業は Rhetoric というクラスで日本語訳では修辞学と呼ばれており、リーディング・ライティングの発展したようなものです。私が秋学期に受けていたリーディング・ライティングのクラスよりかなり難易度が上がり、教材も同じように難しいものになりました。このクラスのリーディングにかなり苦労しています。私の取ったレギュラーのクラスは、二つとも音楽関係のクラスです。一つは Fundamentals of Music という音楽の理論を学ぶのがメインのクラスで、音楽を学ぶ上での基本などからスタートしました。もちろん少人数のクラスなので、しばしば指名され、感想などを聞かれます。何とか答えますがかなり緊張します。

もう一つのクラスは Enjoyment of Music というクラスです。クラスのタイトルからいかにして音楽を楽しむというのを想像されると思うのですが、現在のところ、中世の音楽を聴いて、どのような楽器が使われているか、どのような構成か考えたりするので、思っていたのとは少し違いました。また、多くの講師の方がプレゼンテーションをしに来たりと、変わった形式のクラスだなと感じました。もちろんこれらの講師の方は私たちが勉強しているピンポイントの時代の音楽についてプレゼンテーションをされます。この授業ではかなり特殊な英単語が出てくるので大変です。

二つのレギュラークラスの教授方々はとても優しく、ESL のことを伝えたら、問題ないと歓迎してくれました。

私がクラスを選ぶ際に重視したのは日本人が少ないことと、興味関心が少しでもある物です。実は履修登録の際には Enjoyment of Music は取っておらず、もともと学びたいと思っていたビジネス系のクラスをとっていました。しかし、最初の授業を受けた際に思っていたのとはかなり違い、日本人が半数を超えていたので変更しました。早稲田大学の学生を含め日本人はかなり多いのでこういったことが起きてしまうのは仕方ないことではあります。少しで英語に関する厳しい環境におけるかが大事だと考えているので、クラスの変更をしました。

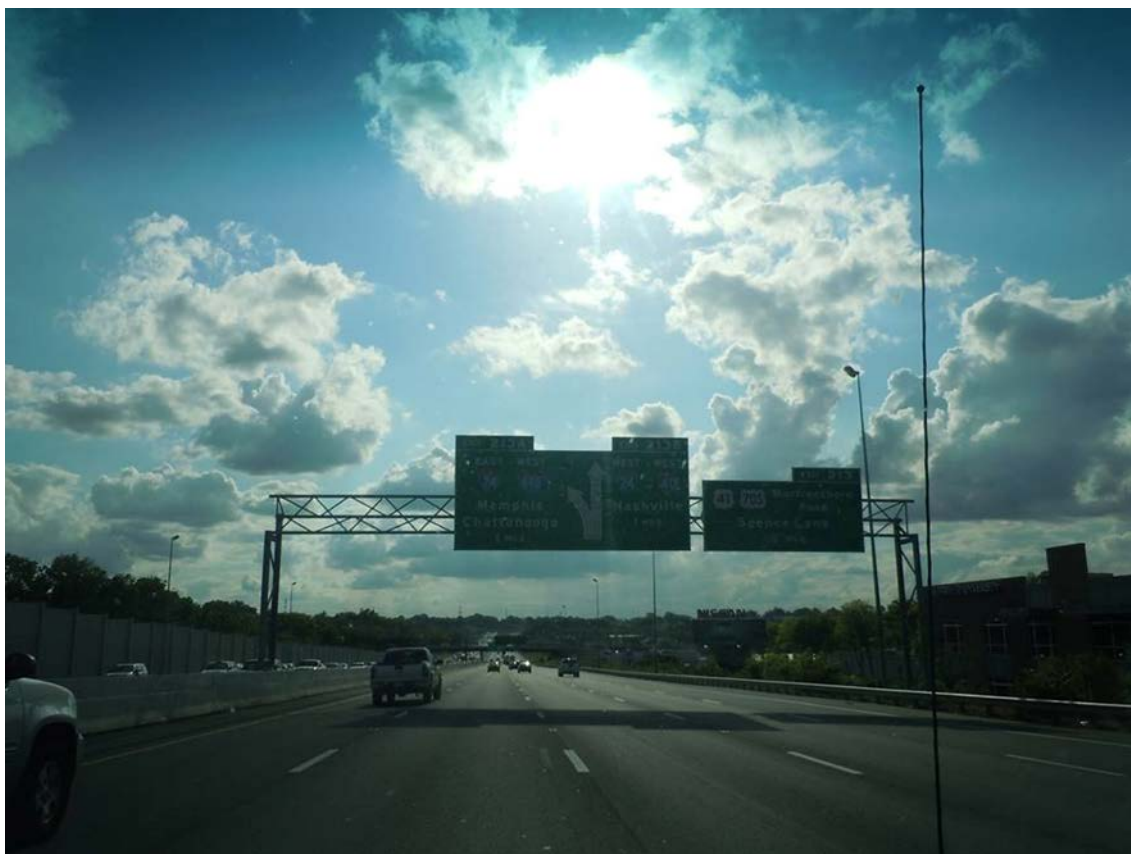
秋学期と比べると授業のコマ数は結構減ったので時間的な余裕もできました。歴史系の授業をとっている子たちは宿題の量が毎日すさまじい量出ているのでとても大変そうでした。

留学生生活を振り返ってみると、留学中は色々と大変で早く日本に帰りたと思う時が多かったですが、非常に良い経験が出来たと思いました。改めて日本の良さが分かり、逆に海外にもこんな良さがあると感じる日々でした。私の英語はまだまだ使えるようなレベルのものではないですが、これからも継続的に勉強していき、留学したから満足ではなく、留学したからこそ見えたものを糧にこれからの人生に役立てていきたいと思います。

MTSU
(Middle Tennessee State University)

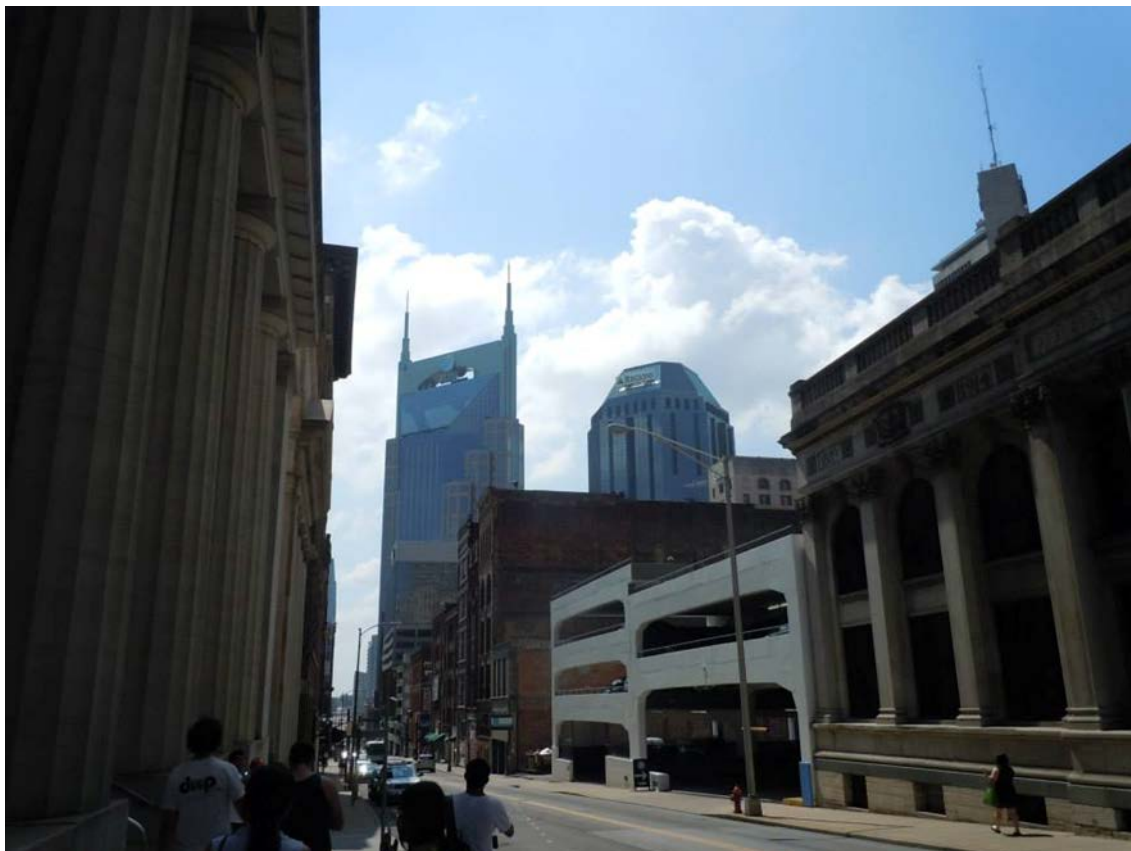
16F0161
Matsuda Jibb,

I stayed in America for 1 year, it was like yesterday for me now, as the time past I have met a lot of people from another country and made many friends. I am glad that I have joined the study program, because of this I experience a lot that not a lot of people that could have experienced.



This is a picture when I arrived at America all to me was new so I was so excited every day, when I arrived at school on the next day we had our orientation all of the exchange students where gathered in one big hall they prepared us some American food and drinks. At first I was so shy to talk with the other exchange students because I don' t talk too much but the other exchange students where so friendly so they tried to have conversation with me, it was my first inter-national

cultural experience on that day I made a lot of friends that are from different countries some are from France, Spain, Germany, Thailand, Taiwan, and many other more. The next day we had our field trip to Nashville it is the town where Hard Rock café was born and it is a music city



Everywhere we go all restaurants has its own singer and band that plays I was so amazed because I have never seen this kind of thing before.

So as the fun days has pasted it was time to go back in reality the school has started, as I take the class every day I have recognize something, I don' t see a clock everywhere in the classroom so I ask the teacher "why don' t the classrooms have a clock" and the teacher told me because it prevents the student to look at the clock and not concentrate at the class. Now I understand why the classroom at America don' t have clock on the classroom back in Japan every classroom has a clock so that is why we can' t concentrate at the class because we focus too much on other things. And I have realized that taking the class on English is so fun for me I don' t think about the time when it is going to be finished



When I was in America I didn' t only learn English but I tried to do whatever I want, One day I had received a message from a person that I don' t know and when I look at the e-mail it was from the Head rugby coach of MTSU, I was so surprised when I saw it because the coach want me to play with them for a year. So I decided to give it a chance it was more better than to do nothing so I reply my answer to the coach and said to him that I want to play with you guys, on that moment my study abroad program change into a wonderful campus life, I have met a lot of good people on the team, all of them was nice to me and as I practice with them they give me a nick name they always call me "The Ninja" because I came from Japan I really like the way they treat me, they treat me as their own brother I felt very welcome in America.



As my stay in America is getting shorter I just want to say that without the Rugby team on my side my study abroad in America would have been not so fun and one more I would just like to say that we The MTSU Rugby Team had made to Sweet16 and played with the top level teams in America. We maybe didn' t win but our bond as brothers will be not forgotten and maybe in the future I would like to visit them again.

長期留学報告書 ～私が実際に目にした中国～

華東師範大学 16F 1033 中津川 法恵

私は2年生の9月から約1年間、上海へ留学しました。海外の地へ足を踏み入れること自体初めての私にとって、何もかもが新鮮で、これから始まる新しい生活への興奮が高まるなか、人一倍不安も強かったのではないかと思います。

慣れない飛行機に揺られながら、約2時間半で上海の浦東空港に到着しました。空港から華東師範大学まで車で約1時間半かかります。友人の車で大学まで乗せていってもらったのですが、このときまず驚いたことは車のクラクションの多さです。日本では、あまり聞かないクラクションの音があちこちから聞こえてきます。これ以外にも上海で過ごしていて感じたこと驚いたこと、想像と違っていたこと、いろいろなことがありました。そのなかのいくつかをこれから紹介していきたいと思います。

私になにより楽しみにしていたことがルームメイトです。私のルームメイトは、1つ年下のモンゴルからやってきた女の子でした。英語がまったく喋れない私にとって、彼女とのコミュニケーションの手段は中国語しかありません。人見知りなせいもあり、最初はよそよそしかった私でしたが、何日も日を重ねるごとに彼女と打ち解けられるようになりました。一緒に食事へ出掛けたり、部屋で友達を呼んでカードゲームをしたり、民族衣装を借りて写真をとったりと、彼女とは半年しか一緒にいませんでしたが、とても新鮮で楽しかった時間は今でも鮮明に覚えています。

上海に着くと、まず入学登録や学生カードの作成などをします。いろいろな手続きがあるので、授業が始まるのは到着して1週間後くらいでした。私のクラスは、日本人と韓国人がダントツで多く、中でも既婚の方が大勢いました。聞くところによると、仕事の関係で旦那さんの転勤と共に移住したという方が大勢いるそうです。他にも国際色豊かで友人もたくさん出来ました。授業も本格的に始まり、友人と話す時間が増えていくにつれて、改めて感じたことは、日本人よりも断然に積極的だということです。日本の大学の講義と海外の大学の講義を比べてみるととても分かりやすいです。日本では、講師の先生が生徒に問いかけたとき、手を挙げて積極的に発言する学生はあまりいません。しかし、私のクラスは全く逆でした。周りの留学生たちは、間違いを恐れずに思ったことを発言します。とても新鮮で自分に足りないものを改めて思い知らされました。

そして、もう一つ、友人と付き合っているうえで感じたことが、外国人の英語の能力の高さです。日本人は英語が話せないということは前々から分かっていたことですが、その考えは外国人も同じです。日本へ留学したことのあるカナダ出身の友人や日本語を勉強中の中国の友人、彼女らが口をそろえて、日本人は英語ができないと言っていたのを思い出しました。英語を母国語としないベトナムや韓国など、様々な友人がいましたが、皆ある

程度の英語を話すことができます。このときもまた、英語能力のなさを実感しました。留学して感じたことは書ききれないほどであります、まず自分に足りないものを改めて考えさせられるものとなりました。

次は、私が留学をする前に想像していた中国と実際に見た中国の違いです。今日本と中国の政治関係はあまりよくありません。中国へ留学したことのある友人からは、タクシーに乗せてもらえないことがあった。などというマイナスな話をよく耳にしていたので、とても不安だったのですが、そんな心配は無用でした。上海は外国人が多いせい、お店の人も、私が日本人だと分かると日本語であいさつをしてくれて、タクシーの運転手の方も、普通に接してくれました。

実際に、病院でおもしろあたたかい体験をしたことがあります。友人が風邪をひいてしまい、学校の先生に紹介された病院へついて行ったことがあります。彼女の点滴が終わるのを私は隣の椅子に座ってひたすら待っていました。看護師が少ないか大勢の患者の面倒を見なくてはいけないため、百席近くある椅子に座って患者たちは点滴が終わるのを待ち、終わった人から椅子のそばにあるボタンを押し看護師呼び、点滴の針を抜いてもらうという仕組みになっていたそうなのですが、患者が多すぎて、私の友人がボタンを押してもなかなかやってきてくれません。来ない来ない、まだ来ないとずっと待っていると、周りにいた患者の人たちが、自分の点滴がまだ終わっていないのにボタンを押してくれたのです。中には連打していた方もいました。また、違う日には、友人と話しに夢中で点滴が終わっているのに気付かないでいると、目の前をたまたま通った人が教えてくれたこともありました。良い意味で周りをあまり気にしない、誰にでも気軽に話せる彼らはとても印象深かったです。

また、つらい体験、危ない思いも何度かしました。その中の一つめは、i P h o n e を掏られそうになったことです。一度 i P h o n e を中国でなくしていたのですが、しばらくすると警戒心が薄れてきてしまい、取り出しの楽なポケットの中に入れる習慣がしていました。あるとき、スーパーでお菓子をみていると隣の男性が私のポケットの中にこっそりと手を入れて、i P h o n e を掏ろうとしていたのです。すぐに違和感に気づき掏られることはありませんでしたが、間一髪でした。携帯などの貴重品は楽だからとポケットにいれがちですが、必ずバックの中に入れておかなければならないものです。中国に限らず、どこの国でも同じようなことがいえるので、自分の不用心さに反省しました。現地の人にはリュックですら後ろではなく前でかかえていたので、そのくらいの警戒心が必要なのだと身に染みました。他にもつらい体験をいろいろしましたが、同じくらい楽しい生活が留学にはあります。苦い思いをした今でも留学に行ってもよかったなと思います。人とふれあう、チャレンジする機会、日本ではなかなかできない体験が私自身の価値観や考えを変化させてくれたのではないかと感じています。

日本と中国の政治関係も時期によって大きく取り上げられるニュースが違ってきます。政治関係の悪化によって両国の民間同士も敏感に反発し合うことは、とても悲しいことで

す。つらい体験以外にも、なぜか生活が息苦しいと感じたことが多々ありました。お店の人に「どこから来たのか？」と尋ねられると、日本人だと言うことを躊躇してしまう自分がいます。自分を韓国人だと偽ってタクシーにのったことがあると言っていた友人もいました。それと同じようにまた、日本に留学している中国人、移住している中国人、様々な人がいますが、どこか生活に息苦しさを感じているのは彼らも同じだと思います。私たちがこれから未来に残していかなければならないものは何か、もっとよく考えなければいけないなと感じました。

留学で出会ったたくさんの仲間たちとのふれあい、今までにしたことのないさまざまな経験はきっと私自身の成長に繋がっていると思います。1年間という長いようであつという間の留学生活でした。語学を学びたいという人はもちろん、少しでも海外に興味がある方は積極的に留学してほしいです。行動してみるとということが自分を成長させるための大きな一歩だと思います。

長期留学報告書 ～一年の思い出～

天津外国語大学 16F1004 安藤 誉文

9月2日より授業が始まりました。今回の留学は去年の特別留学と同じ天津ということでとても住みやすく充実した日々を過ごしています。授業は中級2班で勉強しています。前回留学した南開大学とはクラス分けの方法が違い戸惑いましたが自分にあったクラスに入ることができよかったですと思います。クラス分けでは、テストと面接を行い先生にクラスを言い渡されるのですがそこから1週間は自分でクラス変更ができました。他のクラスの授業も受けたのですが今のクラスが自分なりにあっていると思い中級2班に決めました。

授業は口語、リスニング、総合、読み取り、映画を観賞しそれを基に授業を進める5つの授業があります。ほとんどの授業では宿題があり毎回やっていくのが大変です。また、今年はわからない単語をノートに書き出し単語帳を作っています。読み取りの授業では知らない単語が多すぎるため書くことはできるのですが、覚えきるのは大変です。なので、覚えきるため一つの文章の中から重要かつ分からない単語を5つ書くようにしています。そうすることで、書いた単語を理解でき覚えられるようになりました。

生活面では温度の変化が激しく体調管理が大変で風邪をひくことが多かったです。10月からは体調管理をしっかりして授業を休まないようにしたいです。ルームメイトがイタリア人ということで会話は中国語で行っています。また、中国語のレベルが同じくらいということで分からない言葉はお互い調べあい教えあうなど、いい環境ができていると思います。

10月は国慶節があり北京にいる友達と予定を合わせ北京と天津で遊びました。北京留学中の彼らは去年天津に留学していたため、天津が懐かしく感じたようでした。また、お互いの学校の情報を交換したり交友関係について話したりもしました。北京の大学は韓国人が多く基本的に韓国人の友達と一緒に行動していることが多いと嘆いていました。天津外国語大学でも韓国人学生は多いですが、私は日本語学科の1年生の学生と遊ぶことが多いです。知り合ったきっかけは、前学期からこの大学へ留学している友達が日本語学科の学生と食事に行く機会を設けてくれたことがきっかけです。今では週何回か一緒に勉強したり遊びに行ったりしています。中国人以外の友達ではメキシコ人の人とも仲が良くなりました。彼は実は日本に留学したかったらしいのですが、在籍する大学にそのような留学プログラムがなかったため中国に留学しているそうです。今は中国語を勉強しながら日本人の友達を捕まえては日本語を教わっています。

学習面では学期中間テストがもうすぐあり、そのテスト勉強に追われています。各教科それぞれのテストのためとても大変です。特に、総合学科は1週間前に突然言われたため

とても焦っています。この科目は 2 項目終わるごとに復習のための小テストを行っていたため中間テストはないだろうと思いついていたため、慌てて復習をしています。主に文法が中心の授業のためテスト対策は立てやすいのですが単語の再確認がとても大変です。口語のテスト内容は演劇のため書店に行き子供の絵本を買い練習しています。一人ではないため練習するのも大変ですが楽しくやっています。

11 月は、今学期初めてのクラス会をしました。クラスには韓国人、イタリア人、ロシア人、カザフスタン人などなど様々な国の人がいます。クラス会の内容は食事会でした。それぞれの国の特色ある料理を作りみんなで食べるというものです。イタリアの学生はパスタを作ってくれたのですが日本でよく見る姿のものではなく、マカロニをソースと絡めたものでした。イタリア人に聞いたところイタリアのパスタは面の代わりにマカロニを使うようです。味も日本のトマトソースとは違い、トマトの味がしっかりとしていました。日本人は日本料理を作るということで周りからの期待も大きく緊張しました。作ったものは味噌汁に五目御飯です。両方とも上手く出来美味しいと言ってもらえました。また五目御飯がとても人気があり、どのように作るのかを聞かれるほどでした。

学習面では中国人の友達と勉強しています。授業では日本の伝説を紹介したり、劇をやったりしています。劇では外国人の力の入れ方にびっくりしました。私のグループでは中国の絵本の物語を参考に劇をしましたが、ほかのグループと比べると劣るものになってしまいました。なので、来学期はもっと力を入れて頑張りたいです。12 月は学期末のテストがありとても忙しいです。また、帰国してしまう友達のお別れ会への参加など遊びと勉強を両立していくのが大変です。

12 月はテストがあったということで勉強尽くしの 1 ヶ月でした。学校がある日は帰宅後から夕食前までと夕食後から 10 時前後まで勉強という日々が続きました。大体 1 日 3 から 4 時間勉強していました。休みの日は夕方からルームメイトや同じクラスの外国人と勉強していました。一緒に勉強するときは基本的に口語の勉強をしていました。

日常生活では友達と夕食を一緒に行く程度でテストが終わるまでは勉強に追われる日々でした。テスト終了後は北京の友達と遊んだり買い物に行ったりととても楽しい時間を過ごしました。また、韓国人の友達の帰国お別れ会に参加したり、日本人韓国人合同の食事会に参加したりしました。そこでは次の学期まだ中国にいる予定の韓国人と知り合え、次の学期も楽しいになりました。

今回の留学では外国人との文化の違いだけでなく、日本での外国人のまがった認識などを知ることができたことが文化的に学べた一番大きなことです。他にも日本料理はどの国の人も好きでやはり寿司が一番人気でした。また味噌汁も人気があり味ごはんなども好まれました。意外なことはお好み焼きの認識が低く外国人からするととても印象深いものだったようです。

2月の終わりから新学期が始まりました。今学期からは高級1班で勉強することになりました。授業は口語、精読、阅读、视听说、写作の5つです。今回は前学期より授業の時間が少ないですが高級1班ということで内容も難しく、忙しさはあまり変わりません。始めは授業でなかなか進めなく、大変でしたがだいたい進めるようになりました。宿題は少なく基本的には自主勉強が中心です。また、以前から交流のあった中国人とよく勉強しています。また、今月は日本語学科の学生と交流会がありました。中国人学生が企画したため内容がいまいちでした。今学期は天津外国語大学の日本人会会長をやることになり交流会に積極的に参加、企画をしたいと思っています。

生活面では、名学から3人留学に来たので一緒にいることが多いです。最近は勉強していることが多くとても忙しいです。また、気温の変化が激しく体調管理が大変で風邪をひくことが多かったです。風も強く外に出るのが嫌なこともありましたが授業はしっかりといけています。最近では韓国人の会長と日韓運動会の計画をしています。これは毎学期行われる伝統的なもので、学校が計画するのではなく生徒自身ですべてを計画するというものです。なかなかみんなの日程が合わず大変苦労しています。

4月はとても忙しい1ヶ月でした。日韓運動会、中間テスト、日本人会の計画、などなどとても大変でした。日韓運動会は金曜日に行いました。多くの人に参加してくれとても楽しかったです。しかし中国人学生の授業との関係で予定よりも2時間スタートが遅くなってしまい予定していたすべての競技ができなかったのが残念でしたが、とても楽しくできたのでよかったです。運動会後はみんなで打ち上げをやりました。また学校企画の留学生運動会もあり参加しました。そちらでは、バルーンを使った競技や綱引きまで幅広い競技ができて楽しかったです。月末にクラス会に参加しました。クラス会はほとんどの生徒が参加しとても楽しかったです。

今月末に中間テストがあり、準備が大変でした。一部の授業では珍しく持ち込みの良いテストがあり助かりました。

5月は学校主催の運動会と文化祭がありました。国ごとに分かれ飲食の屋台を出しました。日本人会はお好み焼きを作りました。学校から補助金が出たので損失のことを考えずに安くお好み焼きを作ることができました。自分は日本人の代表だったので他の国の食べ物を食べることはできませんでしたが、店番をしながら多くの外国人と交流することができ大変満足に思います。学校主催の運動会は体調が悪く競技には参加できませんでした。学校主催ということで自分たちのみでは用意できないものが用意され競技をやっており少し羨ましかったです。

6月に入り最後の期末試験の勉強がとても大変でした。皆それぞれ勉強が大変だったよう

で遊ぶ時間も少なくなりましたが、時折クラスの皆が時間を作り少人数ではありましたが最後のお別れ会なども催してくれたこともありとても満足のいく月にもなりました。

最後になりますが留学したこの 1 年間で語学能力はもちろんのこと、様々な活動を通し自分の成長を感じることもできる 1 年間でした。特に日本人会の代表として活動の計画を立てたり、イベントを開催できたりしたことは自分の力になったと感じています。

日本に戻り中国語を使う機会は少なくなると思います。その中で自分が行動を起こし、語学能力の維持、向上できるかが今後の課題であり留学にいき本当に成果が得られたかが問われてきます。そのためにも卒業までの 1 年半頑張って自分の向上に努めていきたいです。

長期留学報告書

～人間留学～

東義大学 16C1027 大須賀 浩紀

私は2013年9月から2014年7月までの約1年間、韓国の釜山にある東義大学に交換留学生として派遣されました。東義大学は医学研究が活発に行われており、薬としても美容としても用いられる漢方でも有名です。

私は1度きりの海外旅行、当然海外生活の経験もなし、その上‘はい’‘いいえ’以外まなならない韓国語能力で留学を決めたため、これから始まる生活に期待を感じつつも不安が多かったように覚えています。日本語のできる先生が金海空港まで迎えに来ていただき、学校に着くと日本人留学生担当の先生にキャンパス内の案内、寮の設備、これから1年間の大まかな講義内容の説明などしていただきました。やるべきことの中に外国人登録証の申請があります。対外協力部から案内があるため個人的に動くことは特になにもありません。外国人登録証を持つことによって銀行口座の開通、携帯電話の購入などが可能になります。銀行口座の開通はキャンパス内にも釜山銀行の東義支店があるため、そこで口座を作りたい旨を伝えることができるなら1人で行っても問題ありません。しかし、韓国の携帯電話の仕組みは複雑で、スマートフォンの提示価格はショップごとに異なり、契約内容も多種多様です。3ヶ月という期間のサイクルがあるらしく携帯会社によって契約できる時期も異なります。実際韓国人の友達と4軒回りましたが、言われた値段は全て実際の値段よりもはるかに高いもので、中には私が外国人であるために申請金が必要とありもしないことを言われたこともあります。結局友人に知り合いの携帯ショップを紹介してもらいそこで購入、契約しました。それらのことは、私達が善悪を見分ける必要があり、日本人だけで判断することは難しいと思います。金銭トラブルを起こさないためにも、このようなことは知っておかなければいけないことだと感じさせられました。

ここで、2014年8月現在、私が知っていることを簡単に書きたいと思います。まずキャンパス内ですが、釜山は名前からも分かるように山が多い町ですがその中でも、東義大学は釜山の大学中でも高低差があり1番奥の校舎まで徒歩で通うことは大変だと思います。そのためキャンパス内専用バスの利用をオススメします。このキャンパス内専用バスの運行時間は朝7時前後から夜11時までです。元々無料運行されていたこのバスもさまざまな理由から今年8月15日に有料化され、時間帯によっては人数関係のため来たバスに乗れないことがあるので余裕をもっていくことが大切です。ここで、韓国でバスに乗る上で注意しなければケガをしてしまうことがあります。バスと言っても日本のバスを想像してはいけません。もちろん、バスの形体は同じですが韓国のバスは前払いです。交通カードで支払うと多少の割引があり、そのカードは駅でもコンビニでも手軽に購入できます。また、東義大学の学生証の中にもその機能が入っているため有効利用することも可能です。運転手は客が支払いを終えたことを確認すると席に座る間もなく急発進をし、信号で急停止し

ます。現地の乗り慣れた方でも転ぶ方いるほどです。日本のように安全に安心して乗れるようになるまでは時間がかかるかもしれません。

1学期に1人もしくは2人チューターといって留学生活を手助けしてくれる韓国人学生がついてくれます。チューターは必ずしも外国語ができるというわけでもありませんが、授業や私生活など先生には聞けないことを教えてくれたり文化体験もチューターとともに行動したりするので重要な存在でした。

大まかな大学のスケジュールとしては、9月上旬から12月下旬が前期、3月上旬から6月の下旬が後期にあたります。先ほどの通り私は決して韓国語ができたわけではありません。留学を充実するものにするためにも最低限の語学、韓国の文化を知る必要があると思います。前期はまず午前9時から午後1時まで語学堂に通います。始めにテストを行い韓国語能力別にクラス分けされ、書き、聞き取りなどを他国の外国人留学生と学習します。東義大学の語学堂は比較的生徒の意見が通りやすいと感じたので、講義内容に不満、改善があるならば遠慮せず先生に言うこともできたと思いますし、宿題の量もさほど多い方ではなかったと思ったのでいかに自主学習で他人に差をつけレベルアップができるかが大事だと感じます。語学堂と東義大学の本講義は別の機関でありスケジュールが異なり、午後からは東義大学の本講義を韓国人学生と一緒に受講します。前期は交換留学生のために受講しやすい講義をいくつかピックアップしていただけるので、対外協力部の先生を訪ねました。当然かもしれませんが、語学堂のような授業中の配慮など一切ありませんでした。韓国人学生と同じように課題をこなし、同じように定期試験を受けなければなりません。まだ友達を作ろう、できたらいいな、といった余裕はなかったように思います。

名古屋学院大学の交換留学生の後期は東義大学の前期にあたる時期です。別れの時期でもあり出会いの時期でもある、春。韓国では、ともにお酒を飲み仲良くなろうという文化があります。そのため飲み会の席が多く設けられます。お酒は苦手なのでそのような場に抵抗はありましたが、日本人留学生がいるということで日語日文学科の新入生が積極的に話しかけに来てくれたおかげで仲良くなれました。

基本的に語学堂は半年で修了し後期からはすべてが東義大学の本講義に移ります。友達の幅も広がり自分の時間を上手く作れるようになります。この時になり前期に何をしておくべきだったのかよく分かり後悔したように思います。後悔することは人それぞれ違うにしろ他の日本人留学生も少なからず感じたらしく、前期の内に後期の留学生活を見据えてどれだけ自分に投資できるかがポイントだと感じました。

半年が過ぎれば余裕も生まれ、さまざまなことに挑戦できました。韓国に滞在中の外国人が集うサークルに加入し伝統料理を食べに行ったり、文化遺産を見に行ったり、母国の美味しい食べ物を紹介したりしました。キムチ作りは想像以上に技術が必要でうまくできませんでしたが、釜山国際花火大会や釜山国際映画祭などの祭典にも足を運び韓国にいても普段できない貴重な体験が楽しくできましたと思います。

1年という長いようで短い留学生活を終え、留学希望者の面接中、先生方に言われた“語

学だけでなく文化や取り巻く環境も学ぶこと”が分かったような気がします。当時は“はい、分かりました”と言ったものの正直、語学留学として行くのに学ぶ対象がいくつもあることに疑問を感じ、留学中もその言葉が引っ掛かっていました。帰国後、家族や友人と再会し言われることは“なんか変わった”この言葉です。それも容姿でなく話し方や話す内容が変わったと。考えてみると韓国に行き人種も年齢もさまざまな人と付き合い、習慣が違うところで住むことで知らず知らずのうちに刺激を受けていたこと、実際に現地の方々とコミュニケーションをとり生の声を聴くことで、物事をより客観的に見たり引き出しの数が増えたりしたのだと思います。学習面でも影響を受けました。韓国人学生の勉強に対する熱心さは日本でも有名だと思います。定期試験時は図書館が24時間開放され、10階ほどある建物も全て予約席で埋まります。そんな環境で生活していると、机に向かう時間が今までいかに少なかったか思い知らされました。ある日、友人にこんなことを言われました。“みんなが勉強しているからって同じようにやっけてどうするの？みんながやってない時だからこそやらなきゃ” 普段聞きなれた言葉でも環境が違えば響きも違うように思いました。聞こえが悪いかもしれませんが大学は遊ぶところと思っている日本人学生は多いと思います。そんな時だからこそやる必要があり、やがて選択肢をひとつでも増やせるのだと思います。数日後には3年生の2学期です。大学生生活残り多くはないですがそのようなことに気づけただけでも宝だと思っています。いくら隣の国と言えど言葉の壁やカルチャーショックを受け理解できない部分も多々ありました。日語日文科で留学経験が無いのに日本語が上手な人、留学経験が無ければ日語日文科でもない人、周りにはそんな学生が少なくなくそれなのに自分は…とどうしたらいいのかネガティブになる時もありました。ですが、壁を乗り越えるからこそ成長できるのであって、それが留学だと思います。先生を始め、両親、先輩など多くの方のサポートなくしてこのような素晴らしい留学生活にできなかったです。感謝するとともに体験したことを後輩に伝えるとともに、そこから少しでもなにか感じ取ってもらえたらうれしいです。

長期留学報告書 ～初めの異国での生活～

グラント・マキーワン大学 15F0095 寺田 百合名

私は、家族のもとを離れてこんなに長く1人で暮らしたことがありませんでした。そして海外留学の経験や旅行も人生で1度もありませんでした。そんな私が留学に行けることになりパスポートを作った時の胸がおどる瞬間を私は今でも覚えています。大きなスーツケースに荷造りをしていた時はカナダで生活する楽しみで心がいっぱいでした。しかし、さすがに出発当日の家族とのお別れのときは少し涙しました。長いフライトを終えて私はついにカナダに到着しました。空港では大学の寮まで送迎してくださる人が迎えに来てくれてあいさつを交わしましたが現地の人との会話のスピードにまったくついていけませんでした。寮まで送ってくださる最中にドライバーさんが寮周辺の建物などを説明して下さっていましたが8割以上理解できませんでした。その時にもっと留学に来る前に勉強しておけばよかったと後悔しました。寮についてレジデンスアシスタントからいろいろ説明を受けましたがそこでも喋るスピードの速さについていけなくてただぼーっと聞いていました。

その時から英語を話すという恐怖心が私の心に芽生えてしまいました。エドモントンに到着してから1週間ぐらいは授業がなかったのでいろいろエドモントンの町を一人で散策しました。そして、日本とカナダの生活はたくさん違いがあることを肌で感じました。スーパーにいても電車に乗っても全部が新鮮でした。寮でも新学期が始まる前に色々なオリエンテーションがありました。しかし、寮の部屋の割り振りは人種も英語の能力も関係ないので私は正直寮のオリエンテーションに参加することを避けていました。なぜかというオリエンテーションではたくさんの人と英語でお話しするので英語があまり喋れない私にとっては苦手な空間でした。しかし、そんな私の心知ってかレジデンスアシスタントの人が積極的に私をオリエンテーションに誘ってくれました。オリエンテーションの空間でも私のそばにずっといてくれて私に色々な人を紹介してくれました。その時に私が英語を得意ではないことも伝えてくれてみんなが私と喋る時にはゆっくりはっきり喋ってくれたおかげでだんだん寮生活にもなれて友達もできるようになりました。新学期が始まる直前に私の部屋にルームメイトがやってきました。私のルームメイトは台湾の人でした。とても優しい人でお互いに自己紹介をした時に私が英語をあまり喋れないとわかるとゆっくりに喋ってくれたりジェスチャーを使ってくれました。そして私があまりネイティブの人と話す機会がないことを知った時には彼女の友達を紹介してくれたり一緒に遊びに行こうと誘ってくれました。そして彼女はしゃべることが苦手な私のために時間が合うときには夕食を一緒に作って一緒に食べたりしてたくさん会話を私としてくれました。常に私のことを心配してくれる彼女は私のお母さんのような存在でした。私に何か困ったことがあれば

いつでも助けてくれるし積極的に私と会話をしてくれて私は彼女に出会えて本当によかったです。彼女と同じ部屋で生活が出来て私のエドモントンでの生活は充実でした。彼女と出会えたことは私にとって宝物です。エドモントンをお互いに離れた今でも彼女とは連絡を取り合っています。大学の授業が始まって私にもクラスメイトができてその中で友達がたくさんできました。私は3科目履修をしていました。Reading & Writingの授業はとても少人数のクラスメイトでした。人種を年齢も違うクラスメイトとははじめはなじめずあまり会話をしませんでした。しかし、先生が授業で積極的にクラスメイトと話す機会を与えてくださったので日がたつにつれてだんだんと放課中にもクラスメイトと話すようになりました。みんな英語のレベルは一緒だったので私は彼らの話す抵抗感などはありませんでした。

私がこの授業で印象に残っているのは、自分の国をみんなの前で紹介して自分の国について知ってもらおうという授業内容でした。私の知らなかった国もたくさんあって勉強になったし日本との違いを比べてみた時に新しい発見もありとても楽しかったです。そして、私が一番驚いたことはみんなが日本をとってもいい国だと思ってくれていたことです。私は日本から出たことがなかったので日本以外の国から見た日本のイメージを全く知りませんでした。みなさん日本の独特の文化にとっても興味を持っていてくれて私が発表した後にとってもたくさん質問してくれました。みんな日本についてもっといろんなことを知ろうとしてくれていました。私は日本人に生まれてとても誇らしかったです。そのあとのみんなでお互いの国の伝統料理を作って持ち合って食べ比べをしました。こんなことは日本ではできないことなのでとても良い経験ができました。この授業では毎週本を読む宿題があって読んだ後に感想文を書いてそれを本の紹介と交えながらみんなの前で発表するという宿題がありました。最初は英語で本を読むことは私にとってとても大変でした。なかなかすぐに終わるわけもなく最初は時間がかかって大変でした。しかしそれを継続していったらだんだん本を読むスピードも速くなっていきました。日本ではあまりこういうことをやってこなかったのでせっかく身に着けた速読をこれからも継続して伸ばしていきたいです。2科目目は、Speaking & Listeningの授業でした。この授業は私にとって一番苦手な授業でした。日本に居ては英語の喋る機会がとても少なくTOEICやTOEFLでもこの分野の点数はほかに比べてとても低かったです。先生はとても面白い先生で冗談を言ったりリアクションが大きい先生でした。先生はよく生徒全体を見ていて発言が少ない生徒には積極的に意見などを求めていました。そしてよくクラスメイトの前に立って喋らすようにしていました。最初はみんな恥ずかしがって小さな声や短文でしか喋らなかったのが学期が終わるころにはみんなが自主的に手を挙げて発言することに恥ずかしさを持っていなかったです。この先生はプレゼンテーションが多くそれも、チームでやったり個人でやったりと形式の多様でした。プレゼンの内容を難しい事柄ではなく少し変わった面白い内容が多かったです。例えば発明品を自分で作ってそれを発表したり、歴史人物になりきって会話をしたりとても面白かったです。最後の科目は、Pronunciationのクラスでした。このクラスではた

くさん CD を聞いてたくさん発音の練習をしました。ネイティブではない私たちは英語を話すときに大きな声ではっきりと話す練習をしてきました。そして私たちが聞く CD も大きな声ではっきり単語を発音してくれているものが多いので、ネイティブの話した時に単語と単語をつなげて縮小して話すことに耳が慣れていなくて聞き取ることがとても大変でした。そしてよりネイティブに近づくために私たち自身も発音の練習をしました。日本人は英語の発音で苦手な発音である L と R の発音はやはり先生にも指摘されたので先生にコツを教えてもらって何回も練習をしました。日本人には同じに聞こえる音でもネイティブにとってはとても大きな違いがあつて、あらためて英語を完璧に喋れるようになるためにはもっと努力が必要だと感じました。同じ単語を発音しているのに何人かの違う国の人が発音するだけで違う単語に聞こえてしまうことがたくさんありました。普段の生活の中でいろんな人種の人が出てみんな同じ言語である英語をしゃべっているのに聞き取りにくい人がいたり逆に聞き取りやすい人がいたりしてそういう経験は日本ではできないのでとても勉強になりました。

私がエドモントンで生活する中で思ったことがあります。それは人種差別です。学校で過ごすときは全く差別などは感じなかったのですが、学校の外に出ると少なからずアジア差別がありました。例えば、少しでも英語が聞き取れなくて聞き返すとすごく冷たい対応をされたりしました。とても悲しかったけれどそんなことを気にせずに日本人であることに誇りをもって生活しようと思いました。そして今回の留学の中で経験して思ったことは自分勝手な先入観はもってはいけないということです。私は、エドモントに来る前にたくさん先入観がありました。例えば中国人は自分勝手だとかアフリカ系アメリカ人は知能が低いなど。しかし今回の留学を通して自分の間違いに気づきました。1人1人のきちんと見て判断しないといけないと思いました。決して中国人みんなが自分勝手ではなくとても優しい人達ばかりでした。アフリカ系アメリカ人の人は私以上に勉強に対する姿勢が高くみんな一生懸命勉強に取り組んでいました。今回、初めて自分が差別を経験した事もあり自分が持っていた先入観や差別は決して持っていないと勉強になりました。留学を通じ語学勉強だけでなく、文化の違い・考え方の違い・食生活の違いなどたくさんを学びました。そしてたくさんすばらしい出会いもありました。すべてが私にとって宝物です。この経験を決して無駄にすることなく将来につなげてゆきたいと思います。

長期留学報告書 ～Host country での生活～

アルゴマ大学 16F2023 黒田 秀世

私は2013年8月16日から2014年4月30日までカナダのSault Ste. MarieというTorontoから飛行機でおよそ2時間離れた郊外の町にあるAlgoma 大学に交換留学生として通いました。

9月から始まるESLの2週間ほどまえにSummer Study Program というスタディーツアーに参加しました。このツアーではこの町についてよく知ってもらおうという目的でいろんな所を回ってみていくという内容でした。そこでは日本の各地方から同じ交換留学生としてきている日本人の学生や、韓国、メキシコ、中国から来た学生さんも参加していました。これは新しい友達を作るとても良い機会なのではないかと思います。

9月からESLの授業が始まり、9月から12月まで私は一番上のレベルから2番目のL3のクラスに所属しました。文法の授業では、簡単な文をととても深い所、例えば、微妙な意味の違い、種類、文法の説明に使われる単語など私にとって初めて習うことばかりでした。毎週の月曜日に小テストがあり、この成績が最終成績表に大きくかかわってきましたので、毎日5時から12時まで図書館で勉強をしていました。しかし、そういう辛いことばかりでなく楽しいこともたくさんありました。私はTown House という学校の寮に住んでいたので、ルームメイトが4人いました。カナダ人が2人、韓国人が2人です。彼女らと話すのは絶対に英語でなければならないのでとてもSpeakingの練習になりました。この時期ではThanks Giving day と呼ばれる北米の国にとって大事な祝日があり約1週間の休暇があります。その期間ではあるカナダ人の家庭にお邪魔してお祝いの料理をたべたり、ルームメイトと一緒に食事に行ったりしました。Halloweenでは、本格的なコスプレをし、みんなでパーティーを開いたりもしました。12月の中旬から3月の上旬までスキー場へ毎週末いていました。この町はととても寒く、一番寒い時期はマイナス40度ぐらいまで下がります。しかし、冬のスポーツはととても盛んでスキー以外にもスノーボード、アイスホッケー、スケートなどを体験することができます。冬休みには5日間Quebec City というカナダでも数少ない第一言語にフランス語が使われている町へオーストリアの友達と一緒に行きました。ととても寒かったですけど、フランスの街並みがととてもきれいでした。

1月から4月までの期間、ESLのL4のクラスに所属し、今度はどのように英語のレポートを書くのかについて学びました。また、この期間中にJapanese night というイベントを学校が主催で開催されました。このイベントはSault Ste. Marie の方達に日本とはどうい

うとろなのかというのを知ってもらうのが目的です。いろんな人達と交流を深める良い機会でした。私は2月3月ごろにカルチャーショックやホームシックにかかったりもしましたが、それらを乗り越えることによって自分の心の成長につなげることができました。この留学経験は、私にとってかけがえのない宝物になりました。



中期留学報告書 ~学ぶことの多かった留学生活~

アルゴマ大学 15F0023 大野 将平

中部国際空港に着くまで、カナダに留学に行くという実感がありませんでした。私は一年生の頃から留学を目指していたので、留学へ行けることに決まったときから行く少し前まではとても楽しみでした。しかし空港に着くと急に実感が湧いてきて、決して留学へ行きたくなくなったわけではありませんが、家族や友達などの事を寂しく思いました。それは半年経った今でも鮮明に覚えているほど経験したことのなかった思いでした。

韓国とトロントを経由し、アルゴマ大学のあるスーセントマリーまで行きました。ホストファザーと最初に会った時は優しい人だなと思いました。ホストファミリーは今までに日本人の生徒を長くホームステイさせていたことがあったらしく、日本人のことが好きだと言っていました。海外に来ることが初めてではないにしろ、不安がたくさんあった私からしてみると嬉しい言葉でした。ホストファミリーはお父さん、お母さん9歳、5歳、2歳の男の子が3人いて、少し騒がしいですが楽しそうな家庭でした。何しろ私は子供が好きなのでとても嬉しかったです。家はアルゴマ大学から少し離れたところにあり、大きくは無いですが綺麗な家でした。私の部屋はたいていのカナダの家にもありますが地下にありました。夏は涼しく冬は暖かいところです。後でいろいろな人に聞くと、たいていの留学生の部屋は地下室だったそうです。

授業が始まるまでの2週間はサマースタディープログラムというものに参加しました。これは新しい留学生がカナダやスーセントマリーのことを知るために、学校が主催した無料で参加できるプログラムでした。メンバーはだいたい20人で2つのグループに分けられました。20人中の半数以上が日本人でしたが、日本人同士でも皆英語を使うように心がけていました。私はその中でも英語の力が弱いことに気づいていました。私は人見知りなところもあり、友達がなかなか出来ませんでした。他の日本人の留学生は日本人以外と話したがるのは自然でしたし、中国人の留学生が私に積極的に話しかけてきてくれても、なかなか英語を聞き取れずに罪悪感ばかり募っていきました。今までの人生でとても辛かったことはたくさんありますが、友達が出来なかったのは初めての事だったので、友達が出来ない苦しみはこういうことなのだと思ふとともに、また一つ初めての経験を得ることが出来て良かったなと思うことにしました。サマースタディープログラムではいろいろなところへ行きました。美術館、町のジム、日本食のレストランへ行ったりと、内容としては楽しいものでした。中でもアメリカとの国境にある川と川沿いの道はとても綺麗でした。スーセントマリーの中で一番好きな景色なので、もし機会があればまた行きたいです。

ホストファミリーの家では特に驚きというものはありませんでしたが、暮らしの中の一つ一つの些細な事が文化の違いだと学びました。トイレを使い終わったらドアを少し開け

ておくことも知りませんでしたし、一家に一つ他の家と同じゴミ箱があり、それを業者が回収しに来たり、家と家の間に塀がないことなども知りました。家の庭にはリスもいて、動物園でしか見たことのなかった私は感動しました。ホストファザーは車の中などでもいつも話しかけてくれる気さくな人でした。ホームステイしていたのは1週間だけでしたが、とてもいい人達の家は何不自由無くホームステイさせてもらい、いい思い出になりました。

レベル分けテストが終わった後日、クラスが発表されました。私は一番下のクラスへ入りました。本当に自分に腑に落ちませんでした。決まったことは仕方ないと思い頑張ることにしました。私が入ったレベル2には私を合わせて生徒が6人いました。日本人2人、中国人3人、韓国人1人でした。アジア系の人しかいなかったのも少しがっかりはしましたが、人数が少ないので授業が受けやすそうだなと思いました。私は韓国語を独学で勉強していたことがあったので、韓国人の生徒とはすぐに仲良くなることが出来ました。その後も人数が少ないということもあり、全員がすぐに仲良くなりました。授業は6つほどあり、どの先生もカナダ英語の中にも少し違いがあり面白かったです。ただ、カナダ人の誇りであるカナダ英語の「Eh?」という表現は全員使っていて、カナダ人の愛国心の強さを知りました。授業はとにかく課題が多かったです。とくにリーディング&ライティングの授業では毎週文章を書くジャーナルが4～5つほど出て、他の課題などもあるのにそれだけでも大変でした。

授業が始まると友達が出来始めました。ホームステイを出てからは学校からすぐ近くの寮に入ったので、ご飯の時や寮の周りなどで会ったりして友達までとは行きませんが、いつも声をかけてくれる人など知り合いのひとはたくさん出来ました。この頃から留学は大変ながらも楽しいと思えるようになって来ました。寮ではルームメイトがいました。中国人の人でしたが、ベッドルームが別々でトイレのみが共用だったので話すことはあまりありませんでした。しかしその分プライバシーは確保されていましたし部屋も広かったのでとても快適でした。今まで一人暮らししかしたことがなかった私が寮暮らしをしてから気づいたことは、静か過ぎると少し落ち着かなくなるということでした。家は普段はうるさいとしか思わなかったので自分でも少し驚きましたが、また新しいことを知ることが出来て良かったです。洗濯機を使うのも初めてでした。洗濯機を使うときは一回の料金が決まっていたのですが、新しく出来た友達と共同で使っていたので安く済ませることが出来ました。寮に来て最初の1週間で親の大切さが身にしみました。

私は一つ違和感を覚えたことがありました。それは勉強に関してです。私は普段手軽なサイズのノートを持ち歩いています。そこには授業中やその他生活の中で初めて知った英単語や習慣、文化などを書き込んでいるもので、少し開いた時間があれば見えています。それを休み時間に見ていたとき、何で勉強してるの？や次の時間テストあったっけ？などと聞かれたことがあります。また放課後に図書館で勉強することが多かったのですが、その際にもあった人などに Good student! などと言われたことがあります。他の学生がやる気が無いと言っているわけではありませんが、そう言われると自分は頑張っていると思ってし

まい、だらけてしまうこともありました。しかし私がある程度やる気を維持できたのは中期留学だったということでした。4ヶ月の間で集中しないといけないと思えたからです。アルゴマ大学に私と同じ時期に入ったESLの学生で中期留学だったのは、全員の中で私一人だけでした。日本人のほとんどの留学生は1年で、中には1年半の人もいて、私から見ると余裕がある人もたくさんいました。そういった人たちにも負けたくないと思えたのが良かったです。もう一つ長期留学ではなく中期留学で良かった事があります。これも英語へのやる気に関してです。サマースタディープログラムの間は日本人の間で英語を話すことが日本人の一つの特徴である、‘暗黙の了解’のようなもので決まっています、皆がほとんどいつもは英語を話していました。これは、私は暗黙の了解で決まっているとは思いましたが、留学に来ているので当たり前だと思っていました。これが9月になると英語で会話する日本人は大幅に減り、私は日本人の友達と昼を食べている時に英語を話していましたが、それもまた褒められました。このようにして12月には私も含め日本人同士で英語を使う人はほとんどいなくなりました。日本語で話している時に感じる、留学に来ているのに日本語で話していることに対する罪悪感、日本人同士で英語を話している時に感じる、なんとも言えない気まずさ、それらは日本人だけが感じるものだと思います。罪悪感の良いとして、気まずさは絶対に気にする必要は無いと私は思いますが、これに気づいたのは私自身もこれを感じたからです。特に私は日本人の中でもクラスが一番下だったので、話している時に発音や言いたいことが上手く言えないことなどを気にして話しにくいということがありました。それに比べて日本人が2人しかいない私のクラスでは英語を使うことに何の躊躇もありませんでした。クラスでは周りの目に気を使う必要がないことなども、そのクラスに入って本当に良かったことの一つです。日本人の中には英語を使うことを自分たちで強要して、ほとんど普段話さなくなった日本人の人たちもいます。そのような英語を使うことに対する恥ずかしさや気まずさを克服するのも、英語を学ぶことに対する一つの重要なことだと思いました。

中期留学報告書 ～トロントでの6カ月～

ジョージブラウン大学 16F0105 傍島 佳奈子

私はカナダ、トロントで約半年間生活した。最初の4カ月は公費の学費をいただき、あとの2ヶ月は自費でジョージブラウン大学のESLのクラスに通った。初めに、ジョージブラウン大学での授業についてだが、毎朝9時から1時までであり、月曜と火曜から金曜の2人の先生から授業を受けていた。月曜はListening & Pronunciationで、火曜から金曜はGrammar, Reading, Writingなどが主な授業内容だ。2か月ごとに1セッションの区切りがありレベルが替わるのだが、最初のクラスには私しか日本人がいなかったので不安もあった。しかし、国籍も年齢もさまざまなクラスメイトと一緒に勉強するのはとても面白いと思った。授業では小説を教科書代わりにしてその内容についてディスカッションしたり、パワーポイントを使ってプレゼンをしたりとさまざまなアクティビティーが評価につながってくる。また、通常の宿題に加え、オンラインでの課題もあった。毎週、2時間をめやすに作られているそうだが、私はそれ以上に時間がかかってしまっていたので少し大変だった。午後からはワークショップが開かれるので、興味があるものが開かれる場合は参加していた。各セッションが終わる直前には、プレゼンテーションがあったり、listening, grammar, writing それぞれにテストがあったりと、少し慌ただしかった。最初のセッションのときのプレゼンテーションのテーマはカナダの有名人についてで、5～7分程度だった。日本でも授業で英語のプレゼンを行っていたので、プレゼンに対してそれほど抵抗も感じなかったし、経験があったおかげでパワーポイントの作り方や印象に残る内容にできたと思う。プレゼンは作り上げるのに時間もかかるし、何度も練習しなければいけないし、緊張もするが、やり遂げた時には達成感が感じられ、とてもよい経験になった。ほかの人のプレゼンも、見ていて参考になることが多いので刺激がもらえる授業だと思った。また、期末テストで一番大変だったのは、評価の30%分となるwritingテストだった。問題数は少ないが、それぞれにパラグラフやエッセイを書かないといけないので、限られた時間で解くのは簡単ではなかった。すべてのテストが終わり、セッションの最終日にはクラスのみんなでお菓子などを持ち寄り、ささやかなパーティーを開いた。このときに評価をもらったり、記念撮影をしたりしてクラスの解散を惜しんだ。クラスメイトとは、クラスがばらばらになってからも一緒に買い物に行ったり、ご飯を食べに行ったり、日本に帰ってきてからも連絡をとったりするくらい仲良くなれたので、そのような関係を築けて嬉しかった。

私のホームステイ先は、学校からバスと地下鉄とストリートカーを乗り継いで40分のところにあった。家族は、マザー、ファザーと3歳の女の子、そしてファザーのいとこと一緒に暮らしていた。フィリピン人なのでみんなとても明るく、いつも賑やかな家庭だった。

ほぼ毎週末だれかの家に集まってホームパーティーがあり、フィリピン料理を食べながらビールを飲むのが楽しみの一つとなっていた。10月にはホストシスターの4歳の誕生日があったので、家に友達を呼んでパーティーをした。マザーが私の友達も呼んでもいいと言ってくれたので、中国人の友達を誘った。パーティーの前日から家のデコレーションが始まり、家具を移動させたり、風船でゲートを作ったりと、とても疲れたが、完成した時にはクオリティが高いものになって、みんな満足していた。当日も朝からマザーとファザーはずっと料理を作っていて忙しそうだった。しかし、子供のために楽しいパーティーを開こうとしているのを見て、すごく感動した。ホストシスターはディズニープリンセスのドレスを着て、みんなからプレゼントをもらっていて嬉しそうだった。私は友達にホストファミリーを紹介できて、一緒にパーティーを楽しめてとても充実した時間が過ごせた。また、私の誕生日のときも、同じようにパーティーを開いてくれてホストファミリーが私のことを本当の子供のように扱ってくれてとても嬉しかった。

ある日、クラスメイトだったイラン人女性の家に招待してもらった。彼女はトロントに約6年住んでおり、子供たちは大学を卒業して働いている。私は今までイランがどのような文化なのか知らなかったが、家に入るとペルシャ絨毯など高級な家具がいっぱい置いてあり、恐縮してしまうようだった。一緒に行った友達もとても緊張してどうしていいかわからないと言っていた。ディナーをいただいたのだが、初めて食べるイラン料理は珍しいものだったがとてもおいしかった。また、この日は今年初めて雪が積もった日でもあった。まだほんの2~3cmだったが、街が真っ白になり、特に夜は街灯やイルミネーションの光が反射してきれいだった。彼女の家もより一層豪華に見えた。

トロントでは毎年サンタクロースパレードが行われていて、たくさんの人が集まる。私も見に行ったのだが、パレードが始まる前から大勢の人が沿道に集まり、とても混雑していた。パレードには、マーチングバンドや大きなフロートがいくつも登場したり、市民が動物の着ぐるみを着て参加していた。その日は少し寒かったので、私は1時間ほどで見物するのを諦めてしまい、パレードの最後に来るサンタクロースたちを見ることはできなかった。それでも、にぎやかな雰囲気を楽しめた。家でも11月からツリーを飾るなどして、クリスマスが待ちきれない様子だった。当日はいつものようにホームパーティーがあったが、ゲームをしたり、プレゼント交換をしたりでみんなでわいわい盛り上がり、日本のクリスマスとはまた少し違う経験ができた。

トロントはカナダの中でも海外からの移民が多い都市で、学校のクラスメイト以外にも街に出るとさまざまな国から来た人に出会えたり、さまざまな国の料理が食べられるレストランがある。その国の人が多く集まる〇〇人街も多く存在し、そこへ行くとその国の雰囲気が味わえたりする。特にチャイナタウンが一番大きく、レストランやスーパーマーケットがあったり、中国のものが売っていたり、娯楽施設があったりするので、多くの中国人が集まる。クラスメイトには中国人が多かったので、たくさんの友達とよくチャイナタウンへ行っていた。また、トロントには大きなショッピングモールが2つあり、いつもた

くさんの人でにぎわっている。地下鉄の駅から直結で便利なので、よく学校帰りに遊びに行っていた。トロントから少し足をのぼすと、ナイアガラの滝がある。トロントのダウンタウンからバスで2時間弱で行くことができ、暖かい季節には遊覧船に乗って滝の真下まで近づける。レインコートを着ていてもびしょ濡れになってしまうのだが、やはり滝を見るとその迫力に圧倒された。私はいつ見ても変わらない自然の雄大さを感じられてすごく気に入っている。また行く機会があったら今度はアメリカ側へ渡ってみたい。

私は3月に帰国したのだが、帰国の前にはやはりホストファミリーが家で送別会を開いてくれて、友達をよんだり、今までお世話になった人たちにお礼を言うことができた。みんながそれぞれに気持ちがこもったプレゼントを用意してくれて、とても嬉しかったのと同時に日本へ帰りたくないという気持ちが強くあらわれた。家族はまたいつでも帰ってきなさいと言ってきて、今度来たときはあれをしようとか、あそこへ行こうとかいろいろな約束をした。帰国する時も、空港まで友達が見送りに来てくれて、最後に別れる時には涙があふれてきた。海外でこのような濃い関係を築けることはなかなかないし、居場所をちゃんと残しておいてくれているので、私はとても恵まれた環境で留学生活を送れたんだということを実感した。それはホストファミリーだけでなく、友人や先生、またトロントという街、私のまわりの環境すべてに言えることだと思っている。

この6か月間の生活を通して、私は語学力だけでなく行動力や交渉力、チャレンジ精神を鍛えられたと思う。いろいろなところへ出かけたり、学費やホームステイ延長の手続きをしたり、今までならできないと思ってあきらめていたことをしてみたりと何事も積極的に取り組めた。それは、今しかできないことを全力でやろうと常に思っていたからでもあるし、カナダまで来てやらずに後悔したくなかったからである。結果的にさまざまな経験ができて、終わらせたくないと思える留学期間になったので、今後もこの6か月のことを忘れずに生活していければと思う。

中期留学報告書 ～有意義な時間～

クワントレン大学 16F0157 古川 紗矢香

私はカナダのブリティッシュコロンビア州のバンクーバーに留学に行きました。ホームステイ先の家族、学校の友人、先生との素敵な出会いもありました。留学中には日本とは異なったイベントにも参加しました。短い時間でしたが様々な経験をして、とても有意義な生活を過ごしました。休日にも家族と出かけたり、友人と遊びに行ったりととても充実しました。ただ単純に楽しかったです。留学前には不安がたくさんあり、英語の能力も思うように上がらず憂鬱な時もありました。カナダでも上手くコミュニケーションが取れなかったり、テストで結果を残すことが出来なかったり落ち込むこともありましたが、しかし帰国する前には家族や友人に『寂しい』、『また会おう』、『いつでも帰ってきていいからね』など簡単な言葉ですがとても嬉しかったです。

留学を通して『家族』、『友人』、『日本(人)』について改めて考えさせられました。この留学でたくさんの人にお世話になりました。彼らには感謝しかありません。異なる文化に触れ、母国の良し悪しがわかりました。様々な人達と話をし、『日本(人)』という国がどういう風に思われているか等、興味深い対話が出来ました。カナダで経験した事や感じた事を忘れずに、今後に活かしていきたいです。

私にとってカナダへの中期留学は、学ぶことが多くあった意味のある留学だったと思います。カナダに行って良かったです。いつかまたバンクーバーに行き、ホストファミリーや友人に会いに行きたいです。



中期留学報告書 ～周りの人たちへの感謝～

クワントレン大学 16F0114 谷口 真結

この留学は私にとって、すごく自信がついた経験になりました。私は 2013 年 8 月 23 日からカナダのブリティッシュコロンビア州にある、クワントレン大学へ留学しました。ずっと夢だった、留学という夢を叶えることが出来て今でも本当に信じられない気持ちでいっぱいです。これが初めての海外で、不安や緊張しかありませんでした。しかし、日本から応援してくれている友達や家族、カナダで優しくしてくれたクラスメイトやホームステイ先の家族、Japan Club のみんなにはとても感謝しています。

私たちが住んでいたリッチモンドという町は、日本より少し寒いかなと感じましたが、過ごしやすい気候と町の雰囲気がありました。4 か月お世話になったホームステイ先のました。全員がみんな大きな家族のようで、毎日テレビの前でスポーツ観戦をしたり映画を観たり、素敵な空間で快適な生活を送ることが出来ました。いろんなところに連れて行ってくれて、たくさんのことを教えてもらえて嬉しかったです。しかし、初めはママさんの作ってくれるご飯に慣れるまで時間がかかってしまいました。Thanks giving day やクリスマスなどの行事のご飯はいつも豪華で圧倒されました。



初めてママさんに連れて行ってもらった Stanley Park

クワントレン大学では、私は ELST の Listening& Speaking とレギュラーの中で Mandarin のクラスを受けました。ELST のクラスメイトには私たち日本人と中国人しかいませんでした。そのクラスの先生はイギリスの先生でした。留学を通して、中国人が話す英語やブリティッシュ英語、ホームステイ先の家族が話すフィリピン系の英語など、さまざまな国の特徴がある英語を聞くことが出来て、よりリスニング力を上げたいと感じました。Speaking として、ほぼ毎週プレゼンテーションがありました。教科書のテーマに沿ったものや、ペアになってするものなど、より分かりやすくスムーズに進むように練習をたくさんできたことは良かったなと思います。

Mandarin とは中国語の標準語のようなもので、私は第二言語として中国語を履修していたので、この科目を選択しました。英語で他の言語を学ぶ感覚や、アルファベットを使う現地の人が簡体字；漢字を練習しているのを見て、改めて言語を学ぶ大変さと楽しさを感じました。こちらの方が ELST のクラスより成績が良かったのは秘密です。



Japan ClubのみんなとNight Marketへ！

休日や学校が終わった後には、学校の近くのモール、バスや電車を乗り継いでいろんなところへ遊びに行きました。Japan Club とは日本語のクラスを履修していたり、日本に興味がある学生が集まってイベントを開いたり、情報を交換したりしたサークルのようなものです。彼らに交じってイベントに参加し、ミーティングに出たりしていました。

今回の留学は、カナダで体験することすべてが自分にとって衝撃と感動と興奮でした。日本に帰ってきてしばらく経つとこの約 5 か月はあっという間だったと感じましたが、カナダでの生活は本当に慣れるまで時間がかかってしまい、家族や友達ともっと積極的に話すべきだったし、もっといろんなことに挑戦したかったなど後悔しました。しかし、そんな中でも周りの人たちに応援され、協力してもらえて感謝でいっぱいです。この留学を通して、後悔も感謝も、毎日の生活で学んだすべてのことが、私を少しでも大きくしてくれたかなと感じます。カナダで出会ったすべての人、感じたことが私の宝物です。

文化の違い、人の優しさや季節などを感じてもっとたくさんの場所にいきたいと思っただし、カナダが大好きになりました。この留学の興奮を忘れないように糧にして英語をもっともっと勉強していきたいと思います。そして、たくさんの学んだことを生かして、自分の将来のこと、自分に出来ること自分がしたいことを考えていきたいと思います。



ホストファミリーにお祝いしてもらった誕生日！

中期留学報告書 ～オー・カナダ～

グラント・マキーワン大学 16F0051 小田原 滉司

僕は2013年8月から12月までの4カ月間、カナダのグラント・マキーワン大学へ中期留学してきました。留学をしたいと大学入学をする前からずっと考えていたので留学が決まったときはすごく嬉しかったです。けれど、自分のこの英語力でカナダに行ったときに初めての海外でどうにかなるのだろうかという不安がものすごく大きかったです。留学が近づいてきているという実感もあまりわからなくて、あっというまに出発の日を迎えたことを覚えています。空港には大学の友達がお別れを言いに来てくれ、4カ月間日本を離れるという寂しさもありましたがカナダに向かいました。あんなに長い間飛行機に乗ったことはなかったのでものすごく辛かったです。僕はカナダでのホームステイを希望していたので、エドモントン国際空港にはホストファミリーが迎えに来てくれました。ホストファミリーがカナディアンでなくてスリランカから移住してきた人たちだったので、最初に顔を合わせたときは正直ものすごくびっくりしました。僕が住むことになった家に行ってみると、そこには子供は住んでいなく、お父さん、お母さん、僕と同じように中国から留学に来ている2人の留学生、地下に部屋を借りながら暮らしている人の3人、合計8人の日本ではありえないような家族構成の家庭にお世話になりました。日本ではこんなことなかなかないので最初は戸惑ったけれど、いろいろな話を聞くとカナダでは普通なことみたいだったのであまり気にせず楽しく過ごせました。家庭はとても国際色豊かな環境で、いろんな国からきた人ばかりでものすごくおもしろかったです。家族の皆は初めてやってきた僕に優しく話かけてくれたこともあり、すんなり溶け込むことが出来たと思います。

授業は9月に入ってから始まりました。授業内容は名古屋学院で受けていたネイティブの授業に似ていてすこしショックでした。でもクラスみんなは他の国から来た人ばかりで日本で受けていたころの授業の雰囲気とは全く違ってそれが面白かったです。もう1つ残念だったことは、ESLの建物とレギュラーの建物が離れたところにあり、ホームステイをしていた僕にとってネイティブの人と関わる機会が少なかったことです。寮の友達が出来たおかげで多少関わる機会が増えたけれど次の機会があるなら、寮でも生活してみたいと思いました。

留学へ行き、1つ後悔したことがあります。それは日本にいるときにいろんな国のこと、そして日本のことをきちんと調べていかなかったことです。自分が思っていた以上に日本という国は先進国として知られていて、僕の知らないような徳川家の歴史の話をしてくれる人もいれば、日本のティーンネイジャーみたいにアイドルや漫画の話をしてくれたり

と日本に興味を持ってきていて質問をしてくれるという人が多かったです。自分の国の事なのに知らないことが多すぎたせいで、なかなか満足のいく答えをあげることが出来ませんでした。当然ほかの国の人と会話したとき、その人の母国について語れるわけもなくもう少しいろんなことを知っている状態でカナダに行っていたらもっと幅広い会話が出来てコミュニケーションもスムーズにとることができ、よかったかもしれないと強く思いました。英語さえできれば海外で何とかなんと勘違いしていた自分にとってこういう新しい発見をすることができたことは本当に良かったと思います。家族、センターの人たち、応援してくれた友達には本当に感謝しています。名古屋学院にいる友達、自分と同じように留学している友達がいま自分と同じように英語をがんばっていると思うと、カナダでも頑張ろうという気持ちになれたし、センターの人の努力のおかげでマキーワン大学でのいろいろなことがスムーズにいったし、両親の助けがなかったら留学に行くことが出来なかったからこの半年の留学に関わってくれた人たちに感謝します。



中期留学報告書 ～カナダ留学について～

グラント・マキーワン大学 16F0147 樋口 あゆみ

私のカナダでの留学生活に点数をつけるとすれば、70点ぐらいです。まず初めに、MacEwan 大学での授業はとても充実していたと思います。授業の内容も濃く、あまりに難しいわけでもなく、先生方もかなり熱心に教えて下さいました。授業は1ターム3クラスで、1クラス90分を1日3クラスで、週5日だったのでみっちり勉強できたと思います。また MacEwan 大学の ESL は海外留学生だけではなく、移民としてカナダに住み、仕事したい人も一緒に勉強していましたので、様々な年代の外国人と一緒に勉強するのはいいことだと思いました。そこで様々な民族の人たちの意見や思いを聞いた事が、楽しく、悲しくもありとても考えさせられる日々でした。そんな時思ったのは、私は英語より前にもっと様々な事を知ることが優先だと感じました。他の国の人たちは自分の国のことを知っているのに、私は自分の国である日本について知らない事もありました。そんな時「I don' t know」だけで片づけるのは本当に悔しくて、不甲斐なかったです。せっかく様々な国の人と出会えたのに勿体ない事をしたなと感じます。なので、これからはもっと様々なことに関心を持つように心がけようと思います。

もう一つよかった点を挙げるとすれば、日本人が少ないという点です。私が行ったときは、日本人留学生は私たち5人だけでした。あと3人ぐらい日本人の方に会いましたが、現地で4年間過ごす方たちでしたので授業が違いました。なので、英語に向き合える時間が多かったと思います。

次にカナダの環境についてですが、エドモントンは住みにくい環境だと思います。私はホームステイだったので、学校までバスで30分以上かかりました。また11月に入ると氷点下だったので、その中を通学する事が結構大変でした。ただ、バスがかなり通っていたので交通に不便は全く感じなかったです。ホームステイ先のお家は、本当に良くて何一つ嫌なことはありませんでした。ハロウィンや Thanksgiving、クリスマスも一緒に過ごすことが出来たので楽しかったです。ただ忙しい家だったので平日はほぼ家族がいなくて夜一人でいるとかはよくありましたが、特に気にはしませんでした。

総合的にみて、とても充実した留学生活だったと思います。たった4か月という短い期間でしたが、日本で過ごす4か月より遥かに内容が濃くて忘れられない日々となりました。

中期留学報告書 ～オカナガン大学での英語学習について～

オカナガン大学 15F0041 久野 孝文

カナダのオカナガン大学での中期留学について、まず大まかに感想を言うと、とても充実した語学留学となりました。セメスターが始まる前にクラス分けテストを実施して個々のレベルに合ったクラスに配置されます。テストはリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの四種類があり、その結果に応じてそれらのクラスに分けられますが、その後授業を受けていて自分のレベルに合っていないと感じれば、その旨を学校に申請してレベルを上げてもらえたり下げてもらえたりします。リーディングテストは第一問が簡単な設問、それ以降は TOEFL に似たような長文問題でした。リスニングテストは聞こえてきた質問に対しての返答やスクリプトの内容を筆記するというものでした。スピーキングテストは絵の描かれたカードを見て、「この絵の状況を出来るだけ詳細に説明しなさい」「彼は何をしているのか?」「彼は何を考えていると思うか自分の英語で説明しなさい」といった質問がされました。感覚で言うと英検の面接試験に似たようなものだと感じました。ライティングテストは、「将来自分にとって理想的な職業について自由英作文しなさい」というもので、特に字数制限はありませんでしたが、自分の体感的には解答用紙分を書いて、文法ミスをチェックしている途中で終わるといような時間の感覚でした。学内はとてもきれいでおしゃれでした。図書館は月曜日～木曜日の間朝早くから夜の 10 時まで空いていて、宿題や勉強をするには良い環境です。金曜日や土日も夕方まで空いています。

授業に関しては、スピーキングのクラスは教科書が存在しますが、基本的にドキュメンタリーやインタビューの映像を観て、それについてクラスメイトと話し合い、その後その映像の音声のディクテーションをするという流れや、クラスメイトにアンケートを取り、その情報とパワーポイントを使ってプレゼンテーションをするなど、スピーキングの授業だけあってやはり会話に重点を置いた授業でした。教科書に関しても、英語の単語帳や参考書では見かけない生活で多用する単語や表現が多かったです。

対して、リーディングの授業は教科書の文章を読み、理解度の問題、要約の作成（これは宿題にされるが多かったです）、その文章を読んでどう思うかのディスカッションをするなど、教科書主体の授業でした。長文の教科書の他に、単語の本もあり、それもまた宿題とされるが多かったです。

ライティングの授業は、英作文のルールをまず学び、それをふまえて作文をしたり、文章がワンパターンにならないために、主語になることのできるパターンをいくつかまなんだり、ものごとを詳細に伝えるために、一つの文章でこれだけの情報を入れて書いてみましょうといったこともしました。また大学受験でやるような基本的な文法の授業もしまし

た。

生活に関しては、ホームステイ生活では、ホストファミリーがケローナで催されるイベントごとに連れて行ってくれたり、ケローナはどんなところかを教えてくれたり、また食事その家の食事をとることになるので、現地の文化などに触れやすいと感じました。自分は家が学校から近いところにありましたが、ホームステイ先によってはバス通学となって早起き生活になることもあります。

洗濯物、食事の時間、シャワーを使う時間はそれぞれの家のルールによってことなります。僕の場合は、洗濯は好きな時に自分で、シャワーも好きな時に浴びられましたが、ホストファミリーによっては、まとめて洗うために「決まったタイミングでまとめて出してね」という規定だったりするようです。またシャワーも、「この時間からこの時間まで使っていていい」とか「シャワー浴びる時は一声かけてね」と言われたりするところもあるそうです。

僕を受け入れてくれたホストファミリーはとてもよくしてくれましたが、ホストファミリーが自分と合わないなあと感じたりして、どうしてもホストファミリーを変えたいと感じたら、申請すれば一か月後くらいに変えてくれたりもするそうです。同じクラスの人では、「蛇口から出る水が透明色じゃなくてヤバかったから変えた」という人もいたので、どうしてもホストが原因で精神状態が良くないと感じれば、変更するのも手段としてあるそうです。

寮生活では、僕は5人が同じキッチン、冷蔵庫、棚などを共有して、個室はそれぞれあるという形でしたが、寮申請をする際空きがあれば5人部屋か二人部屋を選ぶことができます。僕のルームメイトはカナダ人3人と英語の堪能なフランス人で、英語の会話をするには良い環境でした。人によってはホストファミリーよりも友人としてカジュアルな英語を話せて良いかもしれません。また、ホームステイと違って食事の時間などが制限されず、また学校に隣接する位置に寮があるので、特に予定のない日はバスの時間などを気にせず授業→昼食→図書館→授業→図書館→夕食→図書館→就寝といった事も出来ます（会話練習という視野で見るとあまりオススメはしない一日の進行ですが）。オカナガン大学に学部生として来ている人たちと一緒に住むことになるので、彼らとの接点はホームステイよりも持ちやすいです。また、寮の中にはプレイルームがあって、そこには卓球台、ビリヤード台、ダーツ、野球盤のアメフトバージョンのようなものがあり、時間内であればそこを使うことができます。

寮に入る初日にウェルカムパーティのようなものを催して、寮で生活するもの同士で親交を深める場があるので、そのタイミングでルームメイトだけでなく知り合いをたくさん作っておくと寮生活が楽しいものになりやすくなります。また、寮主催の催しごともありつつあり、映画鑑賞会や寮居住者でのハイキングなどもあります。

掃除は寮のオフィスから掃除機などを借りて掃除します。たまにキッチンなどのシェアスペースの清潔度チェックが入り、その際階ごとで優秀な部屋にはピザが無料で支給され

たりするので、こまめに掃除するとルームメイトも喜びます。また、寮でのルールなどについての非強制なあつまりがありますが、それに参加してもピザをもらえたりします。寮での自炊生活においてこのピザの有無が結構大きかったりします。

気候はカナダの中では温暖で、冬の寒いときでも -10 度を下回らない程度です。日本と比べると寒いですが、大体日本の防寒より少し厚着を意識する程度で大丈夫です。夏は日本と比べて涼しくて快適です。ただ、湿度があまりなく、女性の方は特に日焼けに気を付けた方が良いでしょう。

寮で生活する際は基本的に自炊になりますが、寮から歩いて 10 分のところにスーパー群があり、そこで食材を買うことになると思います。また、学校からバスで 15 分にショッピングモール「オーチャードパーク」があり、そこで服やお土産を買うことができます。また、その反対方向にバスで 15 分にはダウンタウンがあり、そこではショッピングやアクティビティを楽しめます。お店の人も割と気さくに話しかけてくるので息抜きも兼ねて英語の練習もできます。

また、季節や祭事の時期には大学で催しごとがなされます。学期初めやハロウィン、カナダデーなど、いろいろ催されました。三連休などでは、ホストファミリーの方々と一緒にバンクーバーへ観光に行ったりする人もいました。また、学校主催のボランティア活動なども盛んで、留学期間中に何かに取り組みたいとか、思い出を残したいという人にはもってこいな企画もありました。学内にはジムや卓球台があり、時間が空いたときなどにそこを使うことができます。

僕は中期で約 1 セメスターの留学期間でしたが、なるべく日本語を話すことをやめ、英語を話すよう心掛けていました。留学している最中は、「これで本当に英語力がついているのだろうか」とか考えてしまって、気分が沈んでしまって「早く帰りたい」とすら考えてしまったり、ケローナでの日常が当たり前になって、新鮮味がないように思えてきたりもしますが、帰ってきてみると、留学中の日々が夢のように感じてくるので、大変なことも楽しいことも噛みしめて生活して欲しいと思います。

僕のこの中期留学の目的は「英語学習」で、「夢の中でも英語を使っている夢を見たらだいたいいい感じだ」ということをよく聞いていたので、それを目標にしていたのですが、留学期間中にその夢を見ることなく帰ってきて、「ああ自分はあまり充実しない留学生活を送ったのかもしれない」と思ったりもしましたが、帰ってきて 2 か月ほどたった時にふと自分がケローナにいて英語で話そうとしている夢を見たので、この中期留学にはとても満足しています。また、英語学習という分野の外においても、ルームメイトや現地での友人という大切な存在も得たなぁと思っているので、「語学留学」というものにとらわれることなく、いろいろなものを留学で得ることも大切にしてほしいと強調したいと思います。

長期留学報告書 ～留学を通して学んだこと～

コー大学 15F2021 河合 紗希

私は、元々中期留学の留学でしたが、とても充実した毎日を過ごし、まだ勉強をしたい！と思い、後期を延長し、1年間の長期留学を決意しました。この留学を通して英語力はもちろん、人としても成長することができました。また、大学内にある International クラブに所属し、多くの国の人々と交流することができました。今回この報告書には、私が留学を通じて何を学んだのかを書きます。

私は、留学する以前は全く英会話ができず、どのように話すかがわかりませんでした。夏休みにコー大学で行われた、サマーオリエンテーションプログラムに参加した当初、全く英語が理解できず、また ESL の先生にも英語を理解していないと言われ、ショックを受けました。しかし、今まで真剣に英語を学んだことがないからしょうがないと思い、まずはみんなに追いつくようにと積極的にネイティブの人と会話をし、英語を使う努力をしました。その結果、英会話であれば話ができるようになりました。3か月で英語は伸びるとよく言われていますが、その際私のリスニングの力が上がったと ESL の先生に褒められました。自分でも、ネイティブの会話を理解したり、話しかけたりすることができるようになった時は、英語が少し話せるようになったという実感を得ることができました。

前期の授業では、ESL の授業がたくさん詰まっており、自分たちの自由な時間はなく、毎日英語に追われる毎日でした。授業内容は Reading・Writing・Oral presentation を基礎に学びました。ESL のネイティブの先生が、丁寧に教えてくれたことにより、英語を少しずつ理解できました。また TOEIC 対策の講座を受け、英語の基礎を中心に学ぶことを中心として学習しました。慣れない環境の中で、多くの授業を受けたことは、少し不安もあり落ち込んだこともありましたが、その中でもアメリカの友人そして同じ状況にいる仲間との交流があったことにより、このような環境の中でも適応することができたと思いました。前期は、高校の授業のようにしっかり組み込まれており、あまり自由な時間がなく、毎日宿題をするというスタイルだったのを覚えています。しかし、その忙しい中でも、さまざまなイベントが組み込まれており、充実した日々を送ることができました。季節によって行われるパーティーやホームステイを含め、さまざまな人と交流し自分を見つめ直すことができました。その中でも私がコー大学で強く残っている思い出がたくさんあるのは、International クラブで活動したことでした。このクラブに所属したことによって、世界中の人々と交流することができたのが私にとってとても良い経験を得ることができたと思っています。このクラブ内では、イベントがたくさん多く、信頼関係を築くことができました。

た。中でも、カヌートリップは本当に自分にとって素晴らしい思い出となりました。3人でチームを組み、その中でカヌーを漕ぎましたが、そのメンバーは私と仲良くしていたアメリカ人の友人とベトナムの友人でした。ゴールまで1時間以上かかり、最終的には疲れ果ててしまったのですが、カヌーを漕いでいる最中に、歌を歌い、どのようにしたら早く漕ぐことができるかなどを工夫することができました。この出来事をきっかけにさらに、仲が良くなり、International クラブに入れて本当によかったと思いました。今、留学を思い返すとそのクラブ内でも特に親密に中の良い、友人を作ることができ、留学をして本当によかったと思いました。

私の留学をするきっかけは、自分の知らない世界を知りたいと思ったことと、将来英語を使う仕事に就きたいという思いでした。しかし、たくさんの人に出会えたこと、アメリカの大学生活を経験したことにより、友人に自分の思いを伝え、自国の文化を教えたいという思いが強くなりました。アメリカ人を含め、他の国の人々は、自国の文化や歴史に対して本当に誇りを持ち、そして多くのことを私に教えてくれました。そんな中で、私自身、日本の素晴らしさを改めて知ることができたのも、友人と交流したことがきっかけだと思っています。そして、もっと日本について勉強したいと思えるようになったのもこの経験のおかげだと思っています。

あつと言う間に前期が終わり、留学後半は、ESLで行われる Writing/Reading のクラスと、正規のクラスでは Music の歴史、そして私は絵に興味があったので Digital Art というクラスを取りました。後半のクラスは、3つ取りましたが、その中で自由な時間を過ごすことができたと思います。前期は、慣れない生活、そして英語を必死に学ぶ毎日でしたが、後期に入り、自分のペースをつかみ、たくさんの時間を有意義に使うことができました。もちろん以前より自由時間はありましたが、その分レギュラークラスは以前に比べて格段と難しく、分からならいことがあっても自分で対処しなくてはいけない状況が多かったです。もちろん、ESL の先生はいつもサポートしてくれて、なんでも相談に乗れましたが、その頃から自立して自分で何でも物事を対処するようになりました。今までの私は、いつも日本人の誰かに頼り、わからないことがあったら聞くことが、多かったのですが、そうではなく、自分でネイティブの先生に聞いたりして、英語をもっと使おうという意欲を積極的に出すことができました。また、先程にも言ったように、私の一番大きな存在となっているのは International クラブの仲間です。本当に優しい人たちで、このクラブ内で友人を作れたこと、そして英語を学ぶ機会を得たことが自分にとって一番良い経験だと思いません。私は、今まで聞き側になり、その人たちの会話を聞いてうなづくことがあったのですが、そうではなく、自分の思いを伝える大切さをこの場で知ることが出来ました。日本では、「言わぬがよし」という文化が根付いていますが、アメリカではそれは通用しません。何を思って、どのようにしたいかなど、自分の思いをしっかり伝えることが、重要だとい

うことが留学を通じて学ぶことができました。また、休みの間自分で旅行を計画し、行動することができたのも、大きな成長の一つだと思いました。



今振り返って考えてみると、留学は語学を学ぶだけでなく、新たな人々に出会えたことにより、自分の価値観が大きく変わり、自己成長を実現することができました。毎日、楽しいことだけでなく、時には英語ができなくて落ち込んだ時にも、仲間に助けられ、また、自分で勉強を進んですることができるようになりました。もし、これから留学を考えている人、また留学したいと思っている人がいるなら、ぜひ行ってほしいと心から思います。私が思うに、自分が想像する以上に留学というもので多くのことを学び、そしてそれを楽しみました。異文化交流をすること、そして新しい発見をすることが喜びでしたし、この気持ちを忘れないで英語を勉強し続けたいと思うようになりました。1年という留学はあっという間でしたが、その中で、たくさんの経験できたのが、留学に行ってよかった！と思います。留学経験を通じて、大きく成長できたと思いました。



長期留学報告書 ～留学生生活を振り返って～

ペンシルバニア州立インディアナ大学 16F0004 秋田 真江

去年の8月の終わりから今年の5月の終わりまで、約9カ月に渡ってアメリカの大学に留学してきました。今、留学し終えた自分を振り返ってみて自分を誇りに思えるようになりました。

留学する前の私はめんどくさがり屋で怠け者の典型的なダメ人間でした。しかし、趣味や自分の興味があるものに対する集中力は強く、映画鑑賞が趣味な私は洋画に影響されもっと英語を学びたい、字幕なしで見られるようになりたいと思い、アメリカ留学に志願しました。

留学が決まってからアメリカに行くまで学校から出された課題が厳しく、時々心が折れそうになりました。しかし、自分は奨学金なしの留学だったので少しでも奨学金がもらえるように、提出物をしっかり出したり、毎回 TOEFL や TOEFL の講座を受けてより高い得点が取れるようにしたりしてはげみました。しかし荷物の準備はほとんどできていなく、出発1週間前によくはじめて前日ギリギリまでやっていました。出発する前までの自分を振り返ってみて、親に頼る部分が多く小学生の様にやりたいことだけやる人間であったと思います。

日本を出てアメリカに着いたとき、すべてに戸惑いました。見渡す限り全てが英語でわからない単語もあり、ワクワクした反面少し不安でした。ネイティブの早い英語は聞き取りづらく、同じ大学に行く先輩や友達の助けを借りてなんとかつきましたが、一人では大学まで行くことはできなかつたかもしれません。

インディアナはピッツバーグからバスで1時間半ぐらいのところにあります。田舎の落ち着いた町で Indiana University of Pennsylvania (IUP) は名古屋学院大学に比べてはるかに大きく建物の外観もとても綺麗で、まるで映画の中に出てくる大学いるようで夢みたいに思えました。キャンパス内は歩くと端から端まで20分くらいで、キャンパス内外を移動するためのバスが走っています。バスは学生証を見せれば無料なので Walmart や Kmart に買い物に行くときはとても便利でした。

留学生向けのオリエンテーションには様々な国の学生が集まっていました。中国や韓国、台湾の学生などアジア圏の学生もいて、ほかの地域に比べて顔立ちが似ているので声をかけやすく、すぐ友達になれました。アジア系の学生の多くはレギュラークラスを取っているらしく、英語がとても上手ですごく悔しかったのを覚えています。

私は大学の中の語学学校 American Language Institute (ALI) で秋学期が Intermediate と春学期が High Intermediate のクラスで学んでいました。クラスを決めるために試験を受け、自分に合ったレベルで授業を受けることができました。クラスの多くがサウジアラ

ビア人で関西学院大学から来ていた学生と私たち名古屋学院大学の学生と台湾人と韓国人でした。彼らはとてもフレンドリーで親しみやすく、クラス内はいつも明るくてとてもよかったです。先生もいろいろな国から来ていて、韓国やサウジアラビア、スペインなどでした。とても明るくいい人が多く授業も受けやすかったし、質問しやすかったです。

クラスは一学期に8科目ありました。月曜と水曜が同じクラスの時間割、火曜と木曜が同じクラスの時間割で週に2回ずつ受けます。春学期の授業は Academic Vocabulary、Listening To Academic English 1、Intercultural Communication、Tutoring、Electronic Literacy、Intermediate Grammar、Writing For Academic Purposes、Reading Academic Themes です。春学期の授業は Advanced English Grammar、Electronic Literacy、Reading Academic Themes、Advanced Written Communication 1、Tutoring、Listening To Academic English 2、Advanced Oral Communication 1、Academic Literacy です。

授業は一回が1時間15分で休憩が15分間ありました。教室は ALI の校舎の中の教室を使ったり IUP の教室を使ったりとまちまちで、教室移動だけで10分かかるときもありました。教室内では夏は冷房が効きすぎではないかというぐらい涼しくて、冬はちょうどいいぐらいに暖かかったです。秋学期15人、春学期10人と少人数だったのでクラスは小さいクラスで、十二分に机といすが用意されていました。パソコンやプロジェクターも完備されていて、プレゼンなど行う時にもとても便利でした。

1学期間の中で大学の国際センターが設けたいくつかの旅行に参加することができました。ピッツバーグやニューヨーク、ナイアガラの滝などどの都市も IUP からかなり離れてくるまで何時間もかかる所なので、とても便利で観光も楽しめてとてもよかったです。交通費だけでなく、バスツアーやミュージアムの入場料もついていて手ごろな値段で都市まで行けるのでありがたかったです。しかし、休日にツアーがあるので、都市などは大まかにしか回れなかったのも、別の日に台湾の友人と一緒に行了きました。

試験は中間試験と期末試験があり、中間試験の後でも今までの成績が発表されました。そこで自分の成績を知ることができるので、これから自分がどのように勉強していけばいいのか知ることができました。中間グレードを聞くときにアドバイスなどをしてくれるのでより明確に A を取るために何をすべきかわかるようになりました。

試験の内容は授業ごとに異なりますが、プレゼンが多かったです。他には今までやった授業の内容のテストだったり、レポートだったりしました。それ以外には英語でレシピを書いてその通りに料理を作って持ってくるというテストもありました。私はカレーを作りました。しかし、寮にはコンロがないのでいかに電子レンジでうまく作るかインターネットで調べながら試行錯誤して作りました。そのときの達成感とクラスメイトに食べてもらえる喜びでとてもうれしかったです。

秋学期が終わって冬休みの間、ほとんどをルームメイトだった台湾人の友達とニューヨークで過ごしました。行きのバスが2時間ほど遅れてどうなるかと思いましたが、着いてからは毎日観光してとても素敵な時間を過ごしました。中でもよかったのがブロードウェ

イで、大きな舞台に響くきれいな歌と演技にすっかり虜になってしまいました。

大学に戻る一週間ほど前、ちょうどブロードウェイを観終わった後に友達が事故にあいました。救急車に乗って病院まで付き添い、その晩はほとんど病院にいました。今までの楽しかった思い出が一変して悪夢のようだったので私はとてもショックを受けました。幸い、いとこがニューヨークの隣のニュージャージーに住んでいるので友達の経過を待って、そこに数日泊めさせてもらいました。しかし冬休み中には帰ることができないということで、一人で帰ることになってしまいました。不安ながらも何事もなく帰ることができて本当に良かったです。その後、1カ月ほどで松葉づえについて友達が帰ってきました。大事には至らなくて本当に良かったと思います。このような経験を二度としなくていいように、自分にも周りの人にも注意を促したいです。

春学期が終わった夏休み、私は長年の夢だった東海岸を旅行してきました。今回は今まで勉強してきた英語の成果を発揮するため一人で行きました。ラスベガス、グランドキャニオン、ロサンゼルス、サンディエゴを12日間で巡り、いろいろと学んできました。日本まで何事もなく、とても楽しい旅でした。インディアナとは違いとても温暖で、ラスベガスでは36度の中散策していました。LAは治安が悪いと聞いていたので早朝と夜はなるべく出歩かないように、なるべく人の多いところを歩くようにしました。自分の目で見た限り、今までに行ったどこよりもLAは治安が悪かったと思います。しかし有名な観光地で人がたくさんいるので人気のないところに行かなければ特に問題はないように思えました。

一番良かったのはサンディエゴで、海岸の海と浜がとても綺麗でした。潮風にあたって昼寝をしても大丈夫なほど治安がよくのんびりとしたところで、街並みもよくて素晴らしかったです。一人ではいろいろ不便で毎日無事にホテルまで帰れるか不安でしたが、問題が起きることもなく無事に日本についてよかったです。空港で両親が迎えてくれた時は本当に心が安らぎました。

この留学期間中で、私は少し大人になることができたと思います。今回約9か月間アメリカで一人暮らしをしていて、家族がいて当たり前だった昔の自分を大きく変えたと思います。一人で家事をすることの苦勞を少しわかった気がしてお母さんの家事をもう少し手伝おうと考えたり、高校の時英語が苦手だった自分を反省して受験生の弟に教えたり、今までに自分の行いを見直し、改めなおすいい機会になったと思います。今までめんどくさがり屋で怠け者の自分を独立して生活することで鍛えることができたと思います。今回両親に金銭的負担をかけとてもいい勉強をさせてもらった分、留学中に学んだことを生かして立派といわれる大人になりたいです。

中期留学報告書

アラスカ大学フェアバンクス校 16F0046 小笠原 汐理

1月下旬、私の家に郵便物が届きました。それは公費留学の案内。願ってもみなかったことで私は胸を弾ませました。中を開けてみると中にはアラスカ大学と書かれていました。母と目を見合わせて驚きました。留学に行くというのに、そんな極寒の地に行くとは思ってもみませんでした。それからというものの、アラスカの地について母と一緒に調べました。本やインターネットで見ると冬の気温が最低で-40度いくこともあるそうです。準備を進めている中どんな服を持っていけばいいのかわからず、とても苦労しました。今年から留学生の履修登録が簡易的になりアラスカ大学が私達に合った履修を考え、それにサインをするだけというやり方でした。

夏になり、ついに出発。仲の良い友人達に見送られアラスカにつきました。8月の終わりがごろなのに外は肌寒く秋の訪れを感じさせるような気候でした。寮の場所を案内され、ルームメイトがどんな人なのか緊張や不安を交えながらドアを開けました。すると、中は空っぽでベッドもシーツだけという状態で閑散としていました。寮のなかも人気がなく、とても怖かったです。その頃私達は wildness welcome activity という新入生と留学生が仲を深めるために養成されたプログラムに参加するため、新学期が始まる少し前に寮についたからです。

wildness welcome の内容をあまり熟知していなかったため、それが4日間もあり、それには防水機能のついた服や手袋など様々のものが必要であると知らず、急いで前の日にそれらを準備しました。私達はラフティングを行ったのですが、現地のアシスタント2人とデンマークの女の子、フランスの女の子、アラスカ出身の男の子それに加え私達日本人3人というメンバーでした。到着してすぐというのもあり私達の英語は全くといっていいほど悲惨なものでした。話している内容も聞き取れず、自分の英語力のなさに改めて気づかされました。それに引き換え、デンマークの女の子とフランスの女の子は第二言語とありながらも流暢に英語を話していました。2人とも優しく全く話せない私達にゆっくり話してくれたり、「今フランスでも日本のきゅーぱみゅぱみゅが流行っているんだよ。」と私達が興味のあるような話題をしてくれました。

新学期が始まり、いよいよ授業が始まります。どんな先生でどんな人と授業を受けるのかなと思いながら授業を確認すると NGU の日本人全員が全く同じ授業でした。授業自体も人数が少なくほぼ私達だけというような感じでした。それはとても残念に感じました。

私はもう一つレギュラーのクラスの Foreign language teaching practicum のクラスを受講しました。授業自体は週に1回なのですが TA の仕事もやることになるので授業を見学したり、NGU でいう i-lounge のようなところで宿題を教えたり、クイズの丸付けをしたりと一番忙しい教科でした。生徒たちはみんな日本が大好きで、とても熱心に勉強してき

ていました。与えられた宿題は必ずやってきて一人も遅れをとっているような人はいなく本当に関心しました。一学期間であれだけ日本語をマスターできるのは先生や生徒の努力の賜物だと思いました。私がティーチングをした後、生徒が「楽しかったよ、ありがとう。」と声をかけてくれてとてもうれしくなり、胸のあたりがあつくなりました。

他の授業も同じように先生が工夫を凝らしてやってくださり、難しく厳しいところもありながらしっかり身に付く授業でありました。中でも Reading の授業が一番好きでした。宿題は中々骨のある内容ではありましたが、とても勉強になりました。Book Club ではグループをつくり共通の本を読み毎週リーダーを決め、その本についての質問文を考えてくるというものです。簡単そうに感じるかもしれませんが、これは本の内容が 100%分かってないと質問はつくることはできないし、答えることもできません。Reading が苦手な私にとっては難しくもありながらとてもいいものでした。Final exam では先生との Book club でした。先生も生徒一人一人の本を読んできてそれについての質問も全部考えてきてくれました。最後に先生が「あなたを生徒にもてたことを誇りに思います。」と伝えてくれてとても嬉しかったです。

私は留学に行き自分は将来やりたいことを見つけ出せたような気がします。まだはっきりとは決めてないのですが自分が留学で学んだことははかりしれないものです。いい先生やいい友達にも恵まれ本当に留学してよかったなと思いました。留学にいかせてくれた両親にも感謝したいです。将来アラスカにもう一度行くということはないかもしれませんが、一生この体験を忘れることはないと思います。



中期留学報告書 ～アラスカでの4ヶ月～

アラスカ大学フェアバンクス校 16F0101 鈴木 貴登

2013年の8月26日から4ヶ月間、アラスカ大学フェアバンクス校に留学しました。初めての留学だったので、行く前は期待と不安の気持ちでいっぱいでした。また、準備がとても大変だったことも覚えています。4ヶ月という、決して短くはない期間を、知らない土地で、言葉の通じない人たちと共に生活するのはとても難しいだろうなと思い、また、そこで多くの経験をし、自分を成長させたいという気持ちも多くありました。

飛行機に乗っておよそ合計15時間ほどで、中部国際空港から、アラスカのフェアバンクス空港に到着しました。到着してまず最初に感じたことは、やっぱり噂通りアラスカは寒いなということです。8月下旬の日本は、大体35℃くらいの気温があり、とても蒸し暑い季節ですが、この時期のアラスカは大体16℃くらいなので、とても過ごしやすい気温なのですが、日本との温度差で、とても寒く感じました。もう一つ感じたことは、アラスカはすごく田舎だなということです。空港から大学まで車で送迎してもらっている時、外の景色を見ていると、建物も走っている車も少なく、広い道路と多くの木々が目に入りました。そして大学は山の中に造られており、僕の地元の幡豆町と同じか、それ以上の田舎だなと感じました。

大学に到着して最初の一週間は、不安でいっぱいでした。まず、自分は寮に住んでいたのですが、自分の住んでいた寮は、二階建てで、一階はキッチンとリビング、二階は二人部屋が二部屋と風呂とトイレという形になっていました。自分が寮に到着した時はまだ学期が始まっていなかったなのでその時点でルームメイトは一人だけでした。ルームメイトはニックという名前で、彼はおしゃべりな男で、気さくに話しかけてくれて、僕に色々な質問をしてくれたのですが、僕は彼の英語がうまく聞き取れず、質問が分からなかったり、何回もなんて言ったのか聞き返してしまいました。僕はここで自信を失いました。到着して次の日はすぐにオリエンテーションがありました。オリエンテーションは、いろんな国から来ている留学生で交流しようということで、みんなでゲームを行ったりしたのですが、そこでも自分の意見をうまく英語で表現できず、これから4ヶ月間うまくやっていけるのかとても心配になりました。そして、その2日後からは、Wildness Activity という、アラスカの自然を体験しようというアクティビティがあり、そこで自分はカヌーのアクティビティを選択していたので、3泊4日でカヌーで湖を一周しました。この旅は、陸のある場所はカヌーを担いで渡らなければならなかったり、4日間シャワーも浴びられなかったりと、とても大変で、また、この旅は自分も入れて8人いたのですが、最初は上手く馴染めずに、とても辛かったです。しかし、このツアーが終わるころには、他の留学生の人たちとも上手く馴染め、また、完璧な英語が話せなくても、ボディラングージを使ったり、自

分の知っている言葉に言い換えてみたりと、うまく工夫をすることで言いたいことを伝えられるんだなということに気づき、とても気持ちが楽になりました。このツアーのおかげで、英語を使ってコミュニケーションをとる事に対しての不安も薄れ、これからの四ヶ月を楽しんでいける自信もついたのでとても良かったです。ツアーが終わってからみんなで食べたバーベキューは、4ヶ月間の食事の中で一番ぐらいにおいしかったです。

その一週間後くらいから、秋学期が始まりました。授業はまず英語のライティングやリーディングやスピーキングが必修であったのですが、僕はその他に4種類ほど授業を選択しました。中でも一番大変だったのは、ミリタリートレーニングという授業で、これは軍人のようなトレーニングを体験してみるという授業でした。何が大変なのかというと、まず授業のスタートが朝6時からということです。僕の住んでいた寮から授業を行うジムまでは歩いて10分ほどなのですが、アラスカの朝はとても寒く、すぐに息切れしてしまうので、ジムに行くだけで一苦勞でした。そしてジムでみんなでトレーニングをするのですが、辛かったのは時々ジムの中ではなく外でトレーニングをしたことです。雪の降る中悴んだ手でみんなで大きなタイヤを転がしたり、ひたすらびちょびちょになりながら腕立て伏せをやったりしました。なんでこんなつらい授業をとったのか、今ではよくわかりませんが、これも一つのいい思い出になっています。

留学する前は、友達ができなかったらどうしようか思っていました。友達はたくさんできました。みんなでゲームをやったり、ビリヤードをやったり、ロッククライミングをやったりして、とても楽しい思い出でいっぱいです。友達の事を思い出すとまたアラスカに戻りたいと思います。ほとんどの友達はもう会えないと思うととても寂しいですが、今でもフェイスブックなどで連絡を取ったりすることができるので安心です。

アラスカは寒いし田舎だけど、そういうところだからこそその楽しみ方や、日本とは違った考え方やものの見方が発見できました。今までの自分は引っ込み思案であまり積極的な人間ではなかったのですが、この留学での経験をいかして、もっと様々な事に挑戦して、友達をもっと増やしていきたいです。今では、本当に留学を経験できてよかったなと思っています。これからはこの留学の経験が自分の人生や考え方に大きな影響を与えていくと思います。とても良い環境で充実した4ヶ月を送ることができて、本当に良かったです。



中期留学報告書 ～出会い～

コー大学 15E0151 近藤 崇

私は中期交換留学生としてアイオワ州シーダーラピッツにあるコー大学に留学しました。私が留学しようとしたのは渡航する10ヶ月前の2012年の10月に行われたコー大学の先生たちとの昼食会に参加したことがきっかけでした。大学時代にしか出来ないことがしたい、自分をなんとか変えたいという思いで参加しました。コー大学の先生と直接お話する機会がありコー大学の授業や生活などを聞くことができ留学への意識が高まりました。またコー大学に留学していた学部先輩とお話することもでき、より詳しく知ることができ留学を決意しました。

8月2日に名古屋を立ち、3日から2週間に渡って行われるサマーオリエンテーションという研修に参加しました。生徒は全員日本人で、当然のことながら授業はすべて英語です。私は経済学部なので英語での授業というのは初めてでついていくのが必死でした。初日から多くの宿題に戸惑いました。耳がまだ英語に慣れていなくて、恥ずかしながらある授業では何が宿題なのかさえわかりませんでした。外国語学部の人たちなどに助けをもらいながら、寝る時間もほとんどなく毎日夜遅くまで宿題をやっていました。この時、正直あと半年ここで授業を受けていけるか不安になりました。しかし、ここで受けた授業はとも自分のためになったとESLの授業が始まった時に思いました。

次に授業について書きたいと思います。私が受けた授業は Oral Presentation, Reading/Writing, Current Events, TOEIC Practice, Pronunciation, Independent Project, Academic Culture, Rock Climbing です。Oral Presentation では様々なプレゼン方法を学び、それを使って、プレゼンを行います。一ヶ月に2, 3回プレゼンがあり、私にとってはとても大変なクラスでした。Reading/Writing では本を読み、みんなでディスカッションをしたり、また様々なエッセイの書き方を学び、エッセイを書いてきます。日本にいる時に留学事前プログラムで多読をやっていたので助かりました。Current Events では先生と私達生徒が取り組む内容を決め、ディスカッション、プレゼンテーションを行いました。TOEIC Practice では穴埋め長文問題を毎回やり、その後先生の独自のお題に関する問題をやります。Pronunciation では発音の練習です。舌、口の使い方、息の使い方を学びました。留学して最初の方は発音が悪くて、なかなか聞き取ってもらえず苦労しました。留学して発音の大切さを知りました。Independent Project では最後に高校に行って日本の文化、伝統、流行についてプレゼンを行いました。Academic Culture は早稲田の生徒と共同の授業です。早稲田の人たちといることで、彼らの勉強のやり方などを学べてとても刺激になりました。Rock Climbing は唯一のレギュラークラスです。勿論先生は私達に気を使ってゆっくり話してくれるわけもなく、大変でした。でもサマーオリエンテーションでお世話になった学生がいたので理解できなかったところを聞くことができました。体育の

授業とあってほとんどが体を動かすことなので少しの英語で楽しむことが出来ました。授業とは別で週に1回アメリカ人と約1時間会話をする機会もありました。ここでは好きなことをしていいのでみんなそれぞれやるのが違っていました。私は主に雑談や授業で疑問に思った事や宿題で分からないことを教えてもらうという時間にしていました。

次にアメリカ生活で驚いたことです。まずは生活スタイルです。平日は勉学に励み夜遅くまで勉強をし、金曜日と土曜日は娯楽に励み、また日曜日からは宿題をするというスタイルです。私の寮は男子寮だったのもありとても賑やかでした。そのため同じフロアの人たちと仲良くなることができました。私のルームメイトは日本人で彼は一度コー大学の交換留学生を経験し、その後コー大学に編入したので、ここでの生活などを知っているので色々聞くことが出来ました。ほとんどの生徒が寮で暮らしています。寮は校内にあり、生活はとても便利でした。また曜日によって閉館時間は違うのですが図書館が深夜1時まで開いているのでとても助かりました。ここでも日本との違いがありました。それは図書館が少しうるさかったことです。日本の図書館はしゃべっていると注意されますが、コー大学の図書館ではこれが普通ようです。あと軽い飲食も認められていて、他生徒の勉強に支障がでなければ良いという感じでした。遅くまで図書館がやっているのはとても良い環境だと思いました。

次に International Club について話したいと思います。このクラブは主にコー大学に來ている留学生が入るクラブです。このクラブに入ることによってよりいろんな国の人たちと仲良くなります。クラブのみんなでシカゴに2泊3日の旅行に行ったり、カルチュアルショーをしたりしました。カルチュアルショーで私たち日本人はヲタ芸とボディーパーカッションを披露しました。この日のために私達は一ヶ月前から必死に練習しました。練習をしていくうちにみんなとの絆が強くなっていくのが分かりました。本番当日も時間ギリギリまで練習しました。本番も良いパフォーマンスができて会場も盛り上がりました。みんなで作る喜びを改めて実感しました。

テストが終わり私はホームステイプログラムに参加しサウスカロライナ州で12月18日～1月2日までホームステイをすることになりました。街はクリスマス間近ということもありイルミネーションで飾られていてとても綺麗でした。このホームステイは教会に所属している人たちが設けているホームステイプログラムで、私以外にも5人が参加していました。日本人4人、中国人1人とパキスタン人1人です。それぞれ2人ずつになってホームステイをしました。私はコー大学で同じだった人と2つの家族を体験しました。最初のホームステイ先の人たちはとても明るく、話しかけてくれる方々だったので溶け込みやすかったです。連日のようにパーティーに参加しました。パーティーではいろいろな人たちと話す事ができてとてもいい機会でした。またそれと同時にもっと多くの単語を知っていたら、もっといろんなことに興味を持っていたらと自分のボキャブラリーの低さ、もっと色々なことに興味を持っておけばよかったと後悔しました。

私が一番印象に残っているのがクリスマスとニューイヤーズ・イブです。まずはクリス

マスなのですが、勿論アメリカでのクリスマスは未体験だったのでとても楽しみでした。クリスマスイブには私達、ホームステイさせてもらっている人たちで自分の国の料理を作り教会の関係者やホストファミリーたちに食べてもらいました。ホストファミリーや教会のみんなが喜んで食べてくれたのでとても良かったと思います。翌日、クリスマス当日は親戚などが集まり、プレゼント交換やゲームをしたり、話をしたりとてもゆっくり過ごすことが出来ました。クリスマスの翌日私たちは次のホームステイ先に移りました。2軒目のホームステイ先は子供たちがいてとても賑やかでした。こちらでは射撃場に連れて行ってもらったり日本ではできない経験をさせてもらいました。次にニューイヤーズ・イブです。こちらも当然ながら未経験でとても楽しみでした。ニューイヤーズ・イブ当日はホームステイプログラムに参加している家族が私のお世話になっているホームステイ先に集まり、みんなでテレビで流れているニューヨークのカウントダウンを見ながらニューイヤーを祝いました。

今回ホームステイを体験できてとてもよかったです。寮生活とはまた違った生活スタイルや英語を毎日話す環境を体験することが出来ました。中国人やパキスタン人の人たちと話すことができ、彼らの国の事を知れたり良い刺激を受けたりすることが出来ました。Bonebrake family, Smith family, そして教会の皆さんのおかげで私は素晴らしい体験ができ、それと同時に家族の大切さを教えてくれてありがとうございます。また自分が成長したらサウスカロライナに訪れたいと思います。本当にありがとうございました。

アメリカ留学を通して英語で自分の意思を伝える難しさを実感しました。しかしその反面、自分の少ない語彙でどうにか伝えるという術を学ぶことが出来ました。語学だけではなくたくさんアメリカ文化を肌で感じる事ができたことがとても良かったと思います。今回の留学で海外に更に興味を持ち、今回自分の英語力のなさで現地の人たちと満足に話すことができなかったので、これからも英語学習を継続して海外に行った時に現地の人と話す存分話せて楽しい思い出を作れるようにしたいです。



中期留学報告書 ～アメリカを学ぶ～

ペンシルバニア州立インディアナ大学 15F0006 天野 志穂

語学留学をするのは今回が4回目でした。初めてのアメリカということもあって、留学が決定してから数か月間ずっと楽しみにしていました。私は「英語力の向上に努めよう」というよりも「アメリカを学ぼう」と思って行きました。4回目ということもあり、自分がどのようなスタイルで過ごせば充実し、素敵な留学生活を送ることができるのかを自己分析して出した考えでした。毎日の授業では全て英語、友達をたくさん作ったら英語で会話をします。それよりも普段の旅行では経験できないことをたくさん経験し、学び、視野を広げ、自分自身も成長しようと思いました。私はアメリカを経験したかったので、日本から持っていったのはお土産と、数セットの夏服くらいでした。日本の歯ブラシは繊細でこんなにも磨きやすいのか、日本タオルは洗っても繊維がボロボロにならずいつまでもふわふわなんだ、日本のティッシュはとてもやわらかかったのか、など日々日本製品の素晴らしさを感じていました。

もう一つはイベントやスクールトリップにはできる限り参加をしようと決めていました。スクールトリップで行ったニューヨークシティや、ナイアガラの滝、クリスマスマーケットなど、どれも参加して良かったと感じる旅行でした。私は、ニューヨークシティでここは「小さな世界」だと思いました。様々な人種がいて、歩いていけば何か国もの言葉が聞こえてきて、高級車やリムジンが何台も走っている中で、歩道には毛布にくるまりお金を求める人々が数十メートル置きにいて、私はアメリカに来て一番「今、アメリカにいるんだ。」と感じた旅行でした。移民の国アメリカの世界一の大都市だからこそその経験でした。

IUPに着いて最初の数週間は慣れない英語と、多くの宿題、寮費やミールプラン代などの様々な手続きがあり、上手に時間を作れずにいました。そんな時、少しの時間でも気分転換をしようと思って私の趣味であるスケートボードを始めました。IUPのキャンパス内では多くの男子大生がスケートボードをしていました。女子で、尚且つアジア人がスケートボードをしているのがとても珍しかったようで、スケートボードがきっかけとなり多くの友人ができました。私は気分がリフレッシュされ、友人も増え、とても楽しい授業後を過ごすことができました。

ある日、私がバスケットボールをするのが好きということを知り、大学の体育館で毎日行っているバスケットボールゲームに招待してもらいました。スポーツをするのが大好きな私は、授業後にスケートボードに乗って、体育館にバスケットボールをしに行くのが日課となりました。これが毎日の楽しみだった為、授業後は宿題や復習をするために図書館に通い、短時間で集中して問題に取り組みました。「短期集中」というスタイルは私にとってもぴったりでした。集中力が切れたら気分転換（スケートボードなど）をし、また就寝前

に続きをとりかかすることで更に集中して行うことができました。

アメリカ人は日本人と違い、皆、過剰と言っていい程の自信を持っていました。絶対にシュートを決められる、負けない、プレイをしてない者にも伝わってくる彼らの自信がありました。バスケットボール元日本代表の加藤選手が「日本人は自信と高い目標がないから弱い」とおっしゃっていたのを覚えています。まさにそのとおりだと実感しました。彼らのような自信は私も見習っていきたいです。バスケットボールでは日本人、女性は私だけでしたが、積極的に参加し、溶け込むことができ、バスケットボール以外にも、一緒に試合観戦や、食事に行くなど、交流を深めました。そして、スポーツを通じて国民性を学ぶことができ、又、国籍や性別を関係なしに楽しめるスポーツの素晴らしさや楽しさを改めて実感しました。

もうひとつ私が新しく学んだことがあります。それは国旗についてです。日本では、応援の時に国旗にメッセージを書くという文化があります。私はこのことは海外でも同じだと思っていました。IUP 卒業も近くなり、アメリカで生活を共にした友人に星条旗にメッセージを書いてもらいたくて、私は近くのモールでアメリカの星条旗を購入しました。そして次の日、その星条旗とペンを持って授業にいき、先生にメッセージを書いてくれないかとお願いをしました。しかし、先生はなかなかペンを持ってくれません。暫くして、メッセージを書くことはできない、申し訳ない。と私に言ったのです。私はなぜ書けないのか、気になったので授業後に彼になぜメッセージを書けないのか尋ねました。理由は、法律でした。アメリカでは星条旗に関する規定が数多く存在します。国旗をぐちゃぐちゃに折りたたまない。床に置かない。飾る時は必ず青い星の部分が左上にくるように。などです。その中のひとつに、国旗に文字を書いてはならないというのがあるのです。全くこの法律の事を知らないまま先生にお願いした事がとても申し訳なく思ったのと、同時に異文化に対するショックも受けました。そして私は国旗に法律があるということに興味を持ち、日本の国旗についても調べました。日の丸部分は天皇を意味する。日の丸部分には文字をかくてはならない。など、アメリカほど厳しくはないですが、日本の国旗にもルールがあることを初めて知りました。確かにワールドカップやオリンピックを思い浮かべたとき、全員が国旗にメッセージや名前を書き、それを持って応援しているのは日本くらいのような気がしました。

「僕がアメリカの旗を持って帰ったら、お父さんに怒られるよ。みんな愛国心が強いからね。」というエジプトとドミニカ共和国からの友人、「国旗は大切だから、留学する時はみんな家から持ってくるよ。」と言って壁に飾ってある自分の国の国旗を見ながら話すベネズエラやケニアからの友人、「実際若い人はこのことなんて気にしないよ。国旗に文字を書いちゃだめっていうことを知らない人の方が多いよ。こういうのを気にしているのは年寄りと軍隊だけだよ。」と言って星条旗にメッセージをかくてくれたアメリカ人の友人。ほかにも何人もの友人がいろんな思いを話してくれて、たくさんの意見を聞くことができました。国旗に関する考え方は国によっても、人によっても異なった意見ばかりだっ

たので、とても興味深く面白く、もっと深く知りたいと感じました。そして国旗に対する思いを聞いていくうちに私は自分を含め、日本人の愛国心のなさを実感しました。海外諸国よりも日本を愛し、誇りに思っている日本人は、少なくとも私の周りにはいません。日本の国旗の日の丸の意味を知っている人も多くはないでしょう。世界数十か国からの友人は、ほとんどが自国の国旗の成り立ち、意味など理解していました。そして日本のように国旗にメッセージを書くという文化のある国はありませんでした。私は国旗を通じて、法律や国旗に関する価値観を感じることができました。

授業ではもちろん英語力の向上に努め、わからないことはわかるまで先生やチューターに聞き納得いくまで解説をしてもらいました。最後の TOEFL では、自己ベストを約 30 点、更新することができました。そして、語学勉強に対する楽しさも学ぶことができました。授業以外では数えきれないほどたくさん「アメリカ」「異文化」を体験し感じることができました。カルチャーショックを何度うけたかわからないくらいの驚くことや、新しい発見がありました。そして異文化を感じることで、日本文化も外国人目線で見ると、勉強しなおす機会にもなりました。

この留学経験を通して、私は確実に国際交流、異文化理解に関する視野を広げることができたと思っています。この経験は確実にこれからの私の就職活動や更に先の未来にも繋がる自信になりました。留学に行かせてくださった両親には図りきれないほどの感謝と、寮生活を通して家族のありがたさも改めて感じられた素敵な機会となりました。この感謝の気持ちを忘れることなく、これからも自分らしく積極的に前進していきます。

中期留学報告書 ～留学のあれこれ～

ペンシルバニア州立インディアナ大学 16F0149 平野 敬己

留学で胸が躍っていた私たちは8月18日に日本を発ち、19日に念願のアメリカへ到着した。航空券を手配した時点で気がついていたのだが指定日がアメリカ時間の19日だったため私たちは1日早くつき空港の近くに泊まることとなっていた。兎にも角にもこの時泊まったホテルが私の留学生活の中では1, 2を争う良いホテルになったのだがそのときはまだただの小さなモーテルくらいにしか思っていなかった。ちなみにインディアナ大学ペンシルベニア（以降IUP）から空港シャトルバスを出してくれるが60\$もするのでもし余裕があれば民間会社のバス（20\$）をオススメする。大きさに差もないし私が利用した際の民間バスの平均乗車人数は5～10人程度なのでこちらの方が快適である。さらにIUPでは留学生向けに送迎バスや観光バスを手配してくれるのだが小さい上に高い。一方現地学生むけにも同じサービスがあるのだがそちらはバスが大きい上に値段も安い。なので、IUPに行く学生は留学生を対象にしたものでなく現地生徒向けのサービスをチェックしてほしい。もちろん留学生でもクラブ、サークルに入れるシツアーに申し込んでどこかへ出かけることも出来る。話は逸れたがとにかく私たちは無事IUPに到着し生徒となった。オリエンテーションで講義の説明や書類を提出しテストをしてクラスを決める。またこの際同じ留学生と交流する時間がたっぷりあるので隣に座った人でも誰にでも話しかけてみるとよい。私は自分から話しかけたが相手はなんと言っているのか聞き取れず申し訳ない思いをした。しかし今考えればそんなこと気にすることではない。何故なら4ヶ月後の私も何を言われているか全くわからない時が多々あったからである。それはおいておき、IUPではオリエンテーションの1週目にIカードという電子マネーのカードを貰える。平たく言えばマナカである。ポイントの貯まらないマナカである。生徒はこのカードを使い寮に入り部屋の鍵代わりにもなる。また申し込んだ場合は電子マネーがチャージされ学内で使える上にミールプラン（食券のようなもの）としてもつかわれる。なので、財布や携帯を忘れてでもIカードは携帯しないといけない。他の大学でもそうかもしれないがこれが非常に面倒くさい。一度カードを部屋に忘れると部屋に入れられないため再発行しなければならない。しかも20\$取られる。私の友人はカードを5回ほど失くしたり忘れてたりしたらしい。いくら払ったかを考えると胸が痛い。寮において、私はシェアの

部屋を選択したがセパレートの部屋も選択できる。特に広さは変わらず共用スペースのほかに部屋が仕切られているかいないかの違いである。たしかルームメイトの希望が出せるのでアメリカ人と書いておくと現地で馴染みやすいかもしれない。しかし同じ留学生同士で一緒でも親睦が深まると思うのでそれは個々の判断である。ちなみに私はエジプト人と暮らした。アメリカといえばハンバーガーというステレオタイプな私はエジプト人に会って開口、ピラミッドと言って笑われたのだが振り返ればよい思い出なのかもしれない。ちなみに今アメリカといえば？ときかれたらピザと答える。そしてエジプトといえば水タバコと答える。私の理解はその程度で深まったと思う。真面目な話ルームメイトと何を話したかといえば、授業、それぞれの国について、そして宗教であろう。想像通り留学生と初めに話すことといえば文化などであろう。その後休日の予定や共通の友人の話題など親睦を深めていけるのだが宗教については違う。比較的アメリカ人の中では宗教の話題はタブーである。これは禁止されているわけではないが大体良い方向に進まないからである。多くの自称仏教徒の1人である私も稀にその話題になると仏教の説明に困る。宗教とはなにかを説くつもりはないが相手の宗教に関する事前知識、理解は大切である。例えばイスラム教では女性は髪を男性に見せられないし話してもいけない。また男女ともに豚肉も食べてもいけないし飲酒喫煙もだめなのである。アメリカに留学している人は比較的そのような縛りを気にしない人も多く、口をきいてくれないなんてことはないが強い宗教観を持った人もいるのである。そんな感じで私はルームメイトと過ごせたわけだがルームメイトが何処から来ていようがアメリカに来た目的は同じなので、自分が知らないような国の人と過ごせたらそれが1番よいのだと思う。さて授業についてだが現地学生と同じクラスの他に留学生のみのクラスが5段階ほどで分けられ存在する。私はそのクラスの上から3番目だった。下からでも3番目なので要は真ん中である。定かではないが現地学生と授業を受けるためにはTOEFLが530位ほしいのだと思う。もちろん現地生と受けたほうが自分の為になるのでそのあたりの点数を狙って行ってほしい。学内のイベント、もといアメリカの行事については、ただただ沢山ある。アメリカの祝日が特別多いわけではないが多民族国家だけあって毎日がどこかの国の記念日なのである。そのため毎週のように部屋を貸し切って何かの日を祝っている。また学内ではクラブ、サークルによるイベントが同じように毎週開かれていて自由に参加できる。イベントは音楽を流して皆が集めたり、食事が振る舞われたり、ビンゴゲームが開催されたりと多様である。またもちろん個人宅でホームパーティーも開かれていてそちらにも参加できる。私はなかったが、ホームステイしていればもっと行事を知ることができると思うし生活もより身近に感じる事ができる

ので是非ともおすすめしたい。IUPはインディアナという町に位置するのだが非常に田舎である。移動手段は車かバスで最寄りの繁華街までは1, 2時間掛かるので休日あまり出かけられない。しかし近くのマーケットまで無料バスがあるので日本からそこまで生活用品を持ち込む必要はないように感じた。持ち物については何でもアメリカで揃うので特にこだわりがないのであれば全てこちらで買える。私は日本に居る際アメリカの服は大きすぎて着られない。とか、日本にあるような生活用品は揃わない。などと偏見を持っていたのだがそんなことはない。ポッキーだってここで買える。買い物で思い出したのだがアメリカでは自動販売機でさえクレジットカードが使えるので1枚作っておくと良い。また寮費などを現金で払う場合、引き落とすのに手数料が非常にかかる上、1日に700\$ほどまでしか下ろせないのが初めから持っていくかおとなしくカード払いが良いと思う。授業についてほとんど書いてなかったのが補足。もし現地学生と同じ専攻科目が取れば講義は1日1, 2限のみであるらしい。もちろんその代わり内容が難しく課題も多い。科目によっては1回の講義が3時間続らしい。私がいた留学生クラスは90分の講義が毎日4限までであるのだが成績によってクラスが分けられるので、言っていることが分からない。などということはないと思う。もちろん授業内容は英語の勉強のみである。日本でも同じだが英語上達の鍵は空き時間をどう使うかである。留学中といっても毎日空き時間がたくさん存在する。課題をすることは前提だがクラスメイトと話しをしたり、食堂などにいけばアメリカ人と話す機会が無数にある。やはり日本で出来ないのはそのようなことなので是非とも出かけてほしい。正直なところ部屋にはルームメイトがいるし寮の共用スペースにも毎日だれかしらたむろしているのが話す機会はたくさんある。日本と違って暇そうにしている人に話しかければ話し相手になってくれるし、知らない人が話しかけてくることも多々ある。そういう時こそ自分から色々尋ねてみたらよいと思う。今回アメリカへの留学で本当に良い経験をさせていただいた。自分の中で人生最後の留学、そしてアメリカと思っているのだがもし不安があれば名学の先輩、国際センターなどで尋ねてほしい。もし友達関係の不安があるなら絶対にたくさんの友人ができることと明言できる。もし勉強関係の不安があるなら本田圭介の英語インタビューを見てほしい。相手に伝えるコツは今ある英語力で自信を持って話すことだと理解してもらえらると思う。留学後半のころアメリカ人に、何て言っているのか分からないけど何て言いたいのかは分かる。と言われた。もちろんそれでは不十分なのだが、ある日英語が話せるようになるわけではない。伝えようとして知っている単語、イディオムを絞り出し、相手の表現を真似て、伝わらなかつたら違う表現を探してみたり。と、それらを繰り返していくことで上達していくと思うし、それが効率

よくできるのが留学であると思う。最後になったが私が1番苦労したのが発音である。これは本当に重要で、個人的には単語よりも文法よりもイディオムよりも大事である。伝えようとするのが大切だと述べたが私の場合そのたびに苦労したのが発音だからである。もし携帯に音声認識（IphoneでいうSiri）があれば設定を英語にして話しかけてみてほしい。皆さんの留学がよいものになると願うとともに心から充実したものになるとお伝えします。



中期留学報告書

～私の人生で一番に大きかった経験～

マドンナ大学 16F0039 大角 真理

去年の夏、私はアメリカへと旅立ちました。“留学に行きたい”と思ったのは、私がまだ小さい時です。初めは、英語が話せたらカッコいい。ただそれだけの漠然とした理由だけでした。そんな漠然とした目標が大学に入学して目の前のすごく近いものになりました。先輩たちや、同級生に毎日刺激を受けながら、TOEFLの勉強に打ち込み、やっとの思いで、中期留学生に選んでいただきました。中期留学生に選んでいただいたときに、私はものすごく嬉しくて、母にすぐ連絡したのを覚えています。その後から、TOEFL講座や、留学に向けていろいろな授業や多読が始まり、毎日忙しい日々を過ごしていました。

そんな日々を送り、いよいよ8月。出発の日を迎え、家族に空港まで送ってもらい、出発ゲートにいざ着いたとき、泣かないと決めていたのに、初めての経験を前に泣いてしまいました。外国に1人で行ったこともなければ、5か月間日本語のない場所に行くことが不安でとても怖かったからだと思います。自分では気づいていなかったけど、不安だったのかなと思いました。でも、自分で決めたことは必ず実行するし、その悲しさをバネに絶ついにアメリカで頑張ってくださいと決めました。

そして飛行機に乗り、約13時間のフライトを経て、アメリカのデトロイトに着きました。最初の印象はあまり覚えていませんが、人が少なく意外に閑散としていたのを思い出します。とはいえ、とにかくすべてが知らないもので、怖かったです。程なくしてホームステイでお世話になるカレンさんにお会いして、お家に連れて行っていただきました。その車の中で早速英語を話している自分がいて、アメリカに来たのだな。と改めて実感させられました。そこから一週間ほどカレンさんのお家にホームステイをして、買い物に行ったり、コテージに連れて行ったりしていただきました。そんな忙しくもあり楽しかった1週間を終え、私はいよいよ学校の寮に入りました。

寮に入るときは緊張して、本当に日本に帰りたくなりました。そんな不安を抱えていた時に、初めてであったのが、私のルームメイトでした。初めて自分の部屋に入ったとき彼女は笑顔で、優しく私を迎え入れてくれました。ルームメイトがどんな子か何も知らなかったのも、とても心配していたのが嘘のように、緊張がほぐれました。その子のお蔭で、たくさんの新しい友達もできました。私は、同じときに仲良くなった5人組でご飯を食べたり、毎日のようにカードゲームをしたり、宿題をしたり、本当に毎日楽しい時間を過ごしていました。

それと反対に、授業はとても大変でした。授業は、レベルが大きく3つに分かれており、placement testの結果で授業も自動的に決まるシステムで、その中で私はHigh intermediateのクラスを受講し、全部で4つある授業(Speaking & Listening, Reading,

Writing, Grammar)を日ごとに受けていました。内容としては、クラスメイトと協力して、ある課題について発表をし、ある時は、生徒自身が先生のようなものになって、パワーポイントを使って、授業を行うなど、日本では絶対に経験できないような授業内容を経験しました。ですが最初の内は、先生が話していることが、いまいちわからなくて、悔しい思いもしましたし、慣れるまでは、授業が毎日苦痛でした。宿題も量が多く、こなすことも大変で、毎日のように泣きそうになっていました。でもたくさんの先生や、友達が励ましてくれたり、アドバイスをくれたり、いろいろな人のお蔭で、少しずつ自分なりにこなせるようになり、少しずつ授業が楽しくなっていき、クラスメイトとも仲良くなって、夜ご飯を一緒に食べるようになったりしました。それとともに、仲の良かった5人で遊びに行ったり、ご飯を作ったり、映画を見たり、買い物に行ったり、1人の先生のお家に招待され、素敵な時間を過ごしたり、毎日毎日が本当に充実してしていました。

そんな日々が続き、11月の下旬のThanksgiving がやってきました。私は、ルームメイトがシカゴ出身で、彼女の家にお世話になることになりました。彼女の家ではカードゲームをしたり、映画を見たり、美味しい料理を食べたり、自分の家族みたいだよと言ってもらい、それがとてもうれしくて、泣いてしまったのを覚えています。他には、彼女の親戚の方々にお会いしたり、友達に会って夜遅くまで遊んだり、Black Fridayには、たくさん買い物をしました。本当に、本当に楽しかったです。そんなThanks givingも終わり、期末試験の時期になりました。自分なりにたくさん勉強して、試験に挑みました。その結果、ほとんどのクラスで良い成績を収めることが出来ました。どの先生方も褒めてくださり、頑張ってきてよかったなど安堵しました。いよいよ寮を出るときは、すごく寂しく、もうここで勉強することもなければ、大切な友達と一緒に居られなくなるのかと悲しくなりましたが、友達はみんな“ずっと友達だよ”と言ってくれ、たくさんのプレゼントも貰い、私は1人の友達のお家に数日間滞在するためオハイオに向かいました。そこでも、私を凄くかわいがってくれて、恵まれているなど感じました。こうして、たくさんの思い出が詰まった留学生活も終わり、5か月ぶりの日本、そして5ヶ月ぶりに家族と会えたことは最高に嬉しかったです。

私は、たった5ヶ月かもしれないけど、たくさんの大切なことを学ばせて頂きました。留学前は自信がなかったり、欠点しか見ていなかったりすることが多く、それがコンプレックスで、いつも自分自身嫌だなど思っていた部分でした。でも留学を乗り越え、自分には支えてくれる人や、私を可愛がって、愛してくれる人がこんなにたくさんいることにとっても感謝と誇りを感じています。アメリカで出会えた人々は、私に一日一日をどれだけ楽しく、笑顔で過ごせるかを教えてくれました。ほんの少しのきっかけで、一歩、日本の外に出てみると世界は全く違うのだと身を持って感じさせられました。こんな私ですが、精一杯頑張らせてくれた家族、友人、こんな素敵な機会を与えてくださった皆さんにお礼を申し上げます。これからも教わったこと、自分自身学んだことを人生や日頃の生活に活かしていきたいと思えます。本当に感謝しています。ありがとうございました。

中期留学報告書 ～貴重な経験～

メンフィス大学 16F0054 加納 裕太

私は、アメリカのテネシー州にあるメンフィス大学へ中期交換留学生として約4か月間留学していました。そこで大変お世話になったメンフィス大学の関係者の方々には本当に感謝しています。

この留学期間は自分にとってかけがえのないものになりました。新たな友人との出会い、生活環境の違い、授業に対する姿勢など日本との違いに初めの頃戸惑いや、不安などがありました。様々な方のサポートを受けて徐々に慣れていき、充実した生活を送ることが出来ました。そして自分自身、留学する前に比べて成長することが出来たと思います。本当に周りの方々には感謝しています。ありがとうございました。

これより、私の4か月間の留学生生活を報告したいと思います。

8月の後半、私は中部国際空港から約14時間かけてアメリカのテネシー州にあるメンフィス空港へ行きました。空港にいたのは、日本からの留学生だけではなくフランスからやドイツから来た留学生もいました。そこにはメンフィス大学のスタッフの方が空港まで迎えに来てくれまして、皆で一緒にバスに乗って大学の寮まで連れて行ってくれました。ここではドイツからの留学生と同席になり、お互い自己紹介を交えながら英語でのコミュニケーションを取りました。多少英語に苦しむところがありましたが、会話が出来ているということがものすごく嬉しくて、そこで初めて留学に来たのだなと実感しました。私が住んでいた寮はアパートタイプで、各自それぞれの部屋はあるのですが、4人で1つのリビングを共有していました。食事はミールプランを取らなかったため、ほぼ毎日自炊をしていました。ですが日本ではあまり料理をしたことが無かったので、最初の頃は近くのスーパーで買ってきた冷凍のピザや炭酸飲料だけといった正にアメリカ人らしい生活を送っていました。寮生活というのは自分自身初めてで、ルームメイトと些細なことで何度か衝突した時もありましたが、話し合いもしながらなんとか楽しく共同生活を送ることが出来ました。敷地内にはアパートが何棟もあり、そこにはアメリカ人はもちろん様々な国からの留学生も住んでいて多くの方と友達になることが出来ました。一つの部屋に集まって皆で料理をしたり、会話を楽しんだりなど充実していました。メンフィスは、電車・バスといった日本では当たり前にある交通機関が無いので、どこへ行くにも車が必要です。なので、車を持っている友達を作る！というのがメンフィスで生活する上での絶対条件でした。有り難いことに、週に一度 ESL の先生方が車を持ってない留学生の為に近くのスーパーへと連れて行ってくれます。そこで先生と雑談をしたり、学校の事を聞いたりなど先生との仲を深めることができました。

授業は平日毎日朝9時から午後3時まであり（金曜日は午前のみ）、私はESLの授業を取っていました。ESLはリーディング＋ライティング、グラマー、リスニング＋スピーキング、プロナシエーション（選択授業）の4つに分かれています。授業が始まる前にESLを受ける留学生はレベル分けテストを行い、その結果によって各自授業のレベルが異なってきます。私がいたクラスにはサウジアラビアからの留学生を主に中東、南米、アジアなど様々な国と地域から来た方々と一緒に授業を受けました。やはり、授業のスタイルが日本と違うなど実際に肌で感じました。実際に日本と違うなど感じた事は、授業は生徒参加型、そしてクラスの雰囲気です。日本にいた時から周りの方々からアメリカの授業は生徒が積極的に参加しないと認められないなどと聞かされていましたが、まさしくその通りです。授業中分からない事があったら即座に手を挙げて先生に分かるまで聞く、自分の意見と違う意見がでたら口論になる位に必死に自分の意見を伝える。こういった日本の授業スタイルにはあまり無いものに最初は圧倒されましたが、日が経つにつれて徐々に慣れていき、先生方や周りのクラスメイトもサポートしてくれたおかげで私も授業に積極的に参加することが出来ました。成績を付ける時はこういった生徒の授業の積極的参加率も加味します。普段は真面目に授業を受けるのですが、ハロウィンやサンクスギビングなどイベントの日が近づいてくると授業の内容も変更して、みんなでお菓子やジュースを各自持ち寄せて映画鑑賞！といった楽しい事もします。私はこういった真面目な時と楽しい雰囲気が両方あるスタイルが魅力的で本当に大好きでした。平日と休日の違いもある意味魅力的だと思います。平日はしっかりと真面目に授業を受けて、その後大量の宿題に毎日追われます。最初の頃は本当に慣れなくて毎日睡眠時間2～3時間といった地獄のような日々が続いていました。ですが、金曜日の授業が終わると一転して皆遊ぶことに全力を注ぎます。友達とどこかへ遊びに行ったり、パーティーを何件か回ったりなど、平日とはまた違った楽しい忙しさを感じる事が出来ました。勉強する時は真面目に勉強して、遊ぶ時はとことん遊び尽くすスタイルはとても魅力的だと思います。

この留学中、私は沢山の素晴らしい友人と出会うことが出来ました。この友人達に私は本当に助けられたし、沢山の良い経験をさせてもらい感謝しています。私にとってクラスメイトとの出会いが非常に大きかったです。先程も述べましたが、私のクラスにはサウジアラビアから来た人が沢山いました。その人達とは最初から仲良くさせてもらって、よく一緒に遊びに行ったり、家に招待してもらったりしました。中でも、印象に残っているのは、彼らにアラビア料理店へ初めて連れて行ってもらった時の事です。ある昼休みに彼らがどうしても自国のアラビア料理が食べたいということで私も連れて行ってもらいました。アラビア料理は基本、お米とお肉が一つの皿の上に盛り付けされているのですが、彼らはスプーンやフォークといった物を使わず手を使って食べていました。話を聞くとサウジアラビアでは食事は手で食べるのが普通なのだそうです。TVでは食事を手で食べる方々を観たことはあるのですが、初めて生でそれを見たのですごく衝撃的でカルチャーショックを

受けました。私も彼らに見習って初めてお米とお肉を手で食べたら、予想以上に食べにくく、改めてスプーンとフォークの凄さを実感することが出来ました。他にもチリから来た留学生とも仲良くさせてもらいました。一度、彼女の家を招待して貰い、チリの伝統料理を作ってもらい、皆で頂きました。毎週金曜日には Language Table といって大学で日本語の授業を取っている人や日本に興味のある人が集まって一緒に日本の言葉や文化を学ぶということがあります。そこには、日本のことが好きな人が集まっているので私を快く迎え入れてくれました。その人達に日本語を教えたり、英語を教わったりなど楽しい時間を過ごすことができました。国籍や年齢、性別を超えてお互いの文化に触れあうことができたのはこの留学のおかげだと思います。

最後に、私はこの留学を通して様々な経験をさせてもらいました。英語を学べたのはもちろんの事、初めての共同生活、文化の違いをなど経験。中でも私は以前に比べて行動力がついたと思います。あれをやってみよう、これをやってみようという気になったのは留学しているという素晴らしい環境があったからです。学期が終わってから私は夢であったニューヨークへ10日間一人旅をしていました。友人の手を借りましたが、航空券からホテルまで自分で取ることが出来ました。行くことが夢であったニューヨークは自分にとって全てが新鮮で毎日が刺激的でした。

もちろん、この留学期間は楽しい事だけではなく、辛くて逃げ出したくなった時もありました。ですが、周り方のサポートもあって頑張ろうという気持ちになり乗り切ることが出来ました。この4か月間は私にとって間違いなく人生で一番濃く、幸せだった4か月間でした。本当にありがとうございました！

*私が住んでいた寮



*チリの伝統料理を食べた時



*クラスの集合写真



中期留学報告書

メンフィス大学 16F0026 犬飼 将章

私はアメリカのテネシー州にあるメンフィス大学へ中期留学させていただきました。多くの方々のお力添えがあって私のこの留学は実現できました。国際センター、インターナショナルラウンジの方々、大学教授の皆さん、私の両親、同期の親友たち、本当にありがとうございました。

私は八月の中旬から十二月の中旬の約四か月間、メンフィス大学へ行きました。留学する前にメンフィスについてパソコンで調べてみると、アメリカで一、二を争うほど治安が悪いという情報ばかりでした。留学へ行くことすら不安に感じているのに、そんな物騒な場所へ行くと思うとさらに不安は大きくなるにきまっています。

さて、不安七割、期待三割といったところでしょうか、メンフィスに着いたころは。しかし、以前名古屋学院大学で留学をしていた友人がメンフィス空港で出迎えてくれ、緊張がかなり和らいだのを覚えています。ただ、僕の住むことになる寮へ車で移動している時にその友人はこう言っていました。「メンフィスは危ない所だからね、夜に一人で外を歩くのは絶対にダメだよ！」と。願ってもなかった現地人の警告にただただ僕はビクビクしていたのです。

なんとか入寮手続きを済ませ、後日メンフィス大学で学ぶにあたっての諸注意、メンフィスについて、授業についてなどのオリエンテーションが行われました。しかし、困ったことにまったく英語が聞き取れません。そんな自分に嫌悪感を抱きながらも、これから自分がどれだけ成長できるのか楽しみだったのです。

授業が始まりました。私は ESL という留学生専用のクラスにいました。ESL とは英語に関する能力を身につけるためのクラスです。よって授業はリスニング＋スピーキング、リーディング＋ライティング、プロナンスエーション(発音)、グラマーといった、基礎英語を学ぶための授業が多くあります。

リスニング＋スピーキングのクラスではコミュニケーションに重きを置いている授業なので、クラスメイトと一緒に課題に取り組む、あるテーマについて一人ずつプレゼンテーションをすることなどが多いです。クラスメイトには、中国、メキシコ、ベトナムの留学生がおり、彼らと話していると様々な文化を知ることができてとても楽しかったです。みんなプレゼンテーションやテストへのやる気は凄まじいもので私にとって良い刺激となりました。

リーディング＋ライティングの授業では英語の読み書き、英文のレポートの書き方などを学びました。生徒一人ずつに小説が配られ、一章ずつ読むことが毎日の課題として出されました。毎日読むのはしんどいですが、回数を重ねるごとに読むスピードがみるみる速くなっているのが分かるので、英文を読むのが楽しくなっていました。初めの頃は小説

を読むことが他のクラスメイトよりも明らかに遅かったので、先生に相談していました。しかし先生は、「それなら君にとって学ぶべきは英文を読むことだね。大丈夫。何事も最初からできる人なんていないよ。続けることが学びなんだ。」と激励の言葉をいただき、思わず涙をこぼしたのを覚えています。こちらの先生は皆さん勉強している生徒には熱心に英語を教えてくださいます。私の個人的な意見ですが、日本の教員の方々よりも情熱的な先生が多い印象を受けました。

プロナシエーションの授業では発音の勉強をしました。発音記号一つ一つの発音の仕方や、動詞が過去形に変化した際に語尾の t, ed, d の付き方の法則についても学びました。自分でも気づかない間違っただ発音を見直せる授業でした。

文法は皆さんご存じのとおり、英文法の授業です。この授業では、英語の母語話者であるアメリカの人でも説明が難しい細かいところまで文法を学びました。生徒が授業に飽きないようにゲームを取り入れられた授業はとても楽しいものでした。



リーディング+ライティングの先生とクラスメイトたち

話は変わりますが、ここからは私のアメリカでの私生活の話をしたと思います。留学で最初に経験するであろうホームシックは私にはありませんでした。なぜなら、メンフィスの人々はとても親切で温かいからです。メンフィスへ来る前の私の現地の人々のイメージは拳銃を常備しており、毎日ケンカが絶えない、そんなヴァイオレンスな方々でしたが、そんなのは私のただの想像で現実の人々はとても優しい人たちでした。

メンフィス大学では毎週木曜日に聖書のお勉強会があります。キリスト教を信仰する

人々が多いからでしょう。現地で知り合った日本人の友人からそのことを聞いて、参加させてもらいましたが、衝撃的でした。勉強会の前に必ずキリスト教に関する歌を全員で斉唱するのですが、それが一番すごかったです。多くの人が両腕を高く上げて歌っているのです。しまいには泣きだす人までいるのです。まず日本ではありえない光景でしょう。こんな所に日本人の自分がいても良いのか不安でしたが、そこに集まっている人々は快く私を迎えてくれました。そのイベントの後には、フェイスブックの交換を多くの人とさせてもらい、「困ったことがあったらいつでも連絡してね。」と温かい言葉をかけてくれる人ばかりでした。今でも彼らとは良い友達です。

そして毎週金曜日には日本語を勉強している生徒たちによる、日本語の勉強会も開かれていたので、そのお勉強会にも参加させていただきました。まさか日本語の勉強がメンフィス大学でされているとは思いませんでしたので、とても驚きました。みんな一生懸命日本語の勉強に取り組んでおり、自分も負けていられないと良い刺激になりました。中には本当に日本語を話す学生もおり、なぜそこまで上手く日本語を話せるのか疑問に思う程でした。彼に日本語の勉強方法を教えてもらいましたが、どの言語を勉強するにしても使えるような方法でした。主には日本のアニメーションを観て面白いセリフをそのまま使ったり、知らない日本語に出会った時にはすぐに意味を調べて、その言葉も自分が覚えるまで使い続けるといった方法でした。私も洋画を観たりしていましたが、結局長く続けるはなかったのが本当にメンフィスの友人たちには感心ばかりしていました。

金曜日にはほとんどの生徒の授業がお昼には終わっていましたので、授業後には友人たちと遊びに行きました。スケートボードの練習や、私の寮にテレビを友人から持ってきてもらいテレビゲームをしたりしました。そのように集まるたびに私の知らない単語の使い方や宿題を教えてもらいました。メンフィスの方々の優しさは底なしでした。

アメリカで留学して感じたのは、アメリカ人は自分の感情をそのまま表情に出しやすい人だということです。なので皆ありのままの自分をさらけ出しており、とても開放的な印象を受けました。そして彼らは遊びと勉学を区別しているので、勉強するときは勉強に集中することもできるし、遊ぶときには全力で遊ぶので、勉学と遊びの両立が可能なのかと感心しました。アメリカでは必ず金曜日はハッピーフライデーといって授業は早めに終わるようです。それは先生も一緒に、授業での仕事の時間と十分な休息の時間をとれているので日本の教員の方よりも多忙ということはなさそうです。日本の学校制度にも教員がきちんと休息をとれる制度が取り入れられれば、精神を病んでしまう教員の数も減らせるのではないかと思います。

アメリカでクリスマスをお祝いすることはできなかったのですが、サンクスギビングという祝日を現地の友人の家族とお祝いすることができました。サンクスギビングというのは日本ではお正月のような行事で、その日は神様に感謝を捧げるとともに家族とその親族で家に集まってその日を祝います。食事はターキーという鶏肉や、パンプキンパイ、ハム、マッシュドポテトなどが伝統的だそうです。友人が自宅へ誘ってくれたので、伝統的

な祝日を現地で経験することができました。本当に日本でいうお正月のような雰囲気だったので、友人のおばあちゃんやお母さん、お父さんを自分の親族のように感じる事ができて、緊張感を感じることなく会話ことができました。

この留学は私にとってとても素晴らしい経験になりました。現地で出会った友人たちの一生懸命に自分の夢に向かって行く姿、先生たちの温かい励ましの言葉はいつまでも私の心の中にあり、私を応援してくれることでしょう。また機会があればメンフィスへ旅行したいと思います。長い文章にお付き合いしていただきありがとうございました。皆さんのお役に少しでも立てればと思います。

中期留学報告書 ～自己の成長～

メンフィス大学 16E0136 榊原 陸

僕は留学という貴重な経験を通して実にいろいろなことを学びました。まず始めに、僕にとって外国に赴くということ自体が大きな刺激になったことです。僕は生まれてから一度も海外に行ったことがありませんでした。それに加えて、飛行機に乗ったこともこれまでなかったため、アメリカでの生活が始まる前から新鮮に感じるばかりでした。僕は周りの留学生たちに比べると、TOEFLの成績が低かったこともあり、英語力に関してほとんど自信がありませんでした。しかし、アメリカで毎日を過ごすうちにその悩みも解消されるだろうし、たとえ英語ができない状況下でも何とかなるだろう、と自分でも驚くほど楽観的に留学というものを考えていました。

ところが、アメリカに到着してまもなく、僕は苦戦を強いられました。米国に入国する際には誰もが通らなければならない「入管」で、入国管理官にいくつか簡単な質問を尋ねられ、僕はそのほとんどに答えることができませんでした。いま考えてみると、無意識による不安や外人と実際に話した機会がこれまでにほぼ皆無だったことにより冷静さを欠いたなど、さまざまな要因は挙げられますが、何よりも僕の勉強不足、リスニング力の乏しさが一番の原因だった、とかつての僕にも今の僕にも確かに理解できます。その場は、ともにアメリカへ向かった友人の助けを借りることで事なきを得ましたが、入国するや否や、僕は自分の勉強不足を突き付けられました。

その後は、特に大きなトラブルもなく、デトロイトを経由してメンフィスに無事到着しました。強いて言えば、メンフィスの空港で僕たちを迎えてくれた大学の職員さんとボランティア学生との会話が上手く成り立たなかったことです。それでも彼らは、言いたいことを一生懸命、伝えようとする僕の言葉を親身になって聞こうとしてくれたので、僕は落ち着いて考えながら話すことができました。メンフィス大学の向かいに位置する学生寮に到着したときには、ある現地の学生とも割と打ち解けていました。そして、寮の管理を担っているオフィスで簡単な手続きを済ませると、僕が約四ヶ月の間、暮らすことになる部屋へと案内されました。

僕の部屋には、名古屋学院大学から来たもう一人の日本人と現地のアフリカ系アメリカ人が二人、僕を含めて四人の学生が住んでいました。僕らが到着したとき、すでにその二人の学生は暮らしていたので、部屋に着くなり簡単な挨拶をしましたが、当時の僕には彼らの英語が非常に聞こえづらかったことを覚えています。今だからわかることですが、メンフィスが日本で言うところの関西弁のような方言らしい英語であること、またアフリカ系アメリカ人の多くがスラングばかりを使っていることがおもな理由（もちろん僕の勉強不足もあります）でした。けれど、彼らもまた気さくで良い人たちだったので、僕はその

時から、これから経験するだろう多くの出来事にわくわくを隠し切れませんでした。

二つ目に、授業から得たことが英語力アップだけではなかったということです。アメリカという土地に身を投じ、英語しか通じないところで英語の授業を英語で受ける。こんな誰にでもわかる当たり前のことですら、僕は授業を受けるまで実感が湧きませんでした。初日の一限目の授業に出て、「本当に英語なんだ！」と呑気なことを考えながらそれと同時に、先生の言っていることを単語程度でしか聞き取れない焦りと、授業の進行や先生の話す速さにいささか不安を感じていました。当時の僕は本当に狼狽えていましたが、いま思えば、そのおかげで授業の予習に励み、独学でも英語を勉強しようというやる気につながりました。結果として、留学中の学習時間が増えたこと、それを通して勉強と遊びのけじめがついたことは良かった点だと思います。また、アメリカの授業は日本の授業と比べると、生徒が発言する機会が非常に多いです。そして、発言をしない生徒は減点される授業が多いので、自分なりにできるだけ発言するよう取り組みました。その影響からか、授業で頻繁に行われるプレゼンテーションでは後半期、ほとんど緊張することなく、落ち着いて自分の満足いく発表をすることができました。それとともに、僕は昔から意思表示をするのが苦手な人間でしたが、いろいろな場面で自分の思っていることを臆することなく言えるようにもなりました。それから授業の内容として、災害や芸術家、生活などのテーマを学ぶ際にさまざまな国について、この国ではこんな災害が起きて、この国では街中にアートが張り巡らされていて、どの国にはどんなことがあり他国とはどう異なるのか、といった好奇心をそそる内容が多くみられたので授業が退屈に感じることはなく、楽しみながら受講することができました。さらに他国への興味も深まり、行ってみたい国や触れてみたいと思う文化や風習を知るきっかけにもなりました。

三つ目に、アメリカでの私生活から考えさせられることが想像以上に多かったことです。最初にも記したとおり、寮の部屋には僕を含め、日本人二人とアフリカ系アメリカ人二人が住んでいました。僕はメンフィスへ到着した次の日、ルームメイトのアフリカ系アメリカ人一人に、みそ汁やういろなど日本を発つ前に購入したいくつかの日本の食べ物を振る舞いました。もちろん、僕の英語力が一日で急に改善されるはずもなく乏しいままでしたが、彼はそれらを気に入ったらしく、美味しいよ美味しいよ、と笑顔でぱくぱく食べてくれました。このとき、僕は英語がうまく伝わらずとも食事という行為を通して、言語の異なる人々とも親しくなることができるんだ、と感動を覚えました。それだけに限らず、他のさまざまな場面でも英語が流暢にできなくとも外人と楽しく交流できるということを学びました。

留学生活が始まってから一週間くらい経過したころ、メンフィスの大学でできた現地の友人からサッカーに誘われました。そこには、一般学生をはじめ、いろいろな国の留学生やメンフィス大学の教授なども多く参加していました。その時にも、僕は簡単な自己紹介程度しか英語を話せなかったにも関わらず、サッカーを楽しみながら自然で心地よい時間を過ごすことができました。英語を学びに行ったからには英語力アップはもちろんのこと

でしたが、コミュニケーションを取ろうと積極的に努め、お互いが楽しめる時間を作れば、全世界誰とでも仲良くなれるのではないかと、思いました。

次に、僕が考えさせられたのは身の回りのことを自分でやるということがいかに大変かということについてです。留学をするということは、つまり、向こうで生活する期間、すべて自分のことは自分でやらなければいけない、ということです。僕はそのことを簡単に考えていましたが、思った以上にそれを実行するのは難しかったです。しかし、料理や掃除、洗濯などの家事や早寝早起き、宿題……といったどれも生活するうえで欠かすことのできない本来できて当たり前のことだったので、しばらくは辛い日々が続きましたが、それでも一ヶ月経つ頃には習慣として身につけていました。このことは、帰国した今でも非常に役立っており、以前に比べて規則正しい生活ができています。同時に、いつもそれらをみんなの代わりにやってくれる母親の有難味に帰宅して気づかされました。

続いて、アメリカの祝日についてです。アメリカには、サンクスギビングという名の日ごろの感謝を込めて自身の家族はもちろん、友人なども招いてターキーやグリーンビーンズといった伝統的な料理を食するという祝日があります。このときに衝撃だったのは、一人一人がいつも感謝している人物の名前を挙げてありがとう、と言葉に出して感謝するという行為についてです。日本では誰かに感謝する祝日はあるものの、このように御礼として祈るような風習はないな、と、思いました。これは、宗教の関係が強いのではないかと思います。普段日本にいるときには感じることでできない光景を何度も目の当たりにしました。サンクスギビングだけではなく、ほとんどのアメリカ人（主にキリスト教徒）はクリスマスや新年といった行事の際も友達や彼氏・彼女と過ごすことは珍しく、決まって自分の家族だけで過ごすというのも驚きの一つでした。

最後に、自分は長期留学を望んでいたものの、中期しか行くことができず、最初に中期と決まった時には少し残念に思いましたが、実際に留学してみて感じたことは、今回の留学がわずか四ヶ月ほどの滞在で良かったということです。その理由として挙げられるのは、僕の性格上、おそらく一年もの間、アメリカに住むとなったらそれで満足してしまい、英語に触れる機会はそれきりになったと思います。ところが、約四ヶ月という期間で僕の英語力はようやく日常英会話ができる程度になっただけに過ぎず、また短い時間だったからこそもっと長くいたかった、また必ず戻ってこよう、あそこの州に行ってみたい、といったアクティブな考え方ができるようになりました。結果的には、中期留学という形で良かったと満足しています。ただ自分の英語力にはまだまだ満足していないので、これからも英語の学習はこつこつと怠らずにやっていきたいです。

中期留学報告書 ～留学が教えてくれたこと～

メンフィス大学 15F0045 小林 拓也

テネシー州 メンフィス

メンフィスは治安が悪いと言われていますが、それを感じることはなかった。ただ夜一人で出歩くことはやめた方がいいと思います。気候は名古屋と似ていると言われていましたが、私が思うに夏は似ているかもしれませんが、冬は寒いと思います。暑いか寒いかのどちらかしかなく、体調の管理が難しいかもしれません。夏は予想以上に暑く嫌になりました。私は最初の頃少し体調を崩しましたが、それ以降は風邪をひくこともなかったです。雨は思ったよりも少なかったと思います。トルネードなどの心配はあまりないと思います。基本的に車が必要な所で近くにお店はなく不便に思いました。大学は空港から近いところにあります。

現地の人たちは最初の頃は何を言っているのか聞き取ることが難しいと思いますが、温かい人が多いと思いました。その点では安心できると思います。

大学寮

一言でいうと何もありません。寮費は高いと思うかもしれません。一から自分でそろえなければならないと思います。3人か4人の人と暮らすことになると思いますが、自分の部屋は個室になっていて鍵をかけることができるので、プライベートが完全にないという事はないと思います。私のルームメイトは部屋で薬かタバコを吸っていたので、部屋を変えてもらいました。不都合があった場合は部屋を変えることができるので良かったと思いました。食事は自炊をすることが多いと思います。パスタが安いですし、早くできるので私もよく作って食べていました。ミートソースを作るのが上手になったという話も耳にしました。アメリカは物価が高いと思いました。ピザを食べる機会が多いと思います。最初は美味しいのですが多くは食べることはできないですし、食生活の面でも苦勞するところがあると思います。脂っぽいものやチーズを使った料理が多いです。胃がもたれることがあるので薬は必要になると思います。後半、私はチーズを食べたくなくなりました。大学は大変広く自然があり、図書館やジムなどの設備が整っていると思います。

授業

レベル分けのテストがあり、それでクラスが分かれます。基本的にリーディングや文法のクラスが毎日あります。同じ時間からスタートするので規則正しい生活が身に付くかもしれません。同じ授業が毎日あるのは高校みたいですし、辛いと感じることもあるかもしれません。私は辛いと感じました。文法は難しいからではなく分かっていることを英語で

説明されているだけなのでそう感じました。自分の力になっているのかも分からなかった
ので不安もあったと思います。クラスを変えることもできなかったので宿題を多く出して
もらったりもしましたが、これはこれで辛いと思います。自分で選択できる授業は無いに
近いですし、英語以外は取れません。日本との違うところは、発言をして参加する必要が
あるという事です。私も参加があまりできなく、周りを見ても日本人はやはり参加するこ
とが苦手だと感じました。最初は授業についていくのが大変かもしれませんが、目標を持
って取り組むことが大切だと感じました。せっかく留学をしているので、文法やリーディ
ングも大切ですが、とにかく会話をした方がいいと思いました。私は一か月以上たっても
リスニングが伸びているという実感もなく、落ち込むことが多かったと思います。

先生たちはとてもよくしてくれると思います。何か困ったことがあったら相談してみ
るといいと思います。

大学生活

私の場合は環境に慣れるのに一か月はかかってしまい、無駄な時間を過ごしてしまった
という感じもありました。そのために留学が終わる 2 カ月前くらいは大変焦りました。初
めの頃は、なかなか生活などに慣れることができなく早く帰りたいという気持ちがありま
した。初めは一人でいることが不安だと思います。その頃は私もグループで行動をしてい
ました。慣れてきたらある程度一人で行動することを勧めます。会話を誰かに頼ってしま
うことが多くなるのでそう思いました。これは私の意見ですが、あまり日本人と一緒にい
ると人間関係に悩むことが多いと感じました。レベル分けテストも上手くいかなかったり
して、思うようにできなかった面もありました。それに留学前に勉強すると思いますが、
現地に行ってからギャップに落ち込んだりすることもありました。とにかく何を言っ
ているのかが分からなかったです。会話をすることがリスニングやスピーキングを伸ばす近
道なのかなと周りの日本人を見て思いました。普段からは私は話す方ではなかったのに、
その点でも失敗したかなと思いました。話そうと意識してはいるのですが、すぐ変えるこ
とは難しいと思いますので、留学前に話すことが苦手だなと思う人は、意識を変えるこ
とを勧めます。日本語を勉強している学生も多いのでアメリカ人の友達もできると思いま
す。ですが、英語を使うように意識しないといけないと思いました。パーティーが何回かある
と思いますが、ぜひ参加してください。宿題があつて行けないという日もあるかもしれま
せんが、留学生以外も集まるのでいい体験ができると思います。私はどちらかというとな
が多いところは苦手なのであまり参加しませんでした。いろいろな国の人と話ができて
楽しかったです。私はあまりクラスの人と話をした記憶がないです。仲が悪かったわけ
ではないですが、どうしても同じ国の人同士では英語を話さないの、そこに入っていこう
という気にはなれませんでした。他のクラスの留学生とはよく話をしました。

友達とはよくビリヤードなどをしたりして遊びました。一度もやったことがありません
でしたが楽しめました。ハロウィンやサンクスギビングといった現地でしか体験できない

ことがたくさんあると思います。ハロウィンの近くには友達の家でホラー映画を見ました。私はホラーが苦手なので字幕がなくてよかったと思いました。映画を見たりするイベントを考えたりすることも日本とは違うと感じました。初めてジャック・オ・ランタンを作りました。みんなで作ったせいかな思ったより簡単にできました。私はサンクスギビングにホームパーティーのようなものに参加しましたが、行ってよかったと思いました。アメリカならではの料理を食べることができると思います。大変いい思い出ができました。

大学生の試合を見に行くことがあると思います。アメリカではフットボールが人気のスポーツみたいです。私はバスケットボールの試合を見に行きました。試合会場が想像していたものよりも遥かに大きく設備やセキュリティーにも驚きました。メンフィスのチームは強いので試合を楽しめました。応援も盛り上がりました。NBAも見に行きましたが、また学生とは違うプロの試合が見ることができ良かったです。そういうものに行くと、大変いい思い出が作れると思います。スポーツも友達になるきっかけにもなると思います。

授業が終了した後には旅行をすることができました。目的地につけるか不安でしたが、無事到着することができたので、少しは私の英語も改善されたのではないかなと思うことができました。旅行なども自分の英語力を実感することができるいい機会だと思います。

留学生活で学んだこと

自分から積極的に行動してコミュニケーションをとっていかなければ何も始まらないという事です。もちろんそういうことが苦手な人もいると思います。私も苦手ですが、変えようという気持ちを持っていくことが大切だと思いました。失敗することはたくさんあると思いますが、それを重ねることによって学べるものも数多くあると思います。まずは自分の目標などをしっかり持って留学前の勉強をしていくといいと思います。私は留学することにより気持ちの面で変わったところがあると思いますし、多くの事を教えられたような気がしています。

日本との違いもやはり多く学べると思います。留学しないと分からないことがあると思います。アメリカは自分に合っていると言っていた人もいました。私の場合は日本の方が生活しやすいと感じました。いろいろな人の意見を聞くことができるので楽しいと思います。

中期留学は長いようでとても短く感じると思います。その中で自分の思うようにすることはとても難しいと思いますが、そうすることができるように留学前の準備はとても大切だと思います。

さいごに

私はたくさんの人に支えられて留学をすることができました。自分一人では何もできませんでした。留学生活は終わってしまいましたが、それで終わりにしないように学んだことをこれから活かせるようにしていきたいと思います。メンフィスのことしか書けません

が、これから留学をする人のために少しでも役に立てば幸いです。お世話になった方たちには大変感謝しております。ありがとうございました。



中期留学報告書

～成長～

メンフィス大学 15E0063 内田 健介

まず初めに、大学及び国際センターの皆様のご支援のおかげで、留学という大変貴重な経験ができたことを御礼申しあげます。8月22日から12月13日までの3ヶ月半は長いようでとても短く感じましたが、アメリカの生活や食事、遊びなど様々な場面でアメリカの文化に触れることができ、自分にとって大変有意義なものとなりました。心よりお礼申し上げます。

アメリカへ行く前は、自分は留学というものを楽観的に捉えており、行けば何とかなる、英会話の能力も自然とついてくると考えていました。しかし、現実はそのほど甘くなく、最初の内は緊張もあり自分が思っていた以上に喋ることが出来ませんでした。もっと日本にいる間に勉強しておけばよかった、もっと計画して留学に臨むべきだったと後から後悔しました。アメリカに到着してすぐは、右も左も分からず本当に苦労しました。初めの2週間はただ流されるまま1日を過ごすような日々でした。英語を聞き取ることも難しく何度も何度も聞き返してやっと言っていることを理解しても、自分の考えを上手く相手に伝えることができず、もどかしく、不甲斐なく思いました。しかし、少し前まで名古屋学院大学に留学に来ていたアメリカ人の方が親切にも色々な手続きを手伝ってくれたこともあり何事もなく過ごすことができていました。

一月も経つと英語にもだんだんと慣れてきて英語での日常会話を楽しめるようになってきました。けれどもある日、このままただ楽しく簡単に留学を終えてしまっているのかと思うようになりました。このままで、自分の能力向上のためになるのかと考えました。それからは、何事もまず1人でやってみることにしました。大学の個人用郵便受けを開設してスターバックスコーヒーマシンの会員になったり、1人でニューヨークに旅行に行ったり、とても大変でしたが、1人で行動することは自分にとってとても良い経験になりました。特にニューヨークへの旅行は飛行機の手配からホテルの手配まで、日本にいる間にもやらなかったことまで経験することができました。ホテルのチェックインの時などはとても緊張しましたが、スムーズに行うことができました。現地での細かい場所が分からないので人に道を尋ねることもしました。これらの行動で英会話の能力も少しは向上したと思うし、それ以上に自分に自信が持てるようになり大抵のことは何とかできると思えるようになりました。こんな大変な思いをしたのだから、他のことなら何でもできる、自分なら絶対できると思えるようになりました。

しかし、1人でできることには限界があり、友達を頼らざるを得ない状況が何度もあり、とてももどかしく思いました。特に自分は日本にいるときから1人で行動することが多かったため、アメリカ人の友達に対し申し訳ない気持ちでいっぱいでした。しかし、友達は

嫌な顔1つせずに関わり手伝ってくれました。私は日本にいるころにはアメリカ人の方は何事も自分の損得を中心に物事を考える、淡白な部分があると勝手に偏見を抱いていました。しかし、実際は多くの方が自分たちにやさしくしてくれました。時には大学内の学食で自分が注文に困っているときに、見ず知らずの人が助けてくれることもありました。自分が黄色人種の外国人だから助けてくれたのか、大学という学生の小さなコミュニティーだから、たまたま親切な人が多かっただけなのかもしれません。けれども、これらの親切により、自分はアメリカ人だけでなく、人を人種や見かけだけで判断するべきでないと、改めて思いました。

その他にも、アメリカではドアを他人のために開けておく文化があり、その際、多くの人が、”Thank you””You are welcome”と短いながらもコミュニケーションをとる文化は、今の日本ではあまりみかけないですがとても大切なことだと感じました。しかし、日本の文化もアメリカの文化に劣らないほど良いと思います。このような経験から次第に日本語や日本の文化をアメリカ人の方だけでなく多くの外国人の方に伝えていきたいと思いました。

なので、授業の合間などに、他の留学生の方々に日本について教えていました。皆日本にとっても興味を持っていてくれて、いつかは日本に旅行に行きたいと皆言ってくれました。折り紙などにもとても驚いていました。他の国からの留学生の方々は日本人留学生よりも、何に対しても意欲的で英語だけでなく日本語もすぐに覚えていました。外国人の方々のアグレッシブなところは、日本人にはなく、このような姿を見てとても刺激になりました。

逆に、自分は留学生からスペイン語やアラビア語などを教えてもらい知識が増えました。しかし、短い期間だったのであまり覚えることができませんでしたが、他の言語や文化にもっと触れたいと思うようになりました。また、今回の留学だけでなく、アジア圏やヨーロッパ圏などのもっと多くの国を訪れたいくなりました。

アメリカ人の方々とバスケットボールをする機会があったのですが、アメリカ人の身体能力の高さに圧倒されました。自分はスポーツに少しは自信があったのですが、プレイでまったく敵いませんでした。身長や体格の違いも少しはありましたが、やはり外国人の体の強さというものがあるのだらうと思いました。言葉が悪いですが、自分より背が低く太っているような人でも、とても機敏に動いていて驚きました。いかに世界で活躍するスポーツプレイヤーが凄いか実感した感じです。自分の出来なさに悔しくて、学校にあるジムにも行きましたが、ジムにいる人に比べると自分はとても細くさらに惨めな思いでした。

アメリカに留学に来て、日本の便利さを再認識しました。アメリカでは車がないとほぼどこにも行けないと、言っても過言ではないほど土地が広くあらゆる場所の距離が遠いと思いました。普通のスーパーマーケットに行こうと思うと車で10分は当たり前で、ダウンタウンまで行こうと思うと、車で30分かかります。その点、日本の特に名古屋では電車、地下鉄さらにはバスも多く走っていて、車がなくてもどこへでも行けます。さらにコンビニなどは歩いて5分もあれば1つあるぐらいです。アメリカでも車を所有していれば、家

も広いし快適に過ごすことができると思いますが、日本の便利さに慣れているとアメリカは大変でした。

3ヶ月の間外国で生活をする事が出来るということは、大学の内にしかできず、さらに限られた一部の人しか出来ません。自分は本当に貴重な経験ができ、とても嬉しく思います。しかし、自分の努力が足りず英会話の能力はまだ、日常会話が何とかできるレベルです。しかし、人間としては一回りも二回りも成長出来たと感じています。これからも英語学習を怠らず、TOEICなどを通して英語学習に励んでいきたいと思っています。また、今回の経験を生かして就職活動を頑張り、最終的には商社などで英語を生かして社会に貢献できる人材になれたらと思います。

最後に留学をご支援して下さい、名古屋学院大学並びに国際センターの皆様にご心よりお礼申し上げます。本当に有難うございました。

中期留学報告書 ～初めての留学～

パシフィック大学 15E0329 村瀬 萌子

今回の留学は、私にとっていろいろな「初めて」を経験できた、充実したものでした。初めての海外渡航、初めての寮生活、初めての友達、初めての文化など、今までの自分がどれだけ狭い世界で暮らしていたのか実感しました。

初めて飛行機に一人で乗り、現地の空港で学生さんが出迎えてくれた時にすごく安心したのを覚えています。私の拙い英語でも、単語一つ一つを汲み取ってくれたので、たった単語一つであったとしてもなんとなくだったかもしれませんが、私の言いたいことを理解してくれました。日本語が絶対じゃない場所で、拙いけどわずかな単語が相手に通じた時の達成感は大きい物でした。空港から学校に向かい、そこから私の怒涛の4ヶ月がはじまりました。今となってはとてもいい経験だったと言えますが、はじめのうちは慣れないことばかりで、正直帰りたくて仕方ありませんでした。話せない、意思疎通ができないというだけでこんなにもストレスが溜まるとは思いませんでした。その結果、空港に着いた次の日に最初のオリエンテーションがあったのですが、私はそのオリエンテーションに寝過ごして2時間も遅刻してしまいました。これが日本であれば何かしら理由をつけてなんとか言い訳ができるものの、英語でそんな器用に話せるわけもなく、とにかく”I’m sorry.”の繰り返ししか言えませんでした。それでも、先生たちは拙い私の英語の謝罪理由を聞いてくれて、大丈夫だよと励ましてくれました。たとえ言語は違っても、人の温かみというのは国境を越えても変わらないのだと、テレビ番組の煽り文句のような言葉が私の心に染み渡りました。一週間程度オリエンテーション期間が設けられた後、いよいよ授業がはじまり、少しずつですが友達も出来ました。その中でも、Conversation Partner という制度が、私にはとても印象的でした。私一人に対して、現地の学生が一人ついてくれて、一週間に一度一時間程度英語で会話を続ける時間です。話す内容は何でも構わないということで、私のことを知ってもらったり、相手のことを聞いたり、私が現地の文化や習慣で疑問に思ったことを尋ねたりと、とても充実した時間を一番過ごすことができたと思います。

あっという間の4ヶ月を思い返してみると、着いた時は帰るまでがとても長く感じ早く帰りたいの一心で



したが、今はなんて短い 4 ヶ月だったんだろうと、もっとやりたいことがたくさんあったのにと、少し後悔していることもあります。それでも、その 4 ヶ月で得られた経験は、間違いなく私の人生に大きな足跡を残してくれたと感じています。

中期留学報告書

～自信につながった生活～

パシフィック大学 15F0120 野本 実早希

高校の時、友人が何人かオーストラリアに 1 年間留学していました。友人たちが帰国して会った時にそこまで積極的じゃなかった子が、とても自信に満ち溢れた性格に変わっていたことをとても覚えています。その時に、「なんでかわからないけれど留学したい、海外に行って自分も自信を持てる人になりたい」と思ったことが留学を目指したきっかけでした。

残念ながら、大学 2 年生の時に交換留学に行くことが出来ませんでした。周りが公費でみんな行っているのに取り残された感じがとても悔しかったです。それをばねに 3 年生で絶対行ってやるという気持ちが大きくなり、たくさん TOEFL の勉強をしたのを覚えています。その願いが叶い、3 年生でいけることになり、やっと人生の大きなイベントに参加できることをとても楽しみにしていました。

出発してから初めの 2 週間はコー大学で研修プログラムに参加をしました。先輩たちや行った事がある子に聞くと、「とても宿題が多くて寝るのが夜の 3 時だよ」という事を聞いていましたが、まさにそうでした。リーディングは毎日 2~3chapter ずつあり、ライティングもお題が難しく書き方、文法なども何度も何度も直されていたのでとても苦しかったです。その時一度英語が嫌いになり、あまり外に出たくなくなったのを覚えています。ですが、一緒に行った子や早稲田の子とルームメイトでお互い助け合って宿題をしたりして、みんながいたおかげでやりきることができたと思います。

もう一つ自分がいつもわからなかった事は、買い物でした。特にレジに行ったときは店員の話していることがさっぱりわかりませんでした。アメリカ人は初めにあいさつをしてくれますが、それすらも聞き取れなかったくらいでした。言われたことはすかさずメモをして、次に言われた時はこう返事をしようなど工夫をして少しずつ覚えていくようにしました。過ごして 2 週間だけでしたが、バスも乗れるようになったし、自分から少し話しかけられるようにもなったので、この気持ちを忘れずに自分の派遣大学に行きました。

パシフィック大学は毎年多くの日本学校から派遣学生が来ますが、幸い私が行ったときは少なくたくさんの外国人と話せる機会が多くなると思っていました。しかし、現実はその甘くありませんでした。大学のレギュラークラスをとっている学生はもちろん向こうの学生と仲良くなれるし本場の授業を取れますが、私たちは ESL という留学生のみの授業だったので、日本人とサウジアラビア人しか授業にいませんでした。日本人がいるとや

はり日本語で話してしまうし、頼ってしまうことが多かったです。

そして、一番問題だったのが寮でした。初めは3~4年生用の寮と聞かされていましたが、Walterという1~2年生専用の寮でルームメイトもいい人でしたが全く話してくれない人でこれからうまくやっていけるか不安になっていました。寮も汚くて、住んでいる学生もマナーが悪い人が多かったです。

自分には時間が半年という短い時間だったので、この現状を何とか乗り越えないといけないと思い、ルームチェンジの期間に思い切って全く知らない人のところに一緒に住んでもいいかとお願ひに行きました。その寮はBurlinghamというきれいで静かな寮で、ルームメイトもアメリカ人、メキシコ人、ハワイアンでとても面白く気さくな人でした。私は運よくその部屋に入ることができ、残りの半年間をそこで過ごすことができました。

ルームチェンジをしてから毎日部屋では英語が飛び交っていて、リスニング力がとても上がりました。ルームメイトの友人も紹介してくれて、たくさんの人と友達になることができましたし、イベントにもたくさん連れて行ってくれました。また、わからない英語もたくさん教えてくれていい環境に恵まれたなと思いました。10月に受けたTOEFLでは日本でいたときより100点くらい上がって、本当にルームチェンジをしてよかったと思っています。そのおかげでクラスのレベルも一つあげることができ、10月以降は難しい授業に参加できるようになりました。

そして私は中学からずっと吹奏楽をやっていたので、アメリカで吹奏楽部に入ることにしました。自分にとって異国の地で吹奏楽をやることはとても勇気がいることでしたが、何事も挑戦だと思い入部しました。オーディションをしたら1stに選ばれてクラリネットのトップで演奏することができました。自分も驚きましたが、こんな機会はないと思ってたくさん練習しました。演奏会ではソロも吹かせていただけて本当にたくさんの人にも応援してもらえたとし、吹奏楽部に入って音楽好きの人にもたくさん出会えたことに感謝をしています。

この留学で一番分かったことは、自分を変えるためには、変わりたいと思った時に、躊躇せず、自分の直感でたくさん動いて、挑戦することが必要とわかりました。アメリカの生活では自分でも驚くくらい積極的に行動をしました。積極的に行動をしても英語が通じず理解してもらえず、失敗したこともたくさんありました。ですが、その失敗からもう一度やってみよう、次は言われたことにこう返してみようなど考えながら行動することが身に付きました。そうすることでいろんな人にも出会えるし、友達の輪も広がりました。自分の留学生活は大変だったけれどとても充実していたし、高校の友人が積極的な人になった感じや気持ちも、今では自分でもはっきりわかります。これから留学に行く人たちにはぜひ今自分にはできないと思っていること、やりたいこと、行きたい所に全部挑戦してもらいたいです。興味を持った人にすぐ話しかけに行ってもらいたいです。きっと日本に帰ってきたときに、自分ってこんな人だったっけ?とか、こんなに変わることができた!とわかる時が来ると思います。

中期交換留学報告書 ～半年で分かった中国というクニ～

天津外国語大学 16F1044 箕浦 健二

私は中期交換留学生として天津外国語大学で留学しました。留学した理由としては、1年生の時に特別留学に参加しませんでした。大学1年生の時に中国で特別留学した人たちの経験、自信などが一目で分かりました。もしも留学すると語学や経験が日本に帰国してから残りの大学生活で生かし、この機会に留学することを決意しました。

初めての海外もあって不安ばかりしかありませんでした。これから半年間全く分からないところに行くのもあって不安がつるばかりで、他の留学生の人・クラスメイトと仲良くできるのか不安でした。自分の中国語もそんなに上手ではなく自信がありませんでした。だから最初に空港到着後、現地の中国人と上手くしゃべれませんでした。

天津外国語大学は、周りがヨーロッパの街並みが多いので最初本当にココが大学?という疑問がありました。大学内の寮で8月の下旬～1月の上旬の半年間過ごしました。部屋は2人1部屋でルームメイトと一緒に住みます。最初はお互いどうやって接したほうがいいのかわからない状況でしたが、徐々に打ち解けあい不安もなくなりました。ルームメイトは留学生の寮内は、日本人と韓国人が多いです。ルームメイトは韓国人になることが多いかもしれませんがもちろん例外もあって私の場合はウズベキスタンの人とルームシェアしました。

初めはほとんど本人と大学校内近くに賓江道やセンチュリーマートなど行きました。賓江道は、多くのは百貨店が並ぶところでH&M・ユニクロなど吉野家などのファーストフードがありました。センチュリーマートは食品と雑貨・家具が立ち並ぶスーパーです。

9月上旬から授業が始まりました。最初の第1週は自分の中国語のレベルに合わせるようにクラスを決めることで仮登録みたいな感覚です。その後授業から2週目に入ったあと登録されます。特に手続きは2週目の授業の最初に名前を書くぐらいだけでした。精読は、単語と文法を学びます。阅读はリーディングで答えを本文中から探すことです。口語は中国語のコミュニケーション力を鍛える事で、听力はリスニングで、視听说は見て聞くだけです。授業は朝8時から始まりますが、クラスによって午前中に終わることもあるので授業終わった後にショッピングすることもあります。これらは、1週間の授業回数は、異なりますが、10月下旬から11月上旬に中間テストと12月の中旬に期末テストを行います。

留学中の半年間は、いろいろな行事もありました。日本と韓国の留学生が多いので、日本人と韓国人の運動会を9月下旬に開催しました。サッカー・バスケットボールドッジボールなどやりました。11月にクラスメイトで各国国々の料理を作るクラス会をやりました。イタリアはパスタ、ロシアはボルシチなど各国の代表の料理が出てきました。日本は、鳥五目ご飯とみそ汁や別日に焼きそばを作り成功し、だんだん留学生活が楽しく感じました。他にも9月に留学生歓迎会12月にクリスマス会などパーティーがありました。

生活としては以前より 1 元=16、7 円計算だと考えた方がいいと思います。学食は、6～10 元の価格で種類は豊富です。日本人向けの味はやはり盖飯系が適しているのではないかと思います。交通はバスと少し歩いたところに地下鉄があります。値段はバス 2 元、地下鉄は 2～9 元です。タクシーは大通りに出ると拾うことができます。日本よりタクシーの数が多いので便利です。ただし、渋滞がひどい時もあります。天津にも観光地があります。古文化街やイタリア街があります。とても歴史的な街並みとヨーロッパと合わせた街並みも合わせたところもあるので、とても面白いところだと思いました。



<留学生歓迎会の様子>

留学の半年間は旅行もしました。私は北京 3 回と済南を 1 回しました。北京は中国の新幹線で天津から 30 分で着くので、日帰りできます。しかし、チケットを買うには大学内のスーパーに行ってパスポートが必要です。しかし 1 月には春節も迎えることもあるのでチケットを買うことが難しくなります。中国人は春節時の準備が早いことに私は驚きました。

北京は交通が発展していて地下鉄は 2 元で行けます。タクシーは少し天津より物価が高く渋滞に巻き込まれることが多いので、できる限り地下鉄を利用した方がいいと思います。北京には北京オリンピック公園の鳥巢・天壇・天安門など観光名所に行きました。食べ物は主にファーストフードで済ませた記憶があります。

済南は天津少し南に行ったところで、交通はバス・タクシーが基本です。済南は都市の周りに湧水があふれていて人々の生活の一部になっています。私が行った時は、天候が悪く霧かかっていた。済南の繁華街中心には、湧水の場所もちゃんと出ているところがあるので、面白いです。しかし、季節として冬のため枯葉が多く夏や春に行った方がいいと思います。

中国を半年間過ごして分かった事としてやはりいえるのが、環境面に対してまだ問題があり、未だに金持ちと貧しい人の格差が激しいこともこの半年間で分かりました。環境面に対してやっぱり PM2.5 による大気汚染がひどいです。天気の良い方を比べると天気のいい方には、青空広がる晴天で、自分たちの寮からでも天津のビルやマンションがきれいに見えますが、悪い天気だと霧かかかっていて、ビルもマンションも全く見えません。ひどいときは、何も見えなかった時もありました。貧困の格差としては障害者・老人・ホームレスが苦しんでいる姿が見られました。一例として賓江道を中心に老人・ホームレスが集まって金をせびる人がいました。中には、老人と子供と一緒に座ってずっと土下座している人もいました。他にもアコーディオン弾く自分と年齢が変わらない女性がいて、隣に文章が書いてあって両親が病気になって働けない体になったのでお金をくださいという

文章でした。とても生々しく今の中国の経済成長の裏にこういった問題も抱えていることもわかりました。

こうした半年間を中国で過ごしたことで中国語はもちろん自分の人間性も大きく成長したのではないかと思います。授業中も最初の 9 月の時は全く分からないままで、もしかしたら今の話が分からないのは自分だけではないか、先生が自分の中国語を理解してくれていないのではないかと、思って何度か挫折は何度もありあました。しかし、ここでくじけたら何のために中国まで来て勉強しに来たのか目的がなくなるので、勉強は辛いことではあるけど、ちょっとずつの努力の積み重ねも重要だと思いました。さらに、これから中国語を学ぶための課題も見えてきました。最後にこのような機会を作ってく出させたのは、家族はもちろん先生方や先輩のアドバイスがあってこそこの機会だと思います。本当に感謝しています。



<クラスメイトの集合写真>

中期留学報告書

～タイで感じたことまとめ～

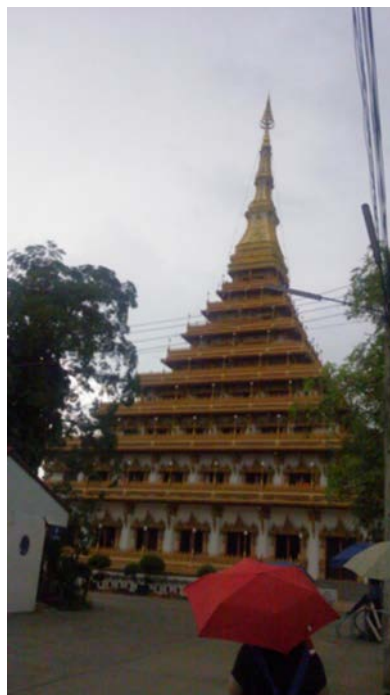
コンケン大学 16F2065 山田 優花



① バンコクに向かうまで

私は2013年の9月から2014年の3月までタイのコンケン大学に交換留学生として通っていました。外国にいつか行きたいと前から考えていたので、名古屋学院大学から交換留学生として行ける国の中から一番前知識のないタイを選びました。正直はじめはタイの位置や公用語がタイ語であることなど当たり前の知識も何もない状態でした……。タイと言えばと聞かれば「象」か「グリーンカレー」程度の超素人でした。町並みもテレビなどでよく見る東南アジアな感じの密林をイメージしていました。しかし実際バンコクのスワンナプーム

空港についた時とても驚きました。とても大きく、清潔な雰囲気でした。そして名古屋にいるよりもずっと多くの外国人がいました。バンコクにいる間は、日本人はもちろんのこと西洋人の観光客が特に多かったと思います。また、奥さんがタイ人、旦那さんが西洋人というパターンも多かったです。バンコク市内はタイの首都ということでたくさんの方がいます。高いビルなどの建物、観光客向けのたくさんのホテル、また英語が通じる人がたくさんいます。市内はとにかく交通渋滞が激しいので、地下鉄などの公共交通機関も便利ですが、タクシー・トゥクトゥク・バイクの後ろなど独特な移動手段もあり、とても面白かったです！市内でタクシーを使う時などはタクシーの外装の色によって英語が話せる運転手が分かるようになっています。どの乗り物も料金はとても安いです。



② コンケンに向かうまで

私がバンコクに着いたのが9月13日、コンケンに向かう日は9月24日でした。

それまでは友達とふたりでタイを旅行しました。行った場所は、バンコクから始まり、アユタヤ、サムイ島、プーケット島です。バンコクは首都ということもあり、もちろんたくさん観光客がいます。ワット・ポー（ワットはタイ語で寺という意味です！）やワット・プラケオなどの寺院、また王宮もあります。これらの観光地を回るのは水上バスが便利です。タクシーより安いし何より川沿いの景色がみることができるのでオススメです！！アユタヤは日本でいう鎌倉のような場所で、昔アユタヤ王国があった時代の仏像、建築物などが街中にあります。象に乗りました。かわいかったです。そして何より私が楽しかったのはプーケットです！中心地にはショッピングモールや小さなおみやげ屋が並んでいて、また海がとても綺麗です。（9月頃は雨季なので少し波が荒かったです）そんなプーケットでの一番の思い出は「キャバレー」に行ったことです。キャバレーと言ってもただのキャバレーとは違います。オカマのキャバレー



です。まさにタイといえば！で想像できるものの1つです。どのお姉さんもとても綺麗でした。しかし2ショットの写真を撮ろうとするとチップを要求されるので注意です。



③ コンケンでの生活

とにかくお世話になったのは人文学部の日本語学科の先生たちと、同じく日本語学科の学生たちでした。学生たちは色々な場所に連れて行って遊んだり、通訳してくれたり、またお互いの言葉について質問し合ったりする関係でした。私の所属したのも日本語学科だったので、受ける授業は留学生向けのようなものではなく、すべてタイ人の学生と一緒にしました。その際の先生への交渉や、学校生活の質問などとても助かりました。取っていた授業は4つです。科目名は「English Writing II」、「English for HUSOIV」、「Criminology（犯罪学）」、「Table Tennis」です。英語の授業はほとんど英語で行われるので理解できました。

それでもコンケン大学の英語専攻の学生はとても英語が上手でした。先生の話で理解できないところは学生たちが教えてくれたのでなんとかクリアできました！犯罪学はすべてタイ語でしたが、図や映像資料などがたくさんあったので理解できると思いますし、試験も英語のレポートでいいとのことでした。卓球は教育学部の棟で行われます。そこは新たな友達を作る場となったのでとても楽しい授業でした。そして私はタイ語の授業を取りたか



ったのですが、外国人向けのタイ語の授業を開講される先生が今季は都合で開かないということで、とても残念でしたが、タイ語の授業は取ることができませんでした。（←の写真は日本語学科以外の生徒向けの日本語の授業に参加した際のものです。）

コンケン大学には日本人学生が日本語学科に4人、教育学部に1人、研究生として参加している方が1人いました。聞いた話によるとこんなにたくさん日本人がいるのは珍

しいとのことでした。ですが驚いたのは私の住んでいたアパートの近くには日本人が思ったより住んでいるということでした。コンケンで暮らしていく上でその方々にはとてもお世話になりました。町は大学を中心とするとごはん屋などはたくさんあります。しかしショッピングモールのようなものは2つしかないので大きな買い物をするときは大抵そのどちらかでした。服も安いしご飯も安いし、コンケンでの生活では贅沢をしなければ本当にお金をかけずに暮らせます！！「スウェンセン」というアイスクリームのチェーン店でアイスやパフェを食べましたが、大きなものでも600円くらいだったと思います。何回も行きました。

気候はとにかく暑い日が多いです！12月、1月は涼しかったり少し寒いくらいだったりしますが、その他の時期はほぼ夏か雨季です。特に4月は40度になる日もあるそうですがその代わりという訳ではありませんが4月の中頃に水を掛け合う日本という打ち水のようなソクラーンというお祭りがあります。



④ タイにおける日本

タイの人たちはとても親日的です。タイにはたくさんの日本食のチェーン店があります。（クオリティは本格的なものから全然日本食じゃないと思うものまで色々ありますが・・・。）どのショッピングモールでもごはん屋の3分の1くらいは日本食だったと思います。売っている食べ物は、寿司からラーメン、CoCo 壺番屋など！ほんとうに様々な日本

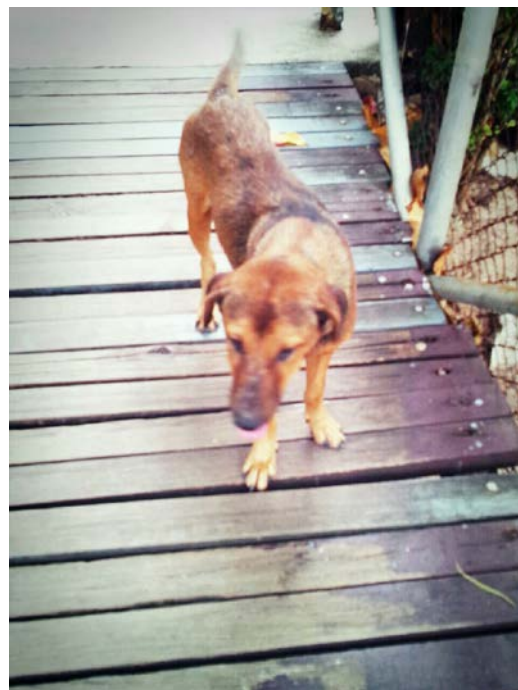
食がありました。またコンビニにも日本のお菓子が多々ありました。中には日本の会社のものではないのにとりあえず日本語（文法がおかしかったりする文です）が書かれているものも……。日本のもの＝良いという考えがあるようです。

そしてタイの主な交通手段のバイク・車はほぼ日本車です。スズキ、ホンダ、トヨタ、ヤマハなどなど、どこを見ても日本車でその他の国の車はほとんど見かけませんでした。日本のように電車バスなどの交通手段が普及していないタイにおけるバイクの乗用率はとても高いので日本メーカーの大事な市場の1つになっているのだと感じました。そしてまたそれは大成功していると言えるでしょう！

その他にも日本の文具・ゲームなど様々な日本製品を発見できます。日本語を学ぶ人々もとても多いです。タイ人の日本へのイメージが良いということがよく伝わります！！

⑤ タイの日本にはないところ

日本にはないタイの特徴といえばまずは野良犬です。野良犬はバンコクのような大都市から離ればそこら中で見つけることができます。日本で野良犬といえば怖いというイメージがありますが、タイの野良犬は一部を除いておとなしいのです！歩道で寝ていたり、車が来るか確認せずに道路を渡ったり……。運転の荒いタイの道路を横断できるのはかなり驚きました。暑い夏にはコンビニの扉の前でクーラーの風を待ち（人間は誰一人気にせず跨いで入店しています）、夜には外のごはん屋の主人にご飯をねだりに行き……。タイ人と野良犬はうまい具合に共存しているなーと感じました。コンビニ袋をぶら下げて歩いていたとき野良犬に走って追いかけられたこともありました……。が基本は温厚です！ですが噛み付かれるといけないうで近づきすぎは注意です。



1月くらいからタイのデモが日本でも話題になったと思います。このデモにもタイらしさがありました。なんとデモの会場でライブ・演劇が行われていたのです。まるでお祭りかと思うような部分があったそうです！他の国のデモでは見ることのできない出来事ではないでしょうか。ですが死者も出ているので早く解決してほしいと思います。今までのデモの時には王様の一言でピタリと暴動が収まったとのことなので、今回もそうなると思います。半年前は何も知らなかったタイですが今では大好きになりました！近年急激な経済成長をしているタイですが、決して古い文化を忘れず、のんびり生きる彼らを好きにならないはずがありません。楽しかったです！

中期留学報告書
～東南アジアで過ごした163日～

タイ コンケン大学 16F2026 小林 祐子



私は2013年10月1日に日本を出国、2014年3月11日にタイを出発し上海を經由して翌日12日に帰国しました。この留学で私はいろいろなことを経験することができ、またたくさんのことを学び、考えることができました。とても有意義な時間を過ごすことができました。これから大学内でのことと大学外での事とで分けて書きます。

まず大学内でのことです。

タイの殆どの学校（幼稚園から小学校、中学校、高校、大学）には制服があるみたいです。大学の制服はどれもパツと見た感じは変わりなく、ワイシャツにスカート／ズボン、サンダルもしくはスニーカーやパンプスで、自分の好きなものを身につけて制服ファッションを楽しんでいるように見えました。（タイ人はおしゃれ好きだと思いましたが、ピチピチ・派手などの印象を私は受けました。）なので私も制服を買い、授業のある日はそれを着て学校に行っていました。

大学の授業は10月中旬から始まりました。（アセアンの関係で学年歴を変えるので、次からは8月から12月と1月から5月になるらしいです。）履修したい授業の先生方のところに自分から挨拶に伺い、自己紹介や授業を受けたいということや成績の付け方などについて話しをして許可を頂いてから、コンケン大学の留学生担当の事務の方（ゴルフさん）が授業の履修手続きをしてくださいました。（授業はレギュラーの授業が取れるので、このあたりの点が北米圏の留学と違うところであり、またいいところだと思います。）私は4つの授業を取りました。英語の授業を2つと社会系の授業を1つと卓球の授業です。卓球の授業はリフレッシュと友達作りを兼ねて取りました。社会系の授業はすべてタイ語でしたが、タイ語の勉強にもなると思い取りました。スクリーンを使う授業形態で、英単語や写真などがたくさんあり、タイ語がわからなくても大まかなことはわかりました。それに日本語学科の友達がいたのでところどころ通訳をしてもらっていました。英語の授業のうちひとつは先生がタイ語と英語をごちゃ混ぜで話しをしていましたが、わからなかったところなどは先生や友達に聞いていました。もうひとつの英語の授業は英語専攻の生徒がメイ

ンだったので、先生の話しからクラスメイトとの会話はほぼ英語でした。この授業には私の他に中国からの留学生4人も一緒でした。どの授業も学んだことがたくさんありますが、特にこの英語の授業ではたくさん学んだし、力をつけることができたと思います。この授業ではライティングとリーディングをメインに勉強しました。毎回の課題に加えて一冊の本を個々で読み進め、各章のサマリーを書いて提出もしていました。授業のスピードは結構速めで課題も多めでクラスメイトは英語ペラペラで、授業中でもそうでなくても大変だったし、すごくじれったい思いもしましたが、最終的にはこの授業を取ってよかったです。それぞれの授業で友達もでき、またその友達の友達と知り合い、日本語学科で日本語を勉強している友達など、いろいろな人と出会うことができました。

テストについてですが、英語の授業2つは中間もファイナルもテストがありました。社会系の授業は中間の頃にレポートを出し、ファイナルも先生に相談した結果レポートにいただきました。(英語でのレポートです。)卓球の授業は毎回授業の後半に実技のテストがありました。授業後半は試合を数回しました。(それも成績の評価のひとつになっていると思います。)挨拶に伺った時に、評価の仕方やテストについてあらかじめ話しをしていたおかげか、スムーズにいったと思います。

外国人向けのタイ語の授業もあったのですが、ちょうど私のいたセメスターはその授業の先生は全ての授業をしないとのことだったので取ることができませんでした。その代わりと言うわけではありませんが、日本語学科の先生からタイ人のチューターを紹介してもらいその方からタイ語を教えてもらっていました。(その方は日本語を専攻に勉強している人ではないのですが、日本語はそこそこできるのでタイ語と日本語を教え合うかたち(つまりエクスチェンジ)で勉強しました。だいたい土日のどちらかの午前中にコンプレックスというところで勉強していました。私のタイ語力は、文字はちゃんとしたフォントであればそこそこ読め、自己紹介、とても簡単な文で質問したり答えたり、買い物や食事、タクシーやソントオに乗った時に自分の意思を伝えたり質問したりする程度です。もっと勉強していればもっとできるようになっていたかもしれませんが、せっかく覚えた言語なので忘れないようにこれからも勉強していけたらいいなと思っています。

シャトルバスが大学の敷地内を走っているので、家から学校まではそのバスに乗って行っていました。(タイ国内の大学のなかで、コンケン大学が一番敷地が広いそうです。)多くの学生は自分のバイクや車で通学しています。(私は徒歩かバスかソントオかタクシーしか足がなかったので、少し不便でした。)コンケン大学は本当に広くてその中には校舎や寮のほかに、卒業式などをする大きいホールやホテル、病院、池、ジム、プール、スタジアム、マーケットやコンプレックスやコンビニなどたくさんものがあります。まだ開発していない場所もたくさんあるので新しいものがこれからもできると思います。

次に大学外でのことです。

私はガンサダーンというところにあるアパートに住んでいました。(大学の敷地外です。)

日本を出るまでタイでどこに住むのかわからず、タイに入国しコンケン空港まで迎えに来てもらい、そこから自分がこれから生活するアパートに連れて行ってもらうから初めて自分の住むところを知りました。(留学に関する手続きなどもかなり遅かったです。タイに行ってからもっと体験しましたが、こればかりはもう仕方がないのだなと後々から思うようになりました。) 私の住んでいたアパートは比較的新しくきれいでした。大家さんは英語もできる方だったので英語でやりとりしていました。シャワーとトイレは部屋についていましたが、洗濯機は共用のものを使っていました。アパートの近くにはコンビニがあったし、ガンサダーンは多くの屋台や食べ物屋がありました。ガンサダーンからバンに乗って少し行くと、セントラルという大きいショッピングモールやマーケットがありました。市内の中心部まで行くのにはソンテオを使うか、友達にバイクや車に乗せてもらって行っていました。

近年ではたくさんの外国人がタイに来ているみたいで、とりわけ中国人の方が多いのかよくチャイニーズとかニーハオと言われました。コンケンには日本人の方は少ないみたいで、私は4人の日本人の方と出会いました。どの方もとてもやさしくて親身に相談にのってくださったり、話しをしたりご飯に誘っていただいたり、本当によくしていただきました。そのうちの2人はクリスチャンの方で、教会に連れて行ってもらったりクリスマスのイベントに参加させてもらったり、キリスト教や仏教などの宗教的なことなども体験することができました。コンケン大学に留学で来ていた日本人は私ともうひとりNGUから来ていた友達のほかに、5人とレギュラーの学生の方1人の計8人でした。日本人で集まって数回ご飯に行きました。みなさん私より年上の方ばかりだったので、たくさんお話しを聞いて学んだことがありました。タイ人ももちろんのことですが、この留学で出会った方々とこれからも何らかのかたちで連絡をとっていけたらいいなと思います。

この留学中に旅行に数回行きました。バンコクに一緒に来ていたNGUの友達と2回、アユタヤ、ウドンタニー、友達の家族とナショナルパークでキャンプ、友達3人とチェンカーンとプルア、春の短期留学の方々とご一緒させてもらいラオスにも行きました。



今回、はじめてバンコクに行く時には、バスを予約した場所とバスを乗る場所が違うことを知らずバスのおじさんたちに囲まれて最終的には警察の方にバスターミナルまで送ってもらったり、友達がケータイをバスの中に忘れてしまったりバタバタしたり、アユタヤ行きの電車が1時間半ほどで行けるところが故障か何かで止まってしまったり3時間かけて行ったり、国境を陸路で越えてみたり、車の道が左通行だったり右通行だったり、違う国なの

に言葉が通じたり、道に迷ってみたりなどなどたくさんのハプニングや発見がありました
がどの旅行も楽しかったです。

この留学を通して学んだことや経験したこと考えたことはたくさんあります。でもやはり一番感じたことは、人のあたたかさです。友達や先生、学校の方々、日本人の方々、屋台やお店のおじさんやおばさん、声をかけてくれた人、通りすがりの知らない人、同じバスや電車に乗った人などなど、本当にたくさんの人に助けていただき支えてもらいました。私のつたない英語やタイ語で話しかけても、やさしく聞いてくれたり答えてくれたり、最後には笑顔に微笑んで挨拶してくれました。いつもやさしく接してくれたみなさんに心から感謝したいです。また日本人だとわかると知っている日本語で話しかけてくれたり、知っていることを話してくれたり、また知らないことは聞いてくれました。この留学でいい面も悪い面も含めてタイをすごく好きになったし、日本のことももっと好きになりました。また改めて日本の素晴らしさを実感でき、そして日本も見習わないといけないなど思うところも多々ありました。これからもタイで知り合った人々と交流していきたいし、またタイで経験したこと考えたことを日本で生かしていきたいです。

最後に、私をNGUからの留学生として選んでいただいた先生方や事務の方々、国際センターの方々、あたたかく迎えていただいたコンケン大学の先生方や事務の方々、タイで出会った日本人の方々、タイ人の友達、中国人の友達、タイで出会ったすべての方々、そして何よりタイへの留学を応援してくれ、支えてくれた私の家族に心から感謝しています。本当にありがとうございました。



中期留学報告書

～フィリピンでの五ヶ月を終えて～

フィリピン大学 16F0044 大町 真葵

10月末から、3月末までの五ヶ月間、私はマニラ市内にある、フィリピン大学ディリマン校へ留学をしました。留学をする前までは、なんとなく他の学生と同じように学生生活を送っていて、ただ楽しかっただけでした。ですが、平凡な生活に飽き飽きしつつあった私は、外国人とコミュニケーションをとったりすることが好きだったため、この大学で充実している留学制度を使って日本の外に出たいとは思っていました。

元々、留学選考の際には私も北米への派遣を希望していました。その時は選考に落ち、しばらく経ってから東南アジア圏への留学を知りました。東南アジア圏へは、私自身は行きたいと思っていましたが、なかなか正当な理由を言うことができず、しばらく考えました。結局、自分の意見がはっきりとしないまま面接に臨んでしまい、面接時も第一希望は、北米の大学の様に留学生特別クラスがある大学を希望すると答えてしまいました。しかしながら、面接官の教授が私をフィリピン大学へ推薦してくださり、私ももう一度考え直しました。そしてフィリピンであっても、その国のトップである、国立の大学の生徒と共に勉強ができるという点は、フィリピン大学の最大の利点であると考え、その機会を与えて頂いたのなら、絶対に行くべきだと感じ、フィリピン大学への留学をする事を決めました。

次に考えた事は、この留学で何を成し遂げたいのかを具体的に考えてみました。言語力の向上、学生の在り方、異文化理解（フィリピンについて）。この3つが主要となる目標でした。

フィリピン大学で私は、ビジネスマーケティング、スペイン語、PE、コミュニケーション、そして英語文法の授業を受講しました。そのどの授業も英語で進められ、はっきりとこれらの授業が私の英語力の向上に繋がったといえます。というのも、英語の習得には、読む力、聞く力、話す力、そして書く力が求められ、話したり書いたりする力は日本での学習では習得が難しかったのですが、この留学ではそのすべてを均等に学ぶことができたと思います。1つ1つ見ていくと、ビジネスマーケティングでは大量のリーディング課題をこなす必要があり、また定期試験のひとつとしてグループプレゼンテーションを発表することが必須でした。なお、マーケティングという難しい分野であることから、ビジネスに必要なボキャブラリーの幅が広がったと思います。第二外国語がスペイン語ということもあって受講することにしたスペイン語では、同じ内容を勉強していても、日本とフィリピンでは全然教え方が違ったと感じました。また生徒達も、初めて学ぶ言語であるのにも関わらず、教わったことは即座に吸収し実践するという作業が毎回できていた事にも感心し、見習いました。PEでは、私も小学校から高校までバレーボールをやっていたので、日

本と外国のプレースタイル、選手や監督の考え方、監督の指導方法の違い等も実際に見て経験できました。コミュニケーションの授業では、パブリックスピーチやグループディスカッション・プレゼンテーション等の実践的な内容が主体となり、また座学でコミュニケーションについても学びました。英語文法の授業では言葉のルーツ、文法の基礎から発展までまんべんなく学ぶことができ、またライティングやエッセイの課題もあったことから英語の読み書きのスキルアップにも成功しました。

そして、一番思い出深く、私の意識を大きく変えてくれた環境が寮での生活でした。私は勉強するのがあまり得意でなく、その必要性を見出すのに少々手子ずっていました。留学の際は気合を入れ直して、勉強することにしたのですが、そこで出会った友人たちは私の学生の在り方を大いに変えてくれました。私は、インターナショナルセンターという留学生専用の寮に住んでいました。そこには世界各国からの人々が集まり、さらに多くの外国人学生はレギュラーかマスターか PhD コースを履修していました。当然、英語は皆完璧で、かつ自分自身の専門とする科目が明確にされており、学問に励む意識が大変高かったです。ここで私が感じた、日本人と外国人の語学習得の価値観についての決定的な違いは、日本人の最終目標は英語を完璧にすることであり、海外の人々は新たな知識を習得するために英語をツールとして使いこなしていることでした。

私も以前は、前者の考え方で大学の授業等にも取り組んでいましたが、彼らの姿を見て他の科目にも興味を持ち始め、勉強する様になりました。また、留学生である日本人ですら、優秀な大学から派遣されてきた学生ばかりでした。したがって、日本人同士で会話をする時ですら、私の意識も常に高まり、そして毎回新しい知識を彼らから吸収することもできました。そんな彼らも勉強しかしていなかったということではありません。休みの日は、勉強が一息ついた時には外に出かけて遊びに行くこともありましたが、そのオンとオフの切り替えがとても素晴らしかったです。実際に、交換留学生の中には留学中に遊んで文化だけを楽しんで終わるといった人間も少なくないです。それを考えると、私の周りにはそんな人がいなく、大学生としての勉学の在り方、考えの持ち方、意見の仕方、全てにおいてしっかりしていて、それが今までの自分の大学での過ごし方を見直すきっかけになりましたし、またこれからの貴重な大学生活を有効に過ごそうと思いました。

フィリピン、マニラに到着してそこで目にした貧困、汚染、犯罪、全てが渡航前の想像をはるかに超えたものでした。留学当初は本当に私がこの国でやっていけられるのか不安でした。しかし、そんな厳しい環境の中でも人々は生活基盤を作り、“普通”の生活おくっていて、私はここで何か新たに発見できるものがあるのではと少し期待を持ちながら過ごしました。フィリピンの特徴を説明するのに、日常生活もさることながら、授業からもその片鱗が見えており、無駄なことはなかったと感じています。通りでは自由にマーケットを開き、仕事がしたくなかったら寝てしまおう。学生がいるから大学でモノを売ろう。便

利だからそこに住みつこう。このようなことからフィリピンではTake it easyな考え方が根付いています。先にも説明したとおり、私はインターナショナルセンターに住んでいたので、この事実は他の留学生にも驚きだったようで議論することも多々ありました。学校の授業でも教授が1か月間予告なしに授業を休んだということもあり、そういったところでフィリピン人のおおらかな性格が窺えました。おそらく、ほぼ100パーセントの日本人はこの実態をダラシナイとか無計画だとか杜撰だとか捉えてしまうと思います。私もそうでした。しかし、その地で生活をする中で、彼らには彼らの基準があるので、その限られた中で彼らなりに楽しんで過ごしているのだとわかりました。

実際に、路上でテントを張って商売をしているフィリピン人と話す機会が多々あったわけですが、彼らは本当にその生活に満足しているようでした。私が日本から来たということを伝えて、フィリピン以外の国でどこに住みたいですかと野暮な質問をしてみたのですが、決まってみんな、今住んでいるここがいい、ここがいいと答えていました。日本なんかみんな忙しいといって振り払われました。しかし、なぜここまでおおらかでいられるのかというのは結構疑問で、その答えを見つけるのに時間がかかったのですが、私が思うに、それは彼らの宗教と深く関わりがあるのだと思います。

フィリピンの宗教は90パーセントがキリスト教徒と言われていて、その数字が示すように教会もたくさん建っています。日本の宗教観と比べるととても敬虔ですし、タクシーなどに乗車していても宗教を聞かれるシチュエーションはよくありました。そこで私が感じたのは、何があっても彼らの言うジーザスはすべてを許してくれるということでした。実際にこれはあるタクシードライバーから直接聞いたことなのですが、結局自分が何をしていたほうが、ジーザスはいつも愛してくれているそうです。この宗教観が現在のフィリピンの国民性に関連していると私は今でも考えています。このように、教科書やネットからの情報ではなく、現地で実際に生活することでわかる文化や国民性というのがあり、私は今回それを十分学び、それを理解することが出来ました。

私がこの留学を通じて得たものはかけがえのないものですが、まとめとして私は、語学面、文化面、また思考面において成長したと言えます。今これらが達成できたとは言え、この目標は去年掲げたもので、それから約1年経ちました。そこで私は新たな目標を掲げたいと思いますが、この留学において得られたものを基盤として次に進んでいきたいと思っています。このような機会を下さった大学には本当に感謝しています。ありがとうございました。

中期特別留学報告書

～文化の違い～

華東師範大学 17F1003 井ノ口 茜

今回の中期留学は約5ヵ月と、あまり長くはなく帰国する際とても名残惜しく思いましたがそれでも日本との違いを知るには十分でした。

私たちが留学先の寮に着いたのは去年一番暑い日で異国の地に降り立ったわけですから多少の不安もある中、気候の違いもこんなにあるなんて、と更に不安を煽られました。しかし後から聞いてみると出発日が一番の猛暑だったらしくその後の生活では暑いものの日本と差ほど変わらず比較的快適な生活が送れたのでよかったです。8月は短期の子と全員日本人で先生だけが中国人というかたちで授業を受けました。日本でも中国語の勉強を始めたばかりで右も左も分からない中とても丁寧な英語と中国語での授業は非常の分かりやすかったです。短期の授業が終わるころには生活面では慣れてきましたが、ご飯を食べに行く際まだ読めないメニューがたくさんあり個人的には中国語の単語を覚えるのに慣れるのに時間がかかりました。観光地なんかは外国人に慣れている方が多く何回かぼったくられたり、どこに行ってもたくさんの人でごった返していたりして観光に出かけても日本にいるより警戒心を強く持たなければならない為、最初は寮に帰るころにはぐったりするほど疲れていました。それでも授業自体は午前中で終わるので午後からは自由に使い、洗濯をしたり買い物にでかけたり帰ってからでも復習は十分出来たので時間に余裕がありました。9月に入ると短期の名学生会は帰国し新たに中国人含めた名学生会が3人来て留学生活も更になくなりました。それと同時に今までは名学生会だけだったクラスも変わって、たくさんの外国人留学生たちに囲まれて授業を受けました。ほとんど外国人で日本人は数人なので始めは同じ学校の子と固まって座って授業を受けていました。夏よりも先生の話す速度が格段に速くなっていたため8月は本当にゆっくり進めてもらっていたのだなと思いました。正直最初は何を言っているのか分からない部分が多く、ついていくのがやっとでした。勇気を出さないと質問の一つも出来ないような状況は日本ではなかなか出来ないんじゃないかと思うと多少楽しくもありますが、基本的には不安を抱え日々を過ごすものでした。授業で先生の質問にも少し慣れてきたのが10月に入るところでした。8月に通っていた教室のある建物から近いご飯屋さんも教室が変わってからは遠くなってしまったのでよく電話をして出前をしていました。その店員さんは自分たちのことを覚えてくれていてとても注文をし易かったです。それでもいちいちカンペを作って電話をかけていたのですが10月の始めは国建節なのでいつもお世話になっていた店がほとんど休みだったりして結構大々的な祝日なのだ実感しました。10月の長期の休みでは上海の近場を回ることが多かったです。とくにこれといった行事もないと思っていたけれど31日はハロウィンで、何人か仮装をしていた人ともすれ違ったり、軽くパーティーをしたりで気分的には楽しめまし

た。11月も中旬に入ると初めての定期テストがありました。先生は簡単だと言っていたけれど、どんな内容か全く分からなかったので心配でした。留学中のテストは対話式とリスニング、筆記式でしたが、日本では筆記試験しかないので向こうで行った対話形式のテストが一番緊張しました。前々から勉強すべき内容は教えてくれていたので問題の意味が分からないことはなくても自分の考えていることを習った教科書に沿って答えるのは難しく、少し会話が止まってしまったりもしてしまいました。正直なんとか終えた感は否めませんでした。今後のやる気には繋がったと思います。筆記とリスニングは大体想像した通りでとくに問題はありませんでした。しかしやはり日本でも主に英語ですが筆記だけでなくテストに対話などを入れて実用的な勉強があってもいいのでは、と思いました。12月には友人の知り合いの方をお願いして中国雑技団のチケットを安く取っていただきました。後に中国人の方からお聞きしたところによると中国の雑技団には2種類あって違いは動物がいるかないかだそうです。今回私たちが観に行ったのは後者ですが本当に素晴らしいもので感銘を受けました。身体一つを使った超人的な技から空中での演技や自転車、バイクなど様々な種目があり短い時間でしたが存分に楽しめること出来ました。中国で過ごすのは最後となる1月は旅行として香港に行きました。中国人の私たちをサポートしてくれる洪さんが飛行機の手配を下さって難なく手続きやらを行うことが出来ました。香港でも日本では出来ない体験ができとてもいい経験となりました。周りに母国語を話せる人がいない環境は不安も伴うけれど楽しさや何よりすべてが新鮮に感じます。私は今まで母国語が通じない意思疎通のままならない海外へ行くことがひどく怖かったので旅行すらしたことがなかったけれど、それゆえ学べるが多かったのはこの留学で得たことの一つでもあります。文化が違うということに関しても今まではろくに興味もなく、日本がこんなにも国際化が進んでいるというのにどこか他人事のような気がしていました。とはいえ実際に足を運んでみると急に現実味を帯びてきて色々なことに興味を持つようになりました。初めは食文化、生活習慣などに目がいきましました。そのいくつかは日本にいる頃聞いていたものですが悪いところばかりが目立っていました。聞くだけではびんと来ず、行って初めて分かることも多い反面、いいところもたくさん肌で感じる事が出来ました。中国政府も国民に呼びかけるマナーの悪さは理解しかねる面も多々ありました。でも親しくなった中国人の方が言うには自覚はあるそうなので改善の方向には向かっているのかもしれないと思いました。お店で何か買うとき、スーパーなど安く雇われているところは本当に時給が安い為、接客の態度も悪くなるそうです。具体的な値段を聞くといつも心を無にしていなくて危うく傷つきそうになる店員の対応も納得出来るものでした。当然のことだけれど時給も上がれば店員の対応ももちろんよくなります。そして雇われているのではなく家族でやっている店などはとてもフレンドリーに接してくれることが多かったです。1度行ったことがあるだけでも顔を覚えていてくれたりするのは本当に嬉しかったりします。仲良くなると好きなメニューを覚えていてくれたり、日本ではあまりないことなので驚きもあり新鮮でした。それから普段道を歩いていてカップルをよく見かけたのですが、男性は

必ず女性のカバンを持ってあげたり、食べ物を買に行くのも片づけるのも男性でした。中国ではレディーファーストは当たり前だそうで、男性は尽くすことが多いそうです。今も中国は一人っ子政策が続いていて、一人目の子が女の子だと跡継ぎが欲しい場合おろしてしまうことも少なくないそうです。そう考えると人口が偏ってしまい男性の方が多くなるので自然と女性が丁重に扱われるそうです。それでなくても韓国など日本以外はそういうことが多いので国の違いなのかなと思います。

文面だけで他国の文化を知るには限界があるとも思うのでやはり触れることの意味を深く実感できたのはいい経験だったのだと思いました。個人的には生活の文化について日本と比較し異なる部分の理由について考えることが楽しいと感じます。それは民族性、政治、その土地の気候などたくさんあり、様々な物事の何故をイメージしたうえで現地の方に尋ねたりネットを使って調べたりすることで新しいイメージに塗り替えることが知識の一つとなります。どの国もそれぞれの歴史を経て今の国になっていると思うと知りたいことはまだまだたくさんあります。この先留学することはなくても他国の文化に触れる機会を旅行などで設けたり、資料から学んだりできたらいいと思います。

中期特別留学報告書

上海華東師範大学 17F1016 黄トントン

私は中期留学のため上海で四カ月半もいました。留学先は上海華東師範大学でした。この四カ月半の間は主生活、勉強や旅行の三つの点です。



まず生活の中の一つ、環境です。上海華東師範大学はととてもとても広い学校です。私は学校内の留学生寮二号楼でした。留学生寮二号楼から、華東師範大学の正門までは、早くても40分くらいかかります。北門までは、15分くらいかかります。後門までは、30分くらいかかります。私が住んでいる留学生二号楼から、物理楼（私の教室がある建物）までは10分間かかります。でも、広い割に不便なところもあります。例えば、ご飯を食べに行くのに往復には一時間くらいもかかります。





←留学生寮二号楼

そして、上海の水はそのまま飲んではいけないので、自分でスーパーのお水を買って寮まで運ばなければいけません。とても重いので、すごく大変でした。それに、華東師範大学は本当に広いです。なかには、たくさんの建物がああります。私は自分のよく行く所しか分かりません。それでも、最初は何回も迷子になりました。それと、校内を歩いたら、いろんな人から道を聞かれます。その時、自分も分かりませんので、いろんな人に何回も聞きました。なので、常に校内地図を持ち歩かなければなりません。校内の次は校外です。まず大事なものは、校外は全然綺麗じゃありませんでした。道の両辺には

ごみ箱がたくさん設置されていましたが、それでもゴミばかりでした。そしてごみ箱では、匂いがひど過ぎて、何回も吐きそうになりました。この点は、中国人の私にとっても、とても大変でした。

校外のお店の中に料理店がたくさんありました。私はよく校外の料理店でご飯を食べました。北門の近くには環球港があります、なかには乐购 TESCO もあります。そして、もし外に出たくない、道が分からない、でも買い物をしたいなら、ネットで買い物もできます。おすすめは、淘宝 TAobao や易迅 YIXUN です、でも淘宝 TAobao はネットで買い物できるカー网银 WANGYIN がないとできません易迅、YIXUN は届けて貰った時にお金を払えば買えますという事になっています。

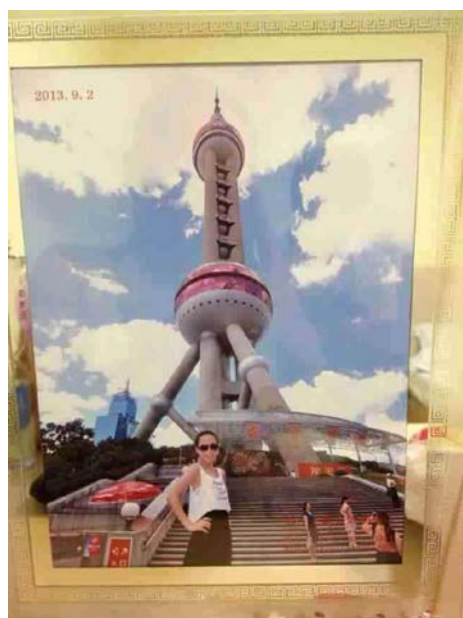
二つ目、日常です、私の日常は特に怪しいところがありません。すごくのんびりしていました。学校の日（平日）だと、七時半に起きて、顔を洗って、歯を磨いて、テキストをカバンに入れて、朝ごはんを食べて、八時十分から物理楼へ行き、八時半から授業をはじめります。授業は十一時四十五分に終わります。十二時くらいから昼ご飯を食べます。二時からちょっとお昼寝をして、三時くらいからお買い物に行きます。五時半くらいから夕飯を食べます、七時から宿題をします。九時くらいからシャワーを浴びて、十二時に寝ます、寝る前には、いつも携帯で遊びます。休みの日だと、朝自然に起きます、お腹が空いたらご飯を食べます。夜、宿題を終わらせて、眠くなったら寝ます。でも、12月から私はずっと病気で、病院ばかりでした。もとは小さな風邪で、治りそうなとき、上海は霧霾になり、気管支炎になりました。呼吸しにくい、咳ばかり、寝ることもできなかったです。病院で注射をずっと打つ事が続き、薬もたくさんもらいました。大変だったのは注射や薬な

ど飲みすぎで、薬アレルギーになりました、全身腫れて、すごく痛かったです。体の肉もすごく痛んで、寝ることもできず、大変でした。

三つ目、食品、食べ物です。私は中華料理が大好きです。とても安いです。特に中国の麻辣燙と手抓餅が大好きで、麻辣燙は10元（200円くらい）でお腹いっぱいになります。よく食べに行きました。それと向日葵の種をよく買って食べました。疲れた時や外に出たくない時があったら、電話で出前を呼びます。電話一本で無料で届けてくれます。出前のメニューなどが学校内でたくさん配っていました、私も二十枚くらいありました。一食15元（300円くらい）で足ります。小ワンタンなどは安くて4元（100円くらい）です。環球港のなかには日本料理もありましたが、とても高いでした。

次は勉強です。私は302教室です。授業は午前中のみ、一日二科目あります、月、水、金は同じ、火、木は同じです。合計四科目です。先生は四人います、皆女性で、とても優しい人でした。毎日午前中、授業を受けて、夜宿題をしてから、次の授業の復習をします、そして授業の前に小テストをします。

ラストは旅行や遊び方面です。上海は中国有名な都市です。いろんな国の人が上海に集まっていて、有名な観光地もたくさんあります。私は、九月一日に上海へ行きました。二日は従妹のお姉さんと上海有名な東方名珠に行きました。中にもいろんな物が売っています、食べ物もいっぱいあります。写真もいっぱい撮りました。



東方名珠

東方名珠のあと、私と松本裕奈と上海に住んでいる友人と一緒に上海動物園に行きました。動物たちはとてもかわいかったです。動物園の中にはパンダや鱷、蛇などいろんな動物がたくさん居ました。

動物園中には、たくさんの方がいて、日本よりごみがたくさん落ちていました。動物園はひろかったので、とても歩き疲れました。

九月二十四日、私と裕奈はまた私の故郷へ行きました。私の故郷は田舎で、裕奈と田舎の生活を楽しんでいました。大変なところもたくさんありましたが、それでも、とても楽しかったです。

故郷から戻って、11月の4、5、6日校外授業（遠足のようなもの）宁波へ行きました。校外授業は雪窦山 雪窦寺、天一閣、天童寺、乌镇などいろんなところへ行きました。山

の奥は上海と違って、環境はとても美しかったです。空気もとても新鮮でした。夜とまっているホテルもとても高級でした。よく眠りました。



301クラスと302クラス（全員じゃない、行った人だけです）



雪窦山



天一阁





天龍寺







乌镇

乌镇は普通の人たちが住んでいます。住宅は水の上です。

以上が私の四カ月半の上海の旅でした。いいこともあり、いやなこともたくさんありましたが、いい経験になったと思います。チャンスがあったら、まだ上海に行きたいです、また上海華東師範大学の先生たちや、友達にあいたいです。短い間でしたが、とても楽しく、いい思い出になりました。

中期特別留学報告書 ～面白い上海の生活文化～

華東師範大学 17F1011 加藤 梢

上海の夏は日差しと熱気がとても強く、外にいるのが耐えられないぐらいでした。着いたばかりの時は慣れない環境で戸惑うしすごく暑いで大変でした。日本が恋しかったです。学校が夏休みの間は名学の人達と授業を受けていました。初級クラスでした。180分ずっと中国語を聞いているのは大変でした。でもしばらくすると集中力が切れてきて、聞かなくなり、気づいたら今何をしているのだろうかという事が何度かありました。

食事に関してはお腹を壊したりすることもなく、美味しくてよかったです。中国は包子の印象が強くてよく食べていました。特に小籠包が美味しかったです。食事の時間が終わろうとしてくる頃からお店の人たちは自分たちのご飯を作り出しますが、おかずの量がとても多くて驚きました。前日本で中国人は食事をすごく大事にしていると聞いたことがあり、流石世界三大料理の一つの国だ！と思いました。中華はとても美味しく好きですが、なんせ油がとても多いし味も濃いので沢山は食べられません。中国の女性は細くてすらっとした人が多いですが、油を沢山摂取しているのに何故そんな体系をしているのか謎です。知り合いに聞いても細くないよーと言われるので中国人はそういう体質なのかなと思いました。中華は大体の物が辛いので辛い物を食べたくない時はだいたい蕃茄炒蛋というトマトと卵を炒めた料理をよく食べていました。おかずにつきものでよくスープが付いていましたが、それは薄い味でした。上海の古北というところは日本人が多く日本人学校もありました。そこは日本料理店が沢山ありタクシーなどで行っていました。中国の交通機関の運賃は安くてとてもよかったです。日本では友達同士でタクシーに乗ることなんてなかったけど中国ではよく使っていました。

華東師範大学はとても大きくて大学内を移動するだけでも大変で疲れます。もう大学というか一つの村のようでした。大学内のあちこちにどう見ても大学に関係のない一般人が沢山いました。散歩という方もいましたが、華東師範村！（笑）名学の人が使っていた留学生 2 号楼は大学の隅っこにあって、外に行くのは楽でしたが授業で使う建物や正門まで行くのは時間がかかりました。あとすごく外国人留学生が多くてグローバルな大学だなと思いました。2 号楼にはニューヨーク大学の人達も団体で来ていて欧米人だらけでした。日本人留学生は大体の人が 1 号楼を使っていたらしく 2 号楼に日本人は少なかったです。私たちが元々は 1 号楼を使う予定だったそうですが、夏休みの間に 1 号楼の改装が始まってしまって 2 号楼になったそうです。2 号楼も良かったですが、せっかく綺麗にしたばかりなら改装後に来れたらな～と少し残念に思いました。改装と言えば、華東師範は大学内が広いのでいくつか門がありますが、その中のいくつかを何故か閉めています。いろんな人に理由を聞きましたが、みんな違うことを言うのでどれが正しいのか分かりません。近

所迷惑、大学内の食堂が儲からないため、など。私がいる期間にも1号樓の近くの門を閉めていました。閉めていたというよりも完全に通れないように封鎖していました。煉瓦などを積み上げて固めて壁のようにしていました。その壁のような門を登って入らないように上にはガラスの破片が刺さっていました。びっくりしました。何故ここまでやるのか、、この門をもし開けたくなったらどうするのだろう、、そもそも何故閉めてしまうんだろう、、。私たちが来る前に閉じた門が2号樓の近くにあります。その門が開いていた時は門の近くにあった食堂は活気があったそうですが、閉まってからは閑散としてしまったそうです。元々閑散としたところなのだと思っていたので驚きました。酷いと思うべきか仕方ないと思うべきか。その門の出ですぐのところに好きなジュース屋があるのでこの門が開いてればもっと楽に行けたのに、、と何度も思いました。

面白い事に気づきましたが、中国の人は改装にはすごく時間がかかるのに、埋めたりするのはものすごく速いです。2号樓の近くにあつて来た時から改装中だった食堂がありましたがそこは完成予定が10月と書いてあつたにもかかわらず、完成して開いたのは年末でした。中国人は仕事が遅いんだな～なんて思っていたのに門を封鎖するのは一日二日で笑いました。大きい門を煉瓦で封鎖するだけでも時間がかかって大変なのにもすごいな～とつい感心しました。ちなみに1号樓近くには門が二つあつて、2号樓に住んでいた私からしたらどっちから行っても同じだったので関係のない出来事でした。

話し方や性格からして、中国人は少し気性が荒いというイメージを私は持っていて、怒らせたくないなあなどと思っていましたが、実際話しかけてみるとそうでもなく普通でした。それどころか優しい人も沢山いて、いい人が多かったです。冷たい人も沢山いましたが。でも冷たい人、というよりかは適当にやっているだけなのでは、と思うようになりました。というのも中国人は皆家族といった感じの考え方を持っているそうです。そして人はその相手が親しければ親しい人ほど扱いは雑になります。(とりあえず私は。)だから中国人は誰でも構わず家族のような対応をしているのだけなのではと思います。そう考えるとあたたかい感じがします。勿論そればかりではないとは思いますが。

9月に入って外国人だらけの秋学期の授業が始まりました。私がいたクラスは日本人が6人いて日本人の多いクラスでした。そしてアメリカ、フランス、韓国、オーストラリア、チリ、ロシア、フィリピン、タジキスタン、アイルランドなどの国の人たちがいました。先生は二人いて週三回が王老師で週二回が黄老師でした。黄老師は女性で去年の四月から外国人に中国語の授業をしているようで若くて綺麗で優しい先生でした。字も綺麗で大きく書いてくれたり授業がとても分かりやすかったです。無茶ぶりが好きでたまに歌うのが好きと言ったりダンスが出来ると言ったりする同学がいると歌って！とか踊って！と言って披露させていました。でも同学は楽しそうに歌ったり踊ったりしていて、恥じらいなくやっている姿を見て流石だなと思いました。王老師はおじいちゃん先生で本科生には歴史を教えているらしく授業中政治関連の話をしていました。日本の事も詳しい先生でした。

中国の事も世界の事もよく知っているみたいで鼻息をしない人でした。二人共とてもいい

い先生でこのクラスで良かったなと本当に思います。

上海へ行きいろんな人に出会って話していい経験が出来たし、私の上海人に対しての見方も随分変わりました。上海に留学に行って本当に良かったなと思っています。

中期特別留学報告書

～半年間の成長～

華東師範大学 17F1036 松井 春樹

言葉がまだ聞き取れない、通じないなか寮フロントの方たちはとても親切でした。その時、シーツを換えたかったのでとりあえず「シーツを換えたい」と辞書で調べフロントへ行きました。ところが、僕の言ったことが通じても相手の言っていることがほとんどわからない状況になってしまいました。すると、フロントの人はわかるようにゆっくり説明してくれました。ほかにも、何か問題があると聞きたいことを辞書で調べフロントに行くのですが最初のころは数少ない中国語を話すいい機会だと思いました。

勉強面は、短期の授業を受けてみて思ったことは間違えてもいいから発言する力がまず必要だと思います。だれか一人が答えれば次に続くからです。日本人は大半がシャイだと思います。反応しないと先生にも失礼だと感じます。短期中は答えようとしても先生の言っていることを聞き取り頭の中で日本語ので単語の意味が覚えやすく頭の中に入りやすいです。授業では、新出単語も辞書で調べればすぐにできますが先生が他のそれに近い単語と英語で説明してくださるので徐々に聞きとれるようになってきました。前者は短期の内容でここからは特留の授業です。月・金が本文理解で短期のときの教科書を使っています。火・木はおもにピンインなしの音読やグループトーク。水曜日はリスニングとなっています。ピンインなしの授業は予習をしておかないと授業中に調べてはおいでいかれます。リスニングは比較的やりやすいです。毎回小テストがありますが本文理解の授業が一番楽です。と授業はこんな感じです。日本を含め韓国、カナダ、フランス、ロシア、イタリア、アメリカ、タジキスタン、オーストリア、アラブとこんなにもたくさんの国があつまっていてわくわくしました。みんな、母国で1年勉強してから来ていたりして僕たちが一番短くそして最年少だからついていけるか多少の不安もありました。声調はバラバラだけど1年も勉強しているだけあって結構話せるから啞然としました。11月の後半にテストがありました。しかし、このテストでクラスにはいろいろな問題が発生し、そしてクラスの外人さんたちはいろいろと愚痴っていました(笑)まずは、テストの日にちが急に変わったことです。あとは、テスト範囲を聞いても教えてくれなかったことです。そこで、僕たち日本人を除いて外人さんたちはみんなで先生を「変えに行く」と言って事務室に何度も言っていました。なんせ、授業中にゲームやメールをしていたので相当嫌っていたのだと思います。僕はあと一か月だから我慢しろよ！とおもいました。もし先生が変わってしまったらせつかく先生に名前を覚えてもらったのに授業がやりにくくなります。これは結局変更なしという形で収まりました。そして、テストは先生曰くテストなんか簡単だから心配するな！と言っていました。僕と同屋は心配で毎日授業後図書館へ行って5時間は勉強していましたが、実際のテストは先生の言っていた範囲ほどでず簡単で無駄に終わ

りました。返ってきた点数もみんなほぼ90点は超えていたので先生も喜んでいました。中国に来てから僕の生活では中国語7:日本語3の割合です。

その七割は、現地担当の洪さんや同屋との会話です。ぼくは毎日中国語で話しているのですが、これらのおかげで、中国で生活する分には困らない程度には話せるようになったと思います。話すのはいいのですが、テスト前に長時間勉強するぐらいで、書きの練習はあまりしていません。書きの練習は日本でもできますし、話すことのチャンスなんてはそんなにありません。洪さんとの時、僕は一切日本語を使はないようにしています。中国語オンリーで微妙なところもありますが普通に先生の言っていることを聞いてこなせるようになりました。

授業後の午後からはとても暇です。授業の復習もちろんしますが、それだとずっと部屋のなかにいることになるのでサッカーをやっています。寮の隣にグラウンドがあります。年齢は20~30代で僕以外にも留学生の人がいてロシア、フランス、ブラジル、アフリカ、タジキスタン等がそこでやっています。このような場面を利用して好きなサッカーをやりつつ少しながら中国語と英語を使うことでコミュニケーションをとることができます。学食は3つありその中で先生が一番おいしというところに行っています。なので、お昼は人が沢山います。値段はとても安く味もなかなかおいしいです。なんとといっても、僕のいつも食べる場所では料理人が3人しかいないのに毎日長蛇の列の中とても早くご飯が出来上がります。

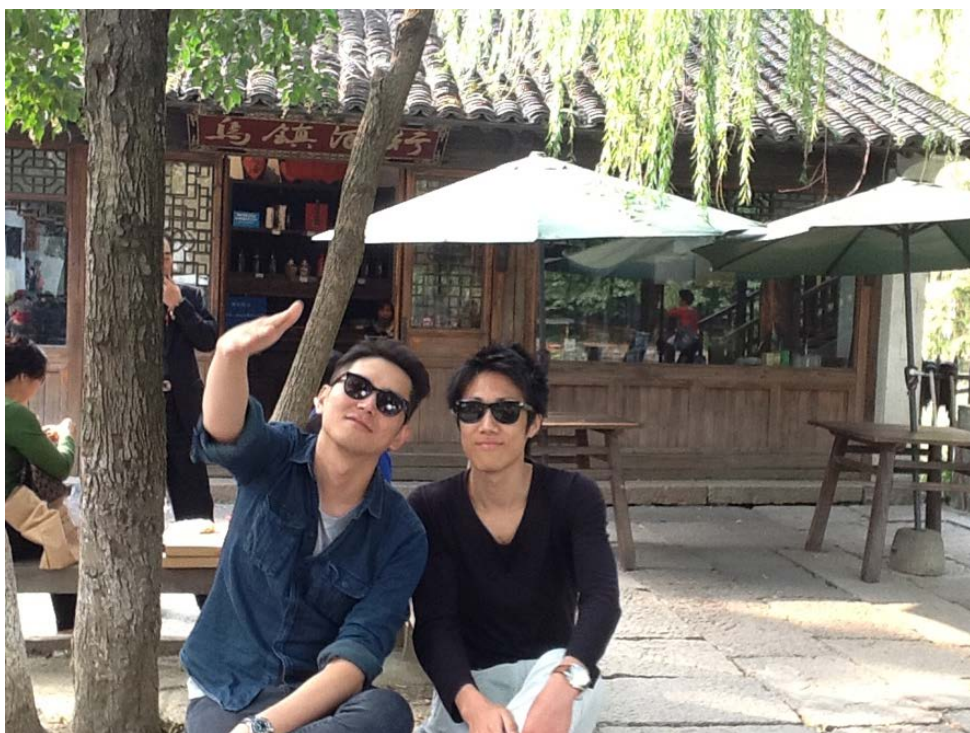
11月の頭に学校行事二泊三日で「宁波」というところに旅行に行ってきました。通常はもっと高いらしいのですが今回は安く行けるということでした。バスで約五時間かけていきました。バスの中では、お菓子やコーヒーなどのサービスがあり驚きました。中国にはほとんどサービスエリアなんてものはなくて一回だけ休憩しました。途中で有名な長い橋に行きましたが名前を忘れてしまいました。そこで見えた川は茶色でした…。ホテルは五つ星でとてもきれいでもっと泊まっていたいと思いました。朝食バイキングも久々の野菜や洋食で最高でした。この旅行は主に有名どころを観光していきました。山を登り、参拝したりなどバスに長時間ゆらされそこからたくさん歩いたのでとても疲れました。でも、この旅行でたくさん写真を撮りみんなと、とても仲良くなれた気がします。

ほぼ毎週末には偽物市場に行きました。偽物市場は依然一度失敗をしているのであまり好きではありません。雰囲気なども日本語話していると面倒なことになるのでその日は外人さんと行ったので外人のフリをしていきました。偽物市場では中国語がどれだけ聞き取れるかなど、なんだかたのしいです。ここでは、値引きができるというところも楽しいです。また、韓国人、アメリカ人と2泊3日で「厦門」というところに行きました。ネットではきれいな風景の写真がありましたが実際はそれほどでした。そこは、海の近くなので魚介類が沢山ありました。ぼくは抵抗がありましたが、他二人が食べたいというわけで食べたのですが、僕を含め三人が体調を崩しました。ほかには台湾の食べ物とマンゴーがありました。マンゴーのアイスはおいしかったです。上海から厦門は火车で約8時間30分

かけて行き、帰りは飛行機に乗り 1 時間 30 分で帰ってきました。

12 月はたくさんの行事がありました。その中でも、僕の誕生日の朝、教室に入ったら黒板にメッセージが書いてありとても驚きました。このお祝いは最初で最後の誕生日です。

留学に行けてほんとに最高でした。親に感謝します。



中期特別留学報告書

～初めての留学～

華東師範大学 17F1037 松本 裕奈

ここに留学報告を綴る前に、名古屋学院大学の留学担当の皆様、また半年間お世話になった華東師範大学の関係者の方々に、深く御礼申し上げたいと思います。この中国での半年間は、私の学生生活上欠かせない存在になりました。このような機会を頂けたことに深く感謝いたします。

私は海外に幼いころ行ったことがあるらしいですが、記憶にないので実質的に初めてとなりました。日本に帰ってきて思えば上海はとても都会で歩くたびにたくさんの外人さんの方々に出くわしました。そしてさすが中国だなという場面にもたくさん遭遇しました。そこで、これから勉強面と生活面に分けて報告していきたいと思います。

<勉強面>

特別留学の学生は8月7日に到着し、1週間後ぐらいから授業を開始しました。自分のレベルにあったクラスを決めるため現地の中国人の先生と1対1で簡単な面接形式のテストを行いました。教科書を出されて指定されたページの場所に書かれている中国語を読むのは心配なかったのですが、そのあとに自分のことについて質問された時は今なら何を言っていたのか理解できるけれど、何を言っているのかよくわかりませんでした。結局クラスは特別留学の2人以外全員同じクラスでした。驚いたことに生徒は全員、名古屋学院大学の日本人だけでした。授業内容は約2,3週間基礎の基礎から勉強しました。9月からが本学期となり、新しいクラスには夏と違いたくさんの外人がいました。韓国人やアメリカ人、オーストラリアやチリ、あまり日本人が知らないようなウズベキスタンの人まで様々な人種の方々がいました。最初は授業にしっかりついていけるか心配でしたが、先生がパソコンのスクリーンを使ってわかりやすく授業を進めてくれたり、少し喋るスピードがゆっくりめだったのでとても分かりやすかったです。そんな毎日楽しく授業を受けている中だんだん学校生活に慣れてきたのか授業を受けに来ない生徒や遅刻をする生徒が増えてきました。最初のころは22人いたのが気づけば11月ごろには10人程度で授業するのが当たり前になっていました。もちろん日本人の生徒はみんな毎日登校しています(笑)

授業は総合、听力、口语の3つがあり、私は個人的に听力が好きでした。内容はほとんど教科書を使いひたすらリスニングでした。答え合わせの時にみんなで疑問に思ったことを言い合ったり先生の面白話を聞いたりなどもありました。総合、口语は教科書の本文を読んだり文法の勉強をしたり、問題を解いたりが主でした。総合は内容が濃くて難しい文法や問題がところどころあったけれど、話の内容が面白くてよく覚えられませんでした。また一緒にクラスメイトの子がわからないところを教えてくれたのでクラスメイトの子と

は仲良くなることができました。12月くらいになるとこちらでも2回テストがありました。テストはどれも習ったところまででリスニングと筆記、スピーチでした。ほとんどテスト内容は教科書から同じ問題が出る感じでしっかり復習すれば溶ける問題ばかりでした。スピーチは生徒に向かって話すのではなく先生と1対1で話す形式だったのであまり緊張せずすみしました。また3つの授業のほかに個人的に中国語の歌の授業も習いました。この授業は合計5回行われ、毎回プリントに今回習う歌の歌詞とピンインが書かれておりその歌詞の内容をみんなを確認しながらパソコンのスクリーンを見て歌うという授業でした。私でも知っている歌が多く、もともとは中国の歌でそれを日本語カバーで作られた日本人なら知っている歌も中にはあり、とても親近感がわく授業でした。いつもの授業は1回だけれども、歌の授業は2階で3時から始まるのでいつも窓側で授業を受けながら夕焼けの景色などを見ていました。生徒数も少ないのでとてもゆったりとした空間で授業を受けることができました。

<生活面>

8月7日はとても暑く中国人の話曰くその日が1番の猛暑日だったそうです。息をすると焼けるように暑かった記憶があります。上海に来た時は中国語もそうですが、中国の生活にもなかなか慣れませんでした。でも日が経つにつれ自然になれてきて何事も動じなくなりました。

私は今振り返れば韓国人ととても仲良くしていました。韓国人の友達は何人ぐらいました。ほかの外人もそうですが、簡単な日本語を教えると発音よく言うことができたので私たち日本人は驚きました。また中国人もそうだけれどほとんどの外人が日本人に合うと簡単な日本語であいさつしてくれました。

私は毎日5、6人の人で一緒に行動していましたが、ご飯は日本より思っていたほど油の量が多く、どの料理も油がいっぱいのごてごてしていました。また、お持ち帰りにすると、紙皿の上にビニール袋を敷き、その上にご飯を入れて渡されました。まさかこんなふうにだされると思っていなかったので何も知らずに出された時、食欲はありましたが、とにかく驚きました。でも質はよくないかもしれませんが、日本より物価が安く、料理も量が多くて手頃な値段だったのでとても助かりました。

10月くらいには特留の友達の実家に2週間くらい遊びに行ってきました。その地域は北京よりもっと上の場所で上海に比べれば田舎だったけれど、すごく寒かったです。その家の家族の方々に私の中国語がそんなに通じなかったにもかかわらずとても親切にしてくれました。中国人はお客を家にもてなしたり、ご飯をたくさん食べてもらえることが嬉しいそうです。なので、私は毎日友達のお父さんが作ってくれるご飯をたくさん食べました。ほとんどの野菜が自分の畑で栽培した野菜だったので美味しかったです。ある時の料理では茹でた上海ガニが出てきたときもありました。すごくおいしくて料理がどれも豪華でした。上海に戻るときには涙を流して「またいつでも来なさいね」と言ってくれました。

ここの生活もまた上海と違い新鮮でなかなか日本では味わうことができないと思いました。
この体験も私にとっていい思い出です。

留学すると何もすることがないのでほとんど寮に帰っても勉強になりました。なので、
私自身たくさん中国語を身につけて日本に帰国することができたと思います。このような
いい機会を1年生の時にもらえてとても嬉しく思っています。ありがとうございました。

中期特別留学報告書

～充実した留学～

華東師範大学 17F1001 青木 佑理子

約5ヶ月間の中国の上海にある華東師範大学への留学が終わりました。この5ヶ月は自分が想像していたものよりも、何倍も何十倍も充実したものとなりました。去年の夏、大学に着いた時の今とは違った、不安で仕方なかった気持ちを今でも思い出します。特に言葉の面での不安は大きかったです。

実際、日本で学んだだけの中国語ではうまく伝えることも、現地の人の言っていることも聞き取れず、外に行くのが嫌になるほどでした。時には店員さんに笑われることもあり、悔しいと感じる時もありましたが、それからだんだんと慣れてきて注文をすることも、買い物をすることもできるようになりました。言葉の面では、あとはタクシーです。中国ではタクシーがたくさん走っていて、移動手段はタクシーや地下鉄を使っていました。私はよくタクシーを使っていましたが、タクシーに乗っていると自分の中国語の成長が分かりました。はじめのころは知り合った先輩方と一緒にタクシーに乗って、どうやって行きたい場所を伝えるのかなどを見ていました。それから自分たちだけでも乗るようになりました。私は中国には反日感情を持っている人が多いと思っていて、タクシーに乗るのも怖いと思っていましたが、実際はそんなことはありませんでした。うまく発音ができなくても、ちゃんと聞いてくれようとしてくれるし、時には日本人ということで興味を持って話しかけてくれたり、日本語で挨拶してくれたりといい人ばかりでした。来たばかりの頃何を言っているかわからなかったことも、終わりに近づくにつれて会話ができるようにまでなっていました。一人でもタクシーに乗れるようにまでなりました。また面白い場面に出くわしたこともありました。留学最終日の前日、街の中で若い数人の女の子の人たちに話しかけられました。はじめは写真を撮ってと言われ、それからこの大学に留学しているの？などと質問をされたり、日本の話をしたりしているうちに、お茶に行こうよと誘われました。時間もなかったので断り歩いていると、また同じように声をかけられてお茶に行こうと誘われました。これはおそらく詐欺だったのですが、私はこの時に一番留学で身につけた自分の実力を実感することができました。辞書で調べたりすることもなく、焦ることもなく自然に聞き取れ、答えることができました。こういった場面に出くわしても、面白い感じる事がこのことこそが学習の成果であると思います。他にも中国語が話せるようになったことで楽しかったことがありました。それは買い物の時の値段交渉です。中国語の練習をしつつ、安く物を買って、買い物を楽しんでいました。交渉なんてできないと思っていましたが、280元と言われたものが25元まで下がったり、スカートが29元で買えたりと、驚くぐらい安く買えるのが、中国の買い物の醍醐味だと思います。店員さんとの交渉も楽しく、粘って粘って安くし

でもらったりしていました。これは私が買い物をしていて思ったことですが、女の人よりも男の人と交渉したほうが値段交渉しやすいと思います。

学習面についてですが、授業は1日90分×2でした。国慶節や旅行の期間以外は毎週月曜日から金曜日までの週5日間授業がありました。9月にクラス分けがあり授業が始まった頃は、先生に質問されても答えられないこともあり、クラスのレベルに自分がついていけないか心配でした。毎日授業が終わり寮に帰り、復習・予習をするといった生活をし、1週間、2週間、1ヶ月、2ヶ月と時間が経つにつれ、少しずつですが中国語を自分のものとして使えるようになりました。授業は聞いた文章を文字にしたり、文章の読み取り、またほかの科目では、リスニングがあったり、クラスメイトとグループを作って対話文を作るといったようなグループワークがありました。基本的に授業は楽しいものでしたが、グループワークはやりづらかった部分がありました。私のクラスには私を含め日本人が6人と韓国、アメリカ、カナダ、イタリア、フランス、ブラジル、フィリピン、サウジアラビア、タジキスタン、オーストリアといった11か国のクラスメイトがいました。日本人以外は英語を話すことができたので、クラスの英語の会話は入ることができませんでしたし、話し合いをする時にどうしても英語を使いますので、グループワークの授業はやりにくかったです。やはり留学のためにはその国の言葉を話せることも大事ですが、英語ができたらもっと学べるが増えると思いました。このようにやりにくいと感じることももちろんありましたが、先生のおかげで楽しい授業を受けられたと思います。私のクラスには台湾人の先生がいてとても面白く、クラスメイトもとても面白い人たちばかりで、時にはお別れパーティーをしたり、ゲームをしながら授業をしたり楽しい授業でした。

中国での生活は驚くことばかりでした。外に出れば車も多く、人も多くお店もたくさんありました。しかし日本とは違いやはり値段が安かったです。ショッピングモールの中にあるお店でなければ比較的安く食事ができました。私は中国に来るまで、しっかりとのご飯屋さんや、服屋さんはないと思っていましたが、中国、そして上海は発展が進んでいて、有名ブランドのお店もあれば、日本の100円ショップの商品が売っているお店があり、ご飯屋さんも様々な国のお店がありました。思っていたよりも普通の生活を送ることができました。

たった5ヵ月間の留学でしたが多くのものを得られたと思います。学習の面では中国語の上達ができ、以前よりも使えるようになりました。何もかもが初めての体験で多くの経験をすることができました。中国に留学したことで、毎日同じ部屋で暮らしたルームメイトとはいく前に比べて何でも話せることまでの関係になれました。そして同じ大学に留学していた人や、中国人の友達、クラスメイト、先生、たくさんの人に出会うことができました。今回の留学がここまで充実したのは、周りの人がいたおかげだと思います。日本から世界各国の人と知り合えてよかったです。何よりも初めてこんなにも外国の人と仲良くなれて、新しいつながりができたことが嬉しかったです。中国に対する

イメージも変わりました。どちらかといえばマイナスイメージだったのも、プラスのイメージに変わりました。人も優しく、交通も便利で、自由な国でも、私が見た限りとても勉強熱心で見習いたいと思う部分も多くありました。たくさんの人とかかわり、今までとは違った環境で過ごしてきたことで、自分の物の見方やとらえ方も変わった今の自分を、忘れないようにしたいと思います。そして学習も生活も充実したこの留学を、これからの道につなげていきたいと思います。



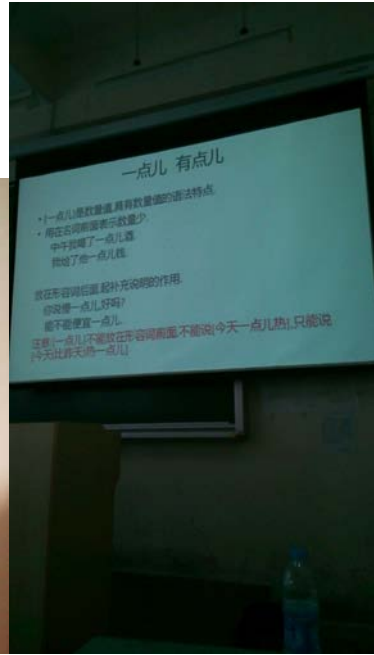
豫園の風景



新年の花火



久光 日本の商品もたくさん売っています！



学校の様子



寮の様子

中期特別留学報告書
～初めての上海生活～

華東師範大学 17F1022 丹 早苗美

8月7日、中国語を完璧に話せるようになって帰るということと、上海での生活を楽しみに、初めての上海へ行きました。着いた当日は、大学の裏にある中華料理店へ先生が夕飯をみんなで食べるに連れて行ってくれました。



←中華料理店にて

中国本場の料理には抵抗があったのですが、私はみんなと比べてお腹を壊すとか、嘔吐するとか、全く無く自分が食べたいものはなんでも食べていました。仲の良い友達と毎日ご飯を食べ、同じ部屋で他愛もない話をして笑ったり、宿題を一緒にやったり、遊びに行ったり…楽しい毎日を過ごしていました。



←いつも行列ができていたお店の揚げ小籠包

私の大好物になりました！



←寮のお部屋にて



↑水族館にて

上海水族館は結構有名らしいので行ってみました。色とりどりの魚は居なかったです。



↑タピオカジュース



←有名観光地の外滩にて



←夏季の短期授業のクラスメイトと

学校の近くのグローバルハーバーという大きいお店は開店したばかりらしく、他のお店よりすごく綺麗で、トイレにトイレットペーパーが置いてあったのには感動しました。



私と仲の良い友達はみんな短期だったので、20日程で日本へ帰ってしまい、心に余裕がなくなりました。そんな中、本格的に授業が始まり、口语の授業では、先生が決めてきたテーマについてグループで話し合っ自分たちのグループはどう思ったかを代表の一人が先生とクラスメイトに発表するというのが主な授業内容でした。教科書では、课文をみんな読んであとに、二人一組でもう一度読んであと、練習問題をやって、答え合わせをするという感じでした。たまに、自分のお気に入りの写真をパワーポイントで発表するというのもありました。听力では、前回学んだ単語の小テストをやったあと、教科書の聞き取り問題を解いて、出席番号順に答えを言っていくという感じでした。そのあと、教科書の内容について話し合いをしました。教科書の内容をやったあと、1日2人、自分の一番好きな場所について発表しました。私は名古屋と京都の観光地や名物について発表しました。阅读では教科書の内容が沢山あったので、ある日は単語について先生が説明してくださり、ある日は课文をみんなで何回も読んだ後、席順に一人一段落ずつ読み、ある日は練習問題を解くという授業でした。阅读では口语や听力と違って、話し合いはなく、ひたすら教科書の内容をやりました。



←听力の授業の様子



←クラスメイトに英語を教えてもらいました

外国の方は、日本人と違って、書くことよりも話すことが得意な方がほとんどで、毎日中国語で会話して、メールもちろん中国語で、自分の中国語のレベルもアップしていき

ました。クラスメイトの中でも特に仲良くなった子が二人いて、一人はフィリピンの女の子でした。私より4個上のお姉さんなのですが、まるで小学生みたいに明るくていつも笑っていてみんなに好かれている子でした。この子は日本語が話せなくて、私は英語が話せなかったので共通する言葉は中国語でした。お互い同じくらいのレベルだったので分からない単語はお互い辞書で調べて会話していました。また、私はこの子に英語を教えてもらって、私も日本語を教えていて、この子といる時間はすごく刺激的で、成長していると感じられる時間でした。



←フィリピンの友達と

もう一人は日本人の女の子です。この子とは姉妹並に仲良くなれました。毎日一緒に行動して、風邪を引いたときは果物を買ってきてくれたり、時には喧嘩もしましたが今では親友です。他のクラスメイトともすごく仲良くできました。積極的にクラスメイトの子達に話しかけていき、授業内での話し合いや、授業以外でもみんなで遊ぶようになり、いつの間にか授業へ行くのが楽しみになっていました。ハロウィンパーティーも開いて、誕生日も祝ってもらいました。異国で友達ができたことは私にとってとても自信になり、誇りに思えることとなりました。



←クラスメイトと先生と



↑ハロウィンパーティーにて！



←みんなでご飯を食べに行ったときです！

私のクラスは本当に仲良しでしょっちゅうご飯を食べに行ったりしていました。

学校の企画で寧破へ旅行にも行きました。主にお寺を回って見ました。他にも昔の偉い人が使っていたベッドや、昔の中国人が着ていた民族衣装や、昔使われていた麻雀が展示されていました。ものすごく大きい大仏様のところへも行きました。



←何段もの階段を上って大仏様のところへ！

初めてこんなに大きな大仏様を見ました。



←地面が麻雀になっていました！

pm2.5の数值が400越えになったときは、いつも見ている景色が真っ白で、霧が出ている感じでした。地下鉄のホームにも、お店の中にも入ってきていたのでマスクは必需品でした。



←近くのお店の景色。PM2.5の酷さが分かります

上海は本当に栄えていて、私が帰国する少し前には近くのお店に日本製のプリンタ機が設置されていました。ZARA、Forever21、H&Mなど日本にもあるアパレル店もあったので、日本にいるときと同様、買い物を楽しめました。



←Forever21にて

カラオケもあり、一人60元と高かったですが、日本曲も沢山ありました。一番驚いたのはDVDが一枚15円で売っていたことです。CDも20元と格安でしたので沢山買って帰りました。中国のはもちろん、ハリウッド映画や韓国映画、日本の映画やドラマのDVDも沢山置いてありました。ファストショップでは、服や靴、カバンやアクセサリも何でも安く売っていて、値段交渉も可能だったので、元の値段よりもっと安く買い物ができました。ですが、私たちが中国人ではないとわかると、元の値段より高く売ってきます。無理やり買わせようとしてきた人がいました。最初の頃はそれが怖くて、積極的に値段交渉ができなかったですが、慣れてくると、値段交渉も積極的にするようになり、どうしても安くしてくれない店員さんのところでは、「もう、いらない」と言って帰ろうとします。すると、ほとんどの店員さんは「じゃあ、あなたの買いたい値段でいいよ!」とってきます。この言葉をかけてくれるのを狙ってファストショップで買い物していました。クリスマスが近づくと街はイルミネーションで輝いていました。正直、中国ではイルミネーションなんか無いのではないかと思っていたので驚きました。

上海に半年間滞在して、初めて家族や友達と離れて、どれだけ心強いものだったか今、すごくみんなに感謝しています。今回の留学はつらいことの方が多かった気がしますが、そのおかげもあり、みんなの存在を当たり前だと思わなくなり、自分自身も変わりましたので自分にとって刺激の良い経験でした。

中期特別留学報告書 ～中国での5か月間～

華東師範大学 17F1023 茶園 香穂

私は2013年8月7日から2014年1月15日まで中国の上海にある華東師範大学に留学しました。華東師範大学は上海の中でもとても有名な大学で、私と同じ中国語を勉強しに留学に来ている外国人がたくさんいて、大学内にはたくさんの寮やキャンパスが建っていてとても広い大学です。留学初日から数週間は上海の生活に全く慣れなくて疲れが溜まるばかりでした。短期授業が始まってからは、全て中国語の授業が嫌になることもあり、ほかに外へ出ても知らない場所ばかり、中国語もまともに話せない、聞き取れないなどの問題もありました。遠出をして遊びに行くこともなく、食事も最初の頃は大学内の購買や大学の近くにある安い中華料理屋で食べていました。今思えばこの時間をもっと有効に使えばよかったととても後悔しています。

9月から本格的な授業が始まりました。教科は听力、口语、阅读の3教科で全ての授業とてもわかりやすくとても楽しい授業でした。ひとりの先生は華東師範大学大学院生で中国圏のアーティストが大好きな先生でした。私も中国圏のアーティストが大好きなので先生とは話がとても合いました。もう1人の先生は日本語が話せる教師を長年やっているベテランの先生でした。わからないことがあると日本語で話しかけてきたりしてくれました。私のクラスは日本人が多く、ほかに韓国人、ロシア人、オーストラリア人、タジキスタン人、チリ人、アイスランド人、アメリカ人、フランス人などたくさんの外国人がいました。みんな年上で言葉も通じないので最初の頃は仲良くできるかととても不安でした。でも話さないとダメだ！と思い、話すきっかけがないかなと思っていた時に大学外でたまたま韓国人のクラスメイトが私の横で信号を待っていたので自分から声をかけたら一緒にご飯を食べないかと誘われて、急ぎょ行くことになりました。話の内容はお互いの名前はどんな漢字で書くのか、お互いの国のいいところ、知っている芸能人、授業はどうかなどご飯を食べながら話しました。日本人のクラスメイトとは既に仲が良かったのですが、外国人のクラスメイトと仲良くなったのは初めてでした。私はとても嬉しくて仕方なかったです。

ほかのクラスメイトと仲良くなったのは11月上旬に行った留学生旅行です。私のクラスはこの旅行に参加した人は7人ととても少なかったのですが、人数が少なかったので団体行動するときも行く場所などすぐ決めることができ、歩いているときも食事中も会話も7人全員でできたのですごく楽しかったです。旅行の1日目の夜は晩ご飯を食べたあとカラオケに行きました。カラオケでは中国語、日本語、韓国語、英語、フランス語の歌が聞けました。これは留学して経験できることだなと思いました。この旅行は中国の歴史についてもたくさん学べてクラスメイトとたくさん交流ができるいい旅行だと思いました。

外国人留学生以外にも留学先で知り合った日本人留学生の人たちともたくさんの思い出

があります。日本人で初めて仲良くなったのは同じクラスで同い年の男の子でした。彼に上海の名所やおいしい料理屋などたくさん教えてもらいました。彼のおかげでたくさんの日本人留学生と知り合えました。同い年の男の子と女の子2人、年上の大学生4人、大学院生1人、社会人留学生1人。クラスメイトで主婦の方とも仲良くなれました。誕生日パーティーに招待してもらったり、一緒にご飯を食べに行ったりしました。来た頃はこんなにも日本人と出会うと思ってもいかなかったです。一緒に勉強をしたり、わからないことがあれば助けてくれたり、悩みがあれば聞いてくれたり部屋に集まって映画鑑賞会したりなどみんなで楽しい時間を過ごしました。上海に来た時は日本に帰りたくて仕方なかったのですが、楽しい時間が増えていくうちに日本に帰りたくないと思っただけになりました。帰国する日が近づいていくうちに、周りの人たちとの別れが少しずつ増えていきすごく寂しかったです。周りが帰国したあとにクラスメイトの方が帰国前日にお別れ会をその方の家で開いてくれました。たくさんの手料理を振舞ってくれたり、面白い話をしてくれたりとても楽しい帰国前日になりました。帰国当日も娘さんと2人で空港までお見送りに来てくれました。私は別れが辛くてずっと泣いていました。ずっと上海にいたいと思っていましたが、出会いにはいつか別れが来るものです。「今生の別れではないじゃん。同じ日本人だからいつでも会えるよ。」と、たくさんの日本人と出会う縁を作ってくれたクラスメイトが言ってくれたのを思い出しました。彼が言った言葉は今でもすごく心に残っています。

華東師範大学外の大学に通っている中国人ともたくさんの出会いがありました。私は日本にいるときから日本に留学している1歳年下の中国人の女の子と仲が良く、彼女がたまたま上海に帰省している時に一緒に遊びました。彼女は日本語がすごく上手で、上海の女の子がよく行くお店や場所などを教えてもらいました。私と彼女が仲良くなったきっかけは、「同じ台湾のアイドルが好き」ということでした。11月にイベントでそのアイドルが上海に来ていて私が彼女に会いに行きたいから一緒に行きたいと言いましたが、彼女は既に日本に帰国していて一緒に行けないので彼女の友達を紹介してくれました。その人の名前は炯炯(jiong jiong)と言います。上海市外に住んでいる私よりも6歳年上の中国人です。炯炯は中国語しか話せない人で正直行くか行かないか迷っていました。けど、これも勉強、そして挑戦だ！と思い炯炯と一緒にイベントに行くことにしました。炯炯と会ってからはイベントまで時間があつたので、好きな歌手はほかにいるのか、いつからそのアイドルを応援しているのかなど1時間程話しました。そのあとに夜ご飯を食べながらアイドルに渡す手紙を書きました。炯炯に書きたい内容を伝え、そのあとに炯炯が私に「こう書いたらどう？」「ここは間違っている。こう書くのが正しいよ。」などとアドバイスをくれました。書いている途中にイベントの時間になったのでほかの友達と合流しました。イベント会場に行くとき中国人の女の子たちがたくさんいました。周りからは中国語しか聞こえないし、会場内の音量が大きくてさらに聞き取れませんでした。イベントが始まってアイドルがステージにやって来ました。日本には滅多に来日しない彼らを生で見ることができてとても幸せでした。MCの内容もほんの少しだけ理解できました。イベントが終わってからは炯炯

と彼女の友達と泊まりました。炯炯は夜中まで最後まで書けていなかった手紙を書くことを手伝ってくれました。封筒も炯炯と友達が私のために急いで作ってくれました。初めて会った私にここまで優しくしてくれる2人をみてとても嬉しい気持ちになりました。手紙を書き終えてからすぐ寝て空港までアイドルのお見送りに行ってきました。炯炯が私の好きなアイドルに私が上海に語学留学していて今中国語を勉強していることや、すごく好きで手紙も頑張って書いたなどを伝えてくれました。言葉が完璧に通じなくてもこんなにも親身になってやってくれた彼女にとっても感謝しています。大学外で知り合った人の中で1番印象に残っているのは炯炯です。また中国に行く機会があれば絶対に彼女に会いたいと思います。

約半年間でたくさんの人と出会い、たくさんのことを学びました。こんなにも充実した半年間を過ごせるとは思っていませんでした。上海で出会った全ての人たちに感謝です。これからも中国語の勉強に励み自分の目標を達成したいと思います。

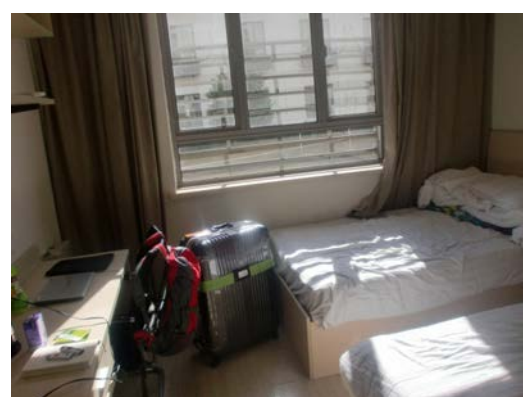
中期特別留学報告書 ～中国に対する見方～

華東師範大学 17F1028 中川 美里

2013年8月7日に中国・上海へ到着し、約5カ月間に渡る留学生活がスタート。これが自身初の留学となりました。入学時から在学中に1度は留学してみたいと考えていました。一から中国語を学び始めてたったの3、4カ月という早い時期での留学でしたが今後中国語を学んでいく上で現地を自分の目で見ておくことは大事なことだと思い、今回のプログラムに参加しました。

出発前はPM2.5などによる大気汚染、鳥インフルエンザが懸念されており生活面、衛生面などの心配や留学先大学での授業についていけるのか。といった不安もありましたが、これからどんな生活が待っているのだろうという期待も大きかったです。

大学の敷地内には川が流れており、すごく広く、1つの村のような印象を受けました。寮は2人1部屋で部屋にはエアコンが付いており、シャワーとトイレ、2人分のベッドと机、クローゼットが完備されていました。共同でランドリーとキッチンもあり、想像していたよりも綺麗で生活しやすい環境でした。



心配していた大気汚染に関しても、夏場は問題なく過ごせましたが、冬になるにつれてだんだんと空気が悪くなり、遠くの方が見えないほど霧のように空気が白く、マスクなしで外出すると少し息苦しさを感ずるほどでした。(滞在中最も空気が悪かった日の写真です。)



授業は寮から徒歩20分程度の教室で毎朝8:30～行われました。日本より始業時間が早いのでその点は朝なかなか起きられなかったりもして辛かったけれど、寮から近いので助かりました。科目は口語・読書・聴力の3科目で、毎日45分授業が2限まで。日本での授業より時間は短いけれど、説明もすべて中国語なので聞き逃さないように集中力を保ち続けるのが大変で、2時間で4時間分の体力を使うほど疲れました。口語の授業はスピーキングが中心で、1つのセンテンスについてグループで意見をまとめて発表をしたりしました。読書は文法が中心で、教科書やPPTを使った説明もすべて中国語ではじめは戸惑いましたが先生もゆっくり何度も言うのでだんだんと授業でよく出てくるフレーズは覚えられて聞き取れるようにもなりました。聴力はリスニングを中心に教科書の問題を解いたり、毎授業有名な歌を1曲、歌詞を見ながら歌ったりもしました。クラスは韓国・イタリア・サウジアラビア・フランスなど様々な国の留学生と一緒に、どの授業もすごく楽しく、初めに抱いていた不安は一気に吹き飛びました。11:45に授業が終わり、お昼前には下校といった感じで午後は自由な時間を過ごすことができました。部屋に戻って勉強をしたり、映画をみたり、校外へご飯を食べに出かけたりと充実した毎日を送ることができました。あっという間でしたが楽しく中国語を学ぶことができ良かったです。

休日には観光地を訪れたりして中国文化に触れる機会も多くありました。はじめはタクシーに乗るのが怖く、バスや電車を使って行動していましたがだんだんとタクシーも使えるようになり運転手さんと会話をしめるまでになりました。上海の交通は本当に便利で安く、地下鉄は日本より路線が多く、価格も3元～5元ととてもリーズナブルでした。タクシーも初乗り13元ととても安く、たくさん走っているのですごく便利です。毎日がどこへ行くにも勉強で、刺激的な生活を送っていました。

また、学校から2泊3日で寧波・溪口・烏鎮へ旅行に出かけました。上海からバスで4

時間ほどのところで都会の上海とは違い、緑が沢山で、空気が綺麗なところでした。クラスメイトと3日間行動してみて、伝えることの難しさ、文化の違いによる考え方の違いを実感しました。留学中の旅行はこの1度だけでしたが、同じ中国でも少し地域が違うだけでかなり印象が違っていました。また機会があれば今回行くことができなかった北京も訪れてみたいと思います。

食事に関していうと、中華は本来大人数で食べる人が多いからか、大皿で出てくることが多かったです。食べきれないほどくださってありがとう。という意味表示で残すことが礼儀であると言われてはいますが、実際には行われている様子はないように見えました。上海には日本食のお店が本当にたくさんありましたがやはり日本で食べるよりも高かったです。道端にある小さな中華料理のお店だと10元ほどでお腹いっぱい食べられますが、少し高級な中華のレストランだと日本食と変わらない価格設定でした。後半はスーパーで食材を買って自炊をするようになりました。野菜や果物、調味料なども日本に比べずいぶん安いですが、日本に比べると食材の新鮮さや衛生面は劣ります。生米や生肉がむき出しで販売されているのは当たり前のように初めは驚きました。



日中関係が深刻化している中で中国へ留学することに不安を抱いており、メディアの影響でもありますが留学前は私自身、中国という国に対して中国人に対して少しばかり偏見の目を持っている部分もありました。しかし実際に現地へ行き、中国の方と交流して、生活してみるとメディアで取り上げられているような私が想像していた中国とは大きく違っていました。反日と騒がれている中で、もちろん日本が嫌いという人もいますが、日本が好きで日本語を勉強している方、また流暢な日本語を話せる方、本当にたくさんの人に出会いました。タクシーを利用した際も、日本人ですか？と声をかけてくださり、知っている日本語を話してくれたりする運転手さんも多くやはり自分の目で見て肌で感じなければ分からないことばかりだなと思いました。例えば、歩行者優先であったり、おつりの手渡しであったり、電車やエレベーターで降りる人が優先など、日本で生活していれば当たり前に思えることも、帰国してから改めて日本特有の親切心だと感じました。

今回、未熟な語学力で初めての親元を離れての生活、不安も恐怖も沢山ありました。し

かし沢山の経験をし、いろいろな困難を乗り越えてこの5カ月間で得たものは本当に大きく、半年前の自分から少しは成長できたのではないかと思います。そして中国という国に対する見方も変わり、今後の学習に対する意欲が芽生え始め、更に日本という国の素晴らしさも実感することができました。

今後はもっともっと中国への関心を深め、更なる中国語力の向上を目指して努力していきたいと思います。



中期特別留学報告書 ～中国での6ヶ月間～

華東師範大学 17F1025 飛永 夏澄

今回の中国留学では、上海の華東師範大学にお世話になりました。この6ヶ月の主な出来事はこのような感じでした。7・8月⇒中国へ入国、夏季授業、9月⇒クラスをレベル別に分けての授業、10月⇒国慶節休み、中間テスト、11月⇒国際文化祭、12月⇒期末テスト、1月⇒元旦休み、授業終了、帰国。

中国に来たばかりの7・8月はレジで店員さんが何と言っているのかまだ聞き取れず、買い物も少しままならないところがありました。しかし、海外という事にはしゃいでしまい、南京西路、南京東路、田子坊、豫園、外灘など、持って来ていたガイドブックに載っていた観光地へはこの時点でほとんど行ってしまっていました。授業では、使える中国語をこの頃から既に教えてもらっていたので、午前中に授業、午後から観光という流れの時は習った言葉をすぐに観光先で使ってみるといった事が出来たので、その時は覚えやすかった気がします。

9月のレベル別クラス分けでは、周りは言葉の通じない国の人たちばかりで、最初はコミュニケーションがとれなくて大変でした。英語が喋れる人は英語で他の国の人たちと喋ったりしていて、羨ましかったです。さらに、授業も英語で説明されることが多かったので、外国と関わる時は、その国が英語圏でなくても英語が必要だという事を実感しました。

10月には国慶節という休みがあり、期間が7日間もあったので、同室の人と2人で計画を立て、2泊3日の蘇州・杭州旅行に行きました。しかし、もう少し後に各クラスで杭州へバスで旅行に行くという参加自由のイベントがありました。参加費が確か300～800元だったと思います。私たちの旅行にかかった費用は行き帰りホテル代を合わせると、確実に800元よりも高かったです。さらに、そのイベントで泊まったホテルはかなり良かったらしいので、蘇州・杭州に行こうと思っている人はそっちに参加した方がいいような気がします。反対に、私たちの旅行で良かったところは、ずっと自由時間という事と、中国の高速鉄道に乗れたというところです。しかも、行きと帰りで異なるランクに乗ることができました。



中間テストは、単語をしっかり覚えているとやり易いです。

11月の国際文化祭では、色々な国から留学に参加している生徒たちが自分たちの国の料理や美術品などを持ち寄って、紹介するというイベントです。そこで紹介されている食べ

物、飲み物は有料のものも有りますが、世界中の食べ物をいっぺんに食べられるという事はそうそう無いことなので、行ってみるべきだと思います。

留学最後のテストは12月の終り頃にあり、クラスの人たちも早くからテスト勉強を始めているみたいでしたが、クリスマスを家族と過ごすために予定よりも早くテストを受けるためだと聞いて驚きました。同じような理由で多くの生徒が帰ってしまい、そのため1月の授業は3日間だけ行い、後は休みになりました。

1月には何人かで香港へ行ってきました。スターズ・オブ・アベニュー、香港ディズニーランド、女人街、ピークトラムに行ってきました。香港は旅行の場合外国とみなされるので、私たちがとったFビザだと、そこでビザが切れてしまうのですが、調べてみると上海に帰ってきてから15日以内に出国すれば大丈夫だという事がわかったので、大丈夫だったと思います。香港で主に使われている言語は、広東語ですが、香港人のほとんどが普通語・英語も喋れるので、中国語の勉強にもちゃんとなりますし、助かりました。香港へは、上海から仕事で向かう人も多く、飛行機の中で私の隣に座った方は、行きも帰りも仕事の人でした。



香港ディズニーには、日本には無いエリアやアトラクションが有り、日本では買えないと思うと、ついついお土産をたくさん買ってしまい予算オーバーしてしまいましたが、とても楽しかったです。



上海に戻ってからは、もう一度行きたいところや、まだ行ってなかった場所に行ったり、日本ではあまり食べられないもので、まだ食べてなかったものを食べに行つて過ごしました。試しに蛙も食べてみましたが、味は噂通り鶏肉の様な感じで、鶏肉よりも柔らかく、美味しかったです。しかし、大きな骨が付いたまま料理されていて、その骨の蛙感が凄かったです。なので、美味しかったです、もう食べなくてもいいと思いました。

上海に来た当初は、中国人が普通に道に痰を吐いたり、ごみを散乱させているのを見て、不快感を覚えたり、屋台の食べ物は怖くてあまり手を出そうとも思えなかったし、すぐにおなかを壊してしまっていました。しかし、2ヶ月も住んでいると、痰やごみもそこまで気にならなくなってくるし、屋台で売っている食べ物を買って食べてもおなかを壊す人はほとんどいなくなりました。しかし、いくら中国の生活に慣れても、日本に帰ってくるとやはり道の綺麗さには感動しました。

私たちが華東師範大学で生活するのをサポートしてくれる人として紹介を受けた洪静さんという人には本当にお世話になりました。週に1回勉強会を開いて、授業でわからなか

ったところを教えてくれたり、テスト勉強を手伝ってもらったりもしました。さらに、休みの日に私たちが知らない場所に連れて行ってもらったり、香港へ行くときの飛行機・ホテルの手続きまでして頂いて、本当に感謝しています。洪さんは今年、日本語の勉強のために日本へ留学に来るみたいなので、応援しています。

私たちが留学に行った華東師範大学には、名古屋学院大学で言うところの language buddy の様なシステムが有り、そこに登録すると、その中で条件に合う人を探してくれます。お互いに教えあう場合は無料ですが、お互いにではなく、一对一の中国語会話教室の様な形だと、人によってはお金を取られる場合もあったらしいので、そこはしっかり確認しなければいけません。

上海は短期間で発展して都会になりましたが、そこにいる人々は親切でした。特に子供に優しく、冬に少しでも素肌が出ていると、その子が日本人の子供であっても、風邪ひいてしまうでしょ。と注意するほどらしいです。しかも、私がお話を聞いた方によると、反日デモが激しかった時の話だという事を聞いて、驚きました。中国人は子供に優しいもう一つの例として、電車の中で、子供には席を譲ってあげるが、お年寄りには譲らない。という話を聞き、この日本との考え方の違いをおもしろいと思いました。そして、何人かで上海での最後の夕食をレストランで食べていた時の事です、隣の席に座っていた男の人二人が、中国と日本の良い友好関係を願って。と言って私たちが食べた料理の代金を払ってくれようとしたという事があり、その事にもとても驚きました。

今の上海の人柄を日本で例えると、昭和の時代の人々のイメージと似ていると思います。あと、なんとなく、大阪とも似ている気がします。

外国人から見ると、日本人は親切だと認識されていると聞きますが、昭和の時代と比べると、あまり人と干渉しなくなった。とも聞きます。国が発展する程人との干渉が少なくなっていくものの様な感じがしていますが、上海はそのままであってほしいと思います。

中期特別留学報告書 ～言葉とご飯はたいせつだ～

華東師範大学 17F1015 木村 美佳

8月、私は初めて上海にきました。初日にこれからの生活に必要なものを揃えるためスーパーへ行きました。会計の時お金がいくらかも聞き取れず、店員の態度も日本と全く違い、早くも心が折れてしまいました。



短期の授業が始まり、授業はすべて中国語なので何を言われているのかさっぱりわからなくて戸惑いました。それに初めのころはよくお腹を壊していて、体調もあまりすぐれなかったので、気持ちが沈むことが多かったです。ですが、ゲーム形式の授業が多かったので、慣れてくると楽しんで授業を受けられました。

短期が終わり、9月の授業まで1週間休みがありました。その時に上海の観光地へ遊びに行ったりもしました。豫園や外灘、南京東路などいろいろ探検しました。観光地はやはり人が多く、食事するとき寮の近くの飲食店だとだいたい15元あれば余裕なのですが、観光地は40元くらいかかるので値段も高いと思いました。

9月になってクラス分けもされ本格的に授業が始まりました。クラスのほとんどの人が英語を話すことができ、授業中の説明はすべて英語でした。クラスの人たちとコミュニケーションをとりたくても、お互い中国語はまだまだできないし、自分は英語も全く理解できないので、うまくコミュニケーションがとれず、英語の壁に悩まされました。授業中、英語で話が進んでいってしまうこともあり、先生の中国語も速かったため、質問したくてもできないことにすごく焦っていました。ですが、洪さんが週に一度わからないところを教えてください、質問する機会を作ってくれたので、とても助かりました。授業では毎日宿題を出されるのですが、最初のころは先生が口頭で説明する宿題の内容を理解するだけで精一杯で、宿題をやるのに2時間もかかっていたりしていました。予習をしていかないと授業に全くついていけなかったりして、宿題と予習で一日の自由な時間の大半が終わってしまうため、土日で復習したりしていました。

9月が終わるころには上海にもだんだん慣れてきて、ごはんを出前したりもできるようになりました。電話で注文は本当に難しかったのですが、注文先のお店の店員さんも外国人慣れしている感じでとても親切に対応してくれたのでちゃんと注文することができました。

10月、11月は授業中に英語で進む回数も減ってきてだいぶ気持ちが楽になり、だんだんと中国語に対して真剣にやる気になりました。テストがあったり単語が増えてきたりや

る気に頭がついていかないことが多かったですが、クラスのメンバーとも話す機会が多くなり、一緒に食事に行ったり、休憩中に話したりだいぶ打ち解け上海の生活が楽しくなりました。

普段生活していても周りやはり日本人なので、せっかく中国にいるのに中国語を全然使っていないなと思い、少しでも中国語を話す機会を増やすため、10月に華東師範の中国人の学生を紹介してもらいました。週に一度会って遊んだり、中国語を教えてもらったりしていました。同い年の子を紹介してもらって、彼らにはカラオケや、タピオカの美味しいお店やいろんなところに連れて行ってもらいました。うまく言いたいことが伝えられなかったり、単語をつないでしか話せなかったりしましたが、自分の話を真剣に理解できるまで聞いてくれる優しい子たちだったので、本当に友達になれて、うれしかったです。10月の後半から携帯が使えなくなり、出前ができなくなったので、ほぼ毎日校内の食堂を利用するようになりました。食堂は料理が安くて味もよくてとても便利でした。

12月に入ると、留學生活も残り一か月ということで、食べ物や授業や友達と遊んだりすること、すべてが名残惜しくなりました。授業は急に進むスピードが速くなり、先生の中国語も速くなり、また授業についていけなくなりそうになりました。自分の理解があやふやのまま授業の内容が次の課に入っていくってしまい、9月のはじめのころのような状態になってしまいました。自分はあまり夜遅くまで起きていたくない人間なのですが、授業にちゃんとついていきたいし、テストも近いし夜まで勉強することが増えました。それでもやっぱり授業についていくのはきつかったです。

寒くなってきて空気が悪い日が多くなりました。本当に空気がひどい日も体験しました。マスクをしても自分の持っていたマスクじゃ意味がなかったかもしれないのですが、一応気休めでも毎日外に出かけるときや、授業の時はマスクをするようにしていました。それでも中国の人はマスクをしないのがとても不思議でした。

12月はクリスマスや誕生日やいろいろなイベントがあり、友達とパーティーしたり、クラスの人と遊んだり一番充実していて楽しい月でした。12月31日ですべての授業が終わり、31日から1月3日まで香港へ旅行に行きました。楽しい旅行だったのですが最終日に病気になってしまい一緒に行った友達や洪さんにたくさん迷惑をかけてしまいました。上海についてから日本語対応の病院へ行ったのですが、休診だったり、保険会社に電話してもつながらなかったり、いろいろあったのですが通りすがりの親切な日本人に助けていただいたおかげで、違う病院で治療してもらうことができました。

年が明けて留學生活も残り2週間になり、心残りの無いように食べたいものを毎日食べました。上海で生煎や番茄炒蛋などの料理を初めて食べて、本当においしくて感動して、

大好きになりました。上海で自分が行ったごはん屋さん、どのお店も料理が出てくるのが速くて、校内の食堂も速いし作っているところが間近で見ることができて感動しました。手際の良さや中華鍋の使い方とか、すごくかっこよくて、それに注文された料理を紙に書いたりしなくても注文した料理と人をちゃんと覚えていて、尊敬しました。自分もこんな風にできるようになりたいと本当に憧れました。

友達になった華東師範の学生たちが、自分が帰国する日よりも早く実家に帰省するというので、最後にみんなで上海の観光地に行きました。豫園、外灘、南京東路をまわりました。三か所とも上海に来た頃に行ったことがある場所だったのですが、夏と冬では同じ場所でもまったく雰囲気が違い、冬は景色がとてもきれいに感じました。お別れのときに彼らから手紙をもらい、全文中国語だったのであまりはっきりとはわからなかったのですが、とにかく感動して、別れがとても辛かったです。自分と仲良くしてくれてありがたかったです。一番お世話になった洪さんも自分たちより早く帰省されるということで、名学のみんなでメッセージを書いて渡してお別れしました。上海に来た頃は早く帰りたくて仕方なかったのですが、留学がいざ終わるとなるとやっぱり寂しくて帰りたくなくて、樋口先生が言っていた通りでした。留学でいろんな経験をさせてもらって、いくつか目標や課題もできました。自分の周りの人たちに本当に感謝だなと思いました。



夏の豫園



冬の豫園



夏の外灘



冬の外灘

<美味しかった料理>

番茄炒蛋饭



番茄炒蛋饭



沙锅



小笼包



水饺



生煎



中期特別留学報告書 ～右も左もわからず～

華東師範大学 17F1034 濱田 華奈子

私にとって、この留学は初めての経験ばかりであった。この留学へ行ったことにより私を得たものはとても多いと感じる。

まず、私にとって、海外へ行くのは、初めてであり、ましてや海外で生活するなんて何も想像できなくて不安でいっぱいであった。初めての海外、中国についたとき、最初に感じたのが、空気の違いであった。日本は比較的空気がきれいと言われていたが、日本から出たことのない私には、いまいちピンと来なかったが、中国に降り立った瞬間にまず、空気の違いに驚いた。夏だった事もあり、日差しが日本と比べられないほど、熱くてらしており、息苦しいと感じるほどであった。日本との気候、空気の違いを感じた。

初めての買い物では、中国のスーパーの大きさに驚いた。中国のスーパーはほとんどが、2階があり、一階は食品売り場、二階は日用品、家電売り場であった。日本のスーパーと違うのが、売り場ごとに店員さんがいて、商品を勧めてくることだ。初めての日、中国語を全く聞き取れないし、店員さんの圧迫感でとても戸惑ったのを覚えている。日本にはないようなものもたくさん売っていた。一番驚いたのが、生きたままの牛蛙だ。中国では、料理屋でも普通に牛蛙が売られているし、日本人としてはとても驚きだった。

中国に行く前の先入観として、中国人は性格が悪いや、日本人に対して当たりがひどいなどというものが私の中にあった。最初の方は、何を言っているのかわからなかったし、声が大きく怒っているように聞こえたので、やはりそうなのだと思っていたが、何日かたって、やっと中国人はみんな比較的あのようにはっきりとしたしゃべり方ということがわかった。少しずつ内容も理解していき、自分たちが日本人だとわかると、予想とは反しとても親切にフレンドリーに話しかけてくれた。自分が中国人に対して持っていたイメージを見直さなければならぬと感じた。私が中国人の好きなところは、誰でも話しかけるところだ、知らないおばさんでも、お菓子を見ていたら、「どっちがおいしいの？」と話しかけてきたり、知らないお姉さんが「今、何時？」などと話しかけてきたり、日本にはない、みんな知り合いのような距離が面白いなと思った。

授業は、8月からの1か月は短期プログラムの授業で、日本人の方が多かった、上は年を召したドイツのおじいさんから下は中学生の日本人の子など、年齢も職業も様々な人たちばかりであった。授業は平日の午前のみで、2人の先生が曜日ごと交代で授業を行ってくれた。授業は自分から発言していくものが多く、生徒の方たちは積極的に発言していた。心残りなのが、私は発言するのが苦手であり発言することができなかったことだ。

9月から、大学での本格的な留学生向けの授業が始まった。短期の時に、レベル分け

をしていたことにより、この時は最初からレベルが振り分けられており、短期の時より一つ上のレベルになっており、最初の授業の時、全く授業についていけず、これでは何もわからないと思ったので、お願いして一つ下のレベルのクラスにいらしてもらった。この授業は自分に合っていたので、先生の話すことがほぼ理解できた。このクラスは、短期に比べて、若い人が多かった。国籍も豊かで、日本、韓国、フィリピン、ロシア、フランス、アメリカなど様々で、1クラス20人ほどで授業を受けていた。授業の方式は短期と同じで、2人の先生が授業を行ってくれた。この授業では、聞き取りが多かった。CDの聞き取りや、2対1で会話をするなど、耳が鍛えられた。テストは、11月と12月の2回あった。3科目ある中で、二つは授業で習った単語、文法についての聞き取りのテストであり、もう一つの科目は、中国語の発音のテストと、ある課題についてプレゼンテーションするものであった。9月から12月までの授業があり、平日の午前のみで、国慶節と正月は休みがあった。

国慶節と正月に上海を抜け出して旅行に出かけた。国慶節は、ルームメイト（名古屋学院の子）と二人で杭州と蘇州に行った。2泊3日で、高速鉄道（日本でいう新幹線）を交通手段として出かけた。ホテルの予約、高速鉄道のチケットの手配、杭州、蘇州の下調べは自分たちで行った。杭州についてまず、バスの乗り方に迷った。目的地までのバスがどうしても見つからなく、日本とは違い携帯を持ってないので、その場で調べることもできず、周りに人に聞くしかないという事態になった。仕方がないので、周りの人たちに聞いてみたら、丁寧に教えてくれた、でも聞く人によって教えてくれるバスの路線が違うことには困ってしまった。道を聞く前は聞き取れるのか、そもそも教えてくれるかとかドキドキしていたが、みんな丁寧に親切に教えてくれて、何となくは聞き取れることもできたので、道を聞くことが楽しく感じてきた。杭州も蘇州も上海とはまた違い、古き中国を感じられ、自然も多く、住んでいる人たちも上海人とは少し違う雰囲気を感じて、中国も広いので、場所によって雰囲気が違うのだと気づき、もっといろんなところへ行きたいなと感じた。

正月には、名古屋学院の子たち5人で香港へ出かけた。2泊4日で、飛行機を交通手段として出かけた。飛行機のチケットの手配は、中国人の方に手配していただき、ホテルの予約は自分たちで行った。香港では、外国人が多いので、主要言語が英語だったので、これまで中国語を使ってきた私たちにとって、頭の中がごちゃごちゃになって困ってしまった。香港とやはり、中国とはまた違って、食べ物も、慣れてなくても日本人の口に合うようなものばかりで、香港人は上海人とは違いおしゃれで、日本人に近いような雰囲気を持っていた。香港自体は楽しいのだが、自分たちの準備不足で満足できるような旅行にはならなかったので、今度はきちんと準備してまた行きたいと思う。

私とルームメイトの二人は、比較的色んなところへ行っただと思う。理由は地下鉄代が安いし、バス代も安く交通費が安く色んなところへ行きやすかったのと、物価も安く、上海は結構楽しめる場所が多かったからだと思う。勉強しているときより外に出てい

ることが多くなってしまったが、外に出ること自体が勉強になったと私は思う。物を買う際店員さんに質問したり、値切りに挑戦したり、道を聞いたり、歩いているだけで、あちこちで中国語が聞こえるので、何を言っているのか聞き取るのも楽しく、勉強になったと思う。

中国で生活すること自体が勉強になり、何もかもが初めての状態で、自分達だけで解決しなければいけないという状況を切り抜けていくことは、人としても少し成長できたのではないかと私は感じる。この留学を終えて得たものは多かつたし、自分自身の中も色々と変わることができて、最後には留学に行って良かったと感じることができ、とても満足できたものであった。

長期留学報告書

～台湾・台北～

中国文化大学 16F1015 後藤 優季

2013年9月から2014年6月まで台湾で過ごした。一年の時の特別留学には参加しなかったためこれが初めての留学だった。中学の時から台湾に興味を持ち、留学したいと思っていたのでこの思いは達成できた。興味はあったものの旅行も行ったことなくこの留学で初めての渡台でもあった。行きの飛行機では期待の方が大きかった記憶がある。しかし一日目にして期待よりも不安しかなかったことも覚えている。今では笑えるがその時は本当に無理かもしれないと思ったくらい。あの時が一年も前の事だなんて、それだけの月日が経ったことがわかる。何も話せなかったし理解も出来なかったなど。今もそんなに成長したわけではないが、多少はコミュニケーション出来るようになったかな程度。

留学中での思い出もたくさん出来た。新しい日本の友達ができたことは大きい。名古屋からは私一人で他は東京と大阪や奈良の人で名古屋以外の友達を作る事が出来た。とても人には恵まれて助けられてばかりだったが、みんながいなければ何もしずに過ごしていたかもしれない。感謝感謝で今も私が東京や大阪に行った時は会ったりしている。台湾人の友達ともたまに連絡を取り合っている。今度は彼女たちが日本に留学しに来ているので東京や大阪行った時には会おうと思う。

大学について。大学内、宿舎内にはWi-Fiが通っている。無線LANケーブルをさすところはない。宿舎は4人部屋と6人部屋があり、二段ベッドの下に机と椅子とクローゼットがついている形で、それが人数分。トイレとシャワー室は階ごとに共同で各10個ほどある。洗面所、洗濯所も各階で共同。トイレにはトイレットペーパーはついていないので随時持っていく。詰まってしまうのでトイレットペーパーは流さずゴミ箱に捨てるのが基本であった。このような感じだとは思ってもみななかったので初めは少し抵抗があった。一人の時間がほしい人間なので常に人がいる状態の部屋はたまにストレスが溜まったりするときもあった。一人になりたいときは大学内を散歩したり誰もいない階段で過ごしたりと少し大変だった気持ち的に。気疲れを感じた。逆に常に人がいることで楽しく過ごせたこともあり、今ではなかなか経験できないのでよかったと思う。

10月からはチューターという、日本語学科の台湾人と日本人留学生が週に1回程度授業後などに集まって、日本人が教えてもらう時間が始まった。日本語学科の先生によってグループ分けされて、大体日本人3、4人に対して台湾人5～7人程度がつく。勉強の仕方はグループによって様々で、メンバー全員で集まるところもあれば、気が合う、時間が合う日本人と台湾人のマンツーマンでやる人もいるようである。日本語学科なので日本語が話せる人も多く、私のチューターの人は日本語がうまく、意思疎通やニュアンスの違いまで教えてくれる。日本人が教えてもらう時間なのでできるだけ中国語で話そうとするが、

まだ全然浮かばないと相手は日本語ができてしまうので少し頼ってしまう。しかしチューターの人にはできるだけ中国語で話してくれて、すごくためになる時間だと思う。授業の宿題などで中国語に訳さなくてはならないやつや、問題で疑問に思ったところを直接聞けるし、リスニングもしてくれる。人によるかもしれないですが。勉強が終わると大体一緒にご飯を食べに行く。観光地に連れてってくれたりもした。台湾人とかかわることがないので、このチューターはありがたかった。それと同時に日本語コーナーという、日本人留学生が台湾人に日本語を教える時間もあった。それも日本人3、4人に対して日本語に興味がある、大体日本語学科の台湾人10人前後で週一回やるもの。曜日により台湾人の人数などが変わるがゲームを交えながらみんなで楽しく出来た交流の場で、チューターも日本語コーナーもとてもいい取り組みだと思う。

記憶に残る思い出にレンタル自転車というのだろうかUバイクというので運動ということちょっとしたチャリ旅をしたこと。名古屋で言うマナカのような游泳卡(ヨウヨンカー)と電話番号の登録が必要だが一回登録さえすれば乗れるので登録はしなくてもいいと思う。台北内のMRTの駅のほとんどや公園にUバイクが設置されていて、今もそうなのかわからないが当時は使い始めてから30分無料なので現地の人も良く利用しているのをよく見かける。30分を過ぎても30分ごとに10元とかなのでMRTやバスよりは少し安い。なので台数が少ない場所だと争奪戦であったが。時間がある時なら結構便利で街中も通れるので散策するのによかった。初めての時は久しぶりに自転車乗って次の日筋肉痛になったが楽しかった。後期も何回か利用したがさすがに暑い日は疲れた汗だく。

クリスマスや大晦日も台湾で過ごした。部屋の子たちとクリスマスパーティーしてケーキを食べたり、31日は101のカウントダウンに行き、生でライブや101の花火を見た。海外で年越しを過ごすこともないだろうと思ったので行ってみた。人がめっちゃくちゃ多いと言われていたが、想像していたよりはギュウギュウではなかった。すごく疲れたが楽しめた。

後期が始まり、日本人留学生も多くの人たちが去り、新しい人たちが来た。2月から来た人たちは私と同じ年ばかりで女子の割合が高い。人見知りするので仲良くなれるか不安だった。しかも新しく来た人たちは(日本人だけでなく新しくきた韓国人も)宿舎が一緒ではなく離れたところの宿舎に住む子が多くコミュニケーションがとりづらくなってしまったので授業以外で会うことが少なかったと思う。前期の半年間を振り返ると短かったような長かったような。前期は人に恵まれていたなと本当に思う。同じ宿舎だったのも大きく、違う部屋に遊びに行けたり、わからないところをすぐ教えてもらいに行ったりできたりして距離がすぐ縮まった気がする。年上が多く安心できたというのもあると思う。戻ってきてすぐ、また9月に来たときと同じような気持ちになったり、前期は毎日騒いでいたのでさみしく思ったりしてしまっただけ、同じ時期に来て同じ部屋の日本人の友達と励ましながらかこれから頑張っていこうと思ったことも懐かしい。

季節の変わり目には体調がすぐれず初めて台湾の病院へ行ったことも記憶に残る。海外

保険に電話したら代わりに予約してくれるシステムで提携先の病院は台湾でも有名な場所で安心。外国人専門の外来があり、日本語と英語ができるスタッフがいた。すべて日本語で対応してくれて、医師とのやり取りは通訳の役割という形でやってくれる。海外の薬は少し怖かったが、効き目は少し弱かった気がした。

人生で初めてコストコに行ったりもした。サーモンの寿司20巻入りがあり、サーモン好きの私はもちろん買った。これは台湾にしかないようだ。味も悪くはなかった。たまにまた食べたくなる。

4月の初めに連休があり、私は授業の関係で6連休だった。日本で言うゴールデンウィークのような感じだ。しかし休みの理由は日本で言うお盆のように墓参りに行く節のようで、これは台湾の大学生だけの休みのようだ。連休なので台湾内旅行も考えたが、帰郷する人たちが電車のチケットなどは取りづらくなっていたので諦めた。新しく来た日本人と仲良くなるために鍋の食べ放題へ久しぶりに行ったり、台湾人の知り合いの方に連れて行ってもらって海の方まで行ったり。あとは材料を買ってきてお好み焼きを作ったり、男子にたこ焼き器を借りて一日中たこ焼きを焼いて食べたり、同じ部屋の子の誕生日を祝うためにケーキを買いに行ったがてらお茶したり。日本のパティシエのお店だからなのか少しだけ日本語が話せる男性スタッフがいてなかなかイケメンだった。結局それ以来行けず、イケメンと話せなかった。あと今度お店に行った時はバームクーヘンが有名だったので買おうと思う。行きづらいところにあるが。

前期後期の日本人留学生全体でのご飯会もしたりして、親しくなったりもした。前学期とは違い、私と同じ年の人たちなのでやはり何か親近感のようなものが感じられて接しやすい。女子二人でラーメンからのカフェで厚切りトーストを頬張ったり。台湾に来てから2回目の占いへ行ったりもした。なんかいいことしか言われないので何とも言えない。そんなもんなのだろう。日本のスポッチャみたいなボーリングやビリヤードなどが5時間やり放題で300円のところへみんな遊びに行ったりもした。牛角の食べ放題にも行ったが、日本と同じような肉を期待していたがやはり台湾クオリティーだった。肉が薄い。一番おいしかったのはデザート。日本の厚さを想像していた分かなりショックだった。

ほぼ台北から出なかったのが高雄や南の方には行けてないが、少し心残りがあった方がまた来たいと思えるので行くのはやめた。できれば今年中にまた台湾に遊びに来れたらいいなとは思っているので、ほかの人のようにあれやりたいこれやりたいという気持ちはそこまでなかった。ここで出会えた人たちともまた出会えたらいいなとも思う。このまま台湾で過ごすことは全然できると思ったが、2か月に一回は日本に帰国したい。なんとなく。それなら過ごせると思う。この留学期間は早くもなく長くもなかった。妥当な感じであったと私は思う。しかし台湾だから体験できたこと、学んだことも多かった。少しではあったが台湾で大好きなイベントにも参加できた事も忘れられない初めての体験になった。繰り返しにはなるが、人にも恵まれて本当によかった。楽しい留学ができたと思う。また機会があれば行きたいと思う。

中期留学報告書 ～半年で上達する方法～

北京師範大学 16F1024 澤岷 光

自分は中国の北京市にある北京師範大学に9月からの半年間留学していました。留学生活が始まって最初のほうはいきなり見ず知らずのところに住む事もあり、とても不安でした。しかし北京師範大学には日本人会というグループがあり、自分たちのような初めて海外で生活する日本人を助けてくれました。入学の手続きや食事、日本語を勉強している中国人の学生との交流の場などいろいろ助けてもらいました。(自分が聞いた話によると、ほとんどの日本人を留学生として受け入れてくれる大学では日本人会のようなグループがあるそうです。)それで最初は日本人会で仲良くなった日本人の先輩や同級生と食事に出かけることが多くなりました。そこでお勧めのお店や注文の仕方、習慣を教わりました。

北京師範大学では授業が始まる前にクラス分けテストが行われました。ペーパーテストの内容は今となれば簡単でしたが、その時はあまり解けませんでした。名学の中国語の授業をしっかりと聞いていても完ぺきにはできないでしょう。でも、このテストはあくまでクラス分けをするだけだったので、ほんとに中国語がわからない人はテストを途中で放棄して諦めて一番下のクラスから始めるという人も何人もいました。ペーパーテストの後は教室で先生三人と自分一人での口頭でのテストみたいなのがありました。まず紙に書いてある中国語の文章を中国語で声に出して読まされました。ところどころわからない単語があれば先生が助けてくれます。そのあと先生から簡単なことを2.3個質問されました。おそらくこの口頭のテストでクラスが決まると思います。

クラス発表の後数日後に授業が始まりました。最初の一週間は振り分けられたクラスに自分の中国語の能力が合っているか確認するみたいな期間がありました。上のクラスから下のクラスに下げるときテストはないのですが、上にあがるとなるとまたテストが必要になりました。自分は振り分けられたクラスは別に悪くはなかったのでそのままでした。自分のクラスには16人中日本人は自分も含めて二人しかいませんでした。後々わかるのですがクラスに自分以外の日本人はいないほうが良いと思いました。授業はすべて中国語でした。でも先生はわかりやすい中国語で話してくれます。授業では名学と同じように教材を使って授業を行うのですが、自分のレベルのクラスでは教科書の半分にはピンインがなく、単語のまとめみたいなのところにしか載っていませんでした。要するに本文の内容でわからない言葉があれば予習して来いみたいな感じでした。自分はそのことから予習が習慣になりました。予習しないでいくと、先生にあてられても文書を読めなくて置いていかれている感じがしてだんだんついていけなくなります。ほかにも違う科目の授業があるのですがすべての授業に予習は必要だと思います。自分のクラスから新聞を読んで内容を理解したうえで問題を解くという厄介な授業もありました。授業も厄介だったのですが宿題が一番

厄介でした。自分で新聞や雑誌を買って気になるページを見つけて切り取ってそのページのわからない単語を見つけてその意味を中国語で説明したり、意見と感想をそれぞれ数行書かないといけませんでした。最後に調べたのをみんなの前で発表する時のためにみんなに討論してもらいたい論点もあげました。クラスみんなが同じレベルなので討論とかもやりやすかったです。

今からは自分なりの中国語の上達の仕方を書きたいと思います。とりあえず自分は初めのほうに紹介した日本人会には全く関係を持ちませんでした。なぜなら中国にまで行ってなぜ日本人と仲良くしないといけないのかわからなかったからです。日本人と居ても話すのは日本語だし中国語が伸びないと思ったからです。自分はほぼ毎日韓国人とマレーシア人の本科生と一緒にいました。もちろん中国語しか話ませんでした。自分とはとにかく毎日中国語漬けにしていました。部屋にいる時もパソコンで中国のドラマを常に流していました。自分の考えでは中国語に関しては赤ちゃん同様に、赤ちゃんは最初たくさん聞いて言葉を覚えます。同じように自分もたくさん聞いて言葉を覚えるのが一番いいと思いました。あと外出するときは基本タクシーなのでその時に運転手と会話したり、お酒の席で仲良くなった人とも話すことが多かったです。留学が終わるころには飛行場に向かうタクシーの中で運転手さんと一時間以上絶えず会話ができるようになりました。

留学中は留学中にしかできないことを早めに見つけて行動に移すことが大事だと思いました。悪く言えば中国なのでよほど悪いことをしない限り自由なので日本みたいにかたくなところは特にないのでいろいろ行動して現地の中国人とたくさん会話をしましょう。ほとんどの人が会話をしてくれます。



中期留学報告書 ～北京師範大学留学記～

北京師範大学 16F1039 福井 洋介

1. はじめに

私は2013年9月7日から2014年1月22日までの約半年間、中国北京市にある「北京師範大学」に留学していました。ここではその半年間で経験した出来事などをもとに私が感じたこと、これから中国に留学する後輩諸君たちに伝えたいことを書き記していきます。少しでも参考になれば幸いです。

2. 中国という国

中国への留学を計画する際にまず頭に浮かぶのは「公害からなる空気汚染や、食の安全」と「中国国民の反日思想」だと思います。実際、私も中国に留学することを両親に報告した際にこの二点を口うるさく言われました。そこで、中国という国の現在の状況を私からの視点で少し報告したいと思います。まず「公害や健康」について。私が留学していた北京市でも公害は深刻化しており、空気汚染がひどいときには100メートル先がかすむような日もあります。ですから、そのような日にはなるべく外出を控え、外出する際にはマスクをしっかりとつけることが大切です。「食の安全」についてですが、確かに日本と比べると衛生面では劣っていますが、食あたりを起こしたという話は私の周りでは特には聞きませんでした。「中国国民の反日思想」ですが、半年間の留學生活の中で反日感情をぶつけられるという場面はほとんどありませんでした。あっても一二回程度です。日本のニュースなどでよく見かけるような場面にも遭遇したことはありませんでした。どちらかという買い物をした際に、店員に「お前は何人だ」と聞かれ「日本人だ」と答えると珍しがって話が弾みます。「北京には日本人がたくさんいるのでは？」と思う人もいるかもしれないが、北京では日本人の何倍にも韓国人がいるので日本人が少なく見えてしまいます。ですから、珍しがられる場面がいくつかありました。しかし、まったく反日感情をぶつけられたことが無いというわけではありません。私が経験した場面をひとつ挙げたいと思います。日本人2人と韓国人2人でタクシー乗車した際、タクシー運転手から「お前は何人だ」と私とは別の人が聞かれたので「日本人だ」と答えると運転手の顔つきが変わり、「私は日本人が嫌いだ。なぜなら私の親戚は日本人の兵隊に殺されたからだ」と強い口調で言われ、激昂していました。私たちはそこから無言ですごしていましたが、一方的に運転手が日本に対する不満を爆発させ続ける状況にしびれを切らした韓国人が「こいつらに言ってもしょうがないだろ」と言うときさらに激怒。目的地には無事にたどり着きましたが、遺恨を残す形となりました。日本と中国は昔戦争があったということは常に心のどこかに置いておく必要があると思います。しかし、このようなケースは稀なのでそ

ここまで心配しなくてもいいと思います。特に北京市は外国人の受け入れ態勢が整っているのですごしやすいです。タクシー運転手は地方からの出稼ぎで北京人でない場合が多いので注意が必要です。北京には日本人のほかにもいろいろな国からたくさんの人が来ているのでとても賑やかで楽しいです。

3. 北京師範大学

私がかよっていた北京師範大学は「北京大学」「精華大学」「中国人民大学」「北京師範大学」からなる北京四大大学の一つで、学生のレベルがとても高いです。私がこの大学に来て最初に驚いたことは、学生の勉強意欲です。授業は朝の8時から始まり、一番遅い授業は夜の10時まで。さらに、そこから自習室や空き教室で勉強。同じ大学生として今まで私はどれだけ勉強してこなかったのかと改めて思いました。北京師範大学は教育学と心理学が有名で、全国から優秀な学生が集まってきます。大学の前にはバス停があり、歩いて10分程の場所には地下鉄の駅があるので、交通手段は比較的整っています。

4. 授業登録

授業登録及び手続きはすべて自分で行わなければなりません。授業料の支払いはクレジットカードで、寮費は現金で支払います。登録には時間がかかるので余裕を持った行動を心がけましょう。登録が終わった数日後にはクラス分けテストがあります。テスト内容は筆記と面接です。この結果でクラス分けが行われるのでしっかり準備しましょう。クラスが発表されたら指定の教科書を買って、授業を待つだけです。

5. 授業の流れ

授業は一コマ45分で一つの授業で二コマ使います。つまり、一つの授業で90分ということです。授業は大きく分けて3つの授業があります。「听力」「读写」「会话」の三つです。「听力」の授業では徹底的にリスニング能力を鍛えていきます。授業では教科書に付いてくるCDを使い、音声を聞いて文章を読み解いていき、先生が解説するという流れです。授業では基本的に音声を4回聞きます。1回目は何も見ずにただ音声だけを聞き、2回目はわからない所だけ見る方式。3回目は文章を見ながら聞き、最後に何も見ずに音声を聞きます。授業はかなり早いペースで進むのでしっかりとした予習が必要です。「读写」の授業は文法を鍛える授業です。教科書を読みながら、先生が一つ一つ文法を解説していきます。ノートをとる量がとても多く、半年間の授業で私の場合ノート約2冊です。先生がPowerPointに必要な事項を書いてくれるので、板書しきれなかった場合は先生にPowerPointのデータを貰いにいきましょう。また、作文の宿題が多く出るのも特徴です。「会话」の授業は会話を中心に授業を進めていきます。休み明けの授業では休日に何をしたかなどをクラスメイトの前で5分ほど発表することもあります。また、中国語を使った発表の機会も多くあります。自分の国の文化や習慣などをPowerPointにまとめて発表する機会もあります。「会话」の先生はとても発音に厳しいので最初は大変かもしれませんが、私の中では一番楽しい授業でした。

この授業ではいろいろな国の文化や風習を知れたり、クラスメイトと授業でタッグを組むことで仲良くなれたりしてとてもよかったです。みなさんも「会話」の授業では積極的にいろいろな国の人とタッグを組んで、仲良くなり友達を増やしていきましょう。すべての授業に言えることは、しっかりとした予習・復習が大切であるということです。1日の授業で学習する量がとても多いので頭の中をしっかりと整理する必要があります。

6. 1日の流れ

基本的に授業は1日に2つあります。午前だけの場合・午後だけの場合・お昼過ぎなどです。朝の授業は8時から始まるので、日本と同じ生活リズムですごしていると遅刻してしまうので気を付けましょう。そのため朝ごはんは比較的早くとらないといけません。食堂が朝の6時30分からやっているのでもうまく利用しましょう。お昼休みは約2時間です。昼食は学内の食堂や学校の周りの大衆食堂のようなものをよく利用していました。学内の食堂は値段が安いのでお金がないときは食堂に行きましょう。夕飯はよくクラスメイトなどと校外のレストランなどに行っていました。北京にはおいしい料理がたくさんあるので、私は食事が毎日楽しみでした。休日は友達と買い物に行ったり、少し遠出して観光地を回ったりしていました。交通手段は基本的にはバス・地下鉄ですが、中国はタクシーの値段もとても安いので便利です。

7. 旅行

中国国内には様々な観光地や歴史的に貴重な遺産があります。中秋節や国慶節・春節などの大型連休を利用していろいろな場所に行きましょう。私は国慶節に天津へ。大学の冬休みに哈爾濱まで旅行しました。日本では味わえないような経験や景色を見ることができてとても楽しかったです。

8. 中国語の学習

語学留学の目的はもちろん語学の習得です。では、なぜその国に留学するのかというと私は周りに言葉があふれていることだと思います。なにげない日常会話から言葉を使うことで体に染みつきます。つまり会話をしないと言語は身に付きません。ですが、中国人の友達などそう簡単にみつきませんでした。たまたま、私の大学には日本語学科があり、そこの中国人と仲良くなりお互いに語学の勉強をしました。中国に来て驚いたことは、今まで自分が話していた中国語はほとんど通じないことです。これには個人差があると思いますが、中国に来た当初は料理の注文もまともにできず、マクドナルドでも注文に時間がかかりました。その時に私は留学に来てよかったなと思いました。なぜなら、その体験をするかしないかで今後の学習が大きく変わると考えたからです。

9. 最後に

私は今回の留学にとっても満足しています。できれば半年ではなく1年行けばよかったと思っています。日本と中国の違いも体感でき、いろいろな国の友達もでき、中国語

も少しは上達したと思います。今回の留学ではゼミの先生をはじめ、さまざまな方にご迷惑をおかけしました。決してひとりではこの留学は成し遂げられなかったと思います。これから留学するみなさんは私の経験をもとに、より良い留学生活をおくってほしいです。留学は語学を学ぶだけでなく、人としても成長できる場だと思います。

中期留学報告書
～ラ・サル大学留学日記～

De La Sall University DASMARINAS 15F1052 堀田 久恵

2013年10月28日

定刻通りマニラ空港に到着、初めてのフィリピンである。本校が交換留学を提携した後の第一番目の生徒でもあり期待に胸膨らませ憧れの地を踏んだ。外は蒸し暑くまるで名古屋の真夏である。無事迎えの人のプラカード、NAGOYAGAKUIN の文字を見つけホットした。ワゴン車に乗り込み途中大きなスーパーモールに立ち寄って携帯電話機を買い、1万円を両替する。このモールはアジア最大級の規模を誇るショッピングモールで、モール・オブ・アジアという。

10月29日

留学生にもすぐIDカードを作成してもらおう。本科生と同じように首から下げる形式のものである。素早い対応にちょっと嬉しかった。夜は学校の近くにあるレストランに行く、その経営者はミュージシャンでもあり、英語、スペイン語、日本語とありとあらゆるジャンルの曲を、ギターを引きながら歌ってくれた。リクエストにも答えて日本の古い演歌も歌ってくれた、懐かしい曲を聞きながら食事をして楽しい時を過ごすことができた。

10月30日

学校のスタッフより、留学生のタイ、ビルマ 日本人（フィリピン人とのハーフ）を紹介してもらい、彼らに連れられてマニラにあるモール・オブ・アジア（モールの中にはスケート場、映画館などもある。）そこへ行く時初めてジプニーという乗り物に乗った。現地の乗合バスである。学校の近くには全くと言っていいほどタクシーは走っておらず主な交通手段はこれのみである。フィリピンを代表する独自の乗り物で昔米軍が使っていたジープを改造したものらしい！派手な塗装で、大音量で音楽をかけて走っているものもある。乗りたいたところで乗り、降りたいたところで降ろしてくれるとても便利な乗り物であるが、現地語（タガログ語）で直接運転手に、お勘定！と言ってお金を払い、降りるときは止めてください！と言って叫ばなければいけない。降りるときは、素早く降りないと発車してしまうし、本当にドキドキして落ち着かない乗り物である。

11月1日

今日はフィリピンでは祝日、日本で言えば、お盆と同じような日でお墓参りに行き、先祖を敬う日でもある。まだ学校は始まらずとても静かである。午前中に、歩いて15分ほどのところにスーパーが有り買い物に行く、着いた時には汗びっしょり！サンダル、コップ、お椀、果物など買う。昼ごはんはスーパーの中にあるファーストフード店でスパゲティを食べる。味はまあまあであるが、冷めた麺にソースをかけたただけのものである。この店は“Jollibee”といいフィリピン初のファーストフード店であり経営者は中国人である。一番人

気はチキンジョイ (Chickenjoy) で、チキンとライスのセットである。ほとんどのメニューにライスがセットされている。このライスが私にとっては美味しくない！炊き損ねたご飯のようで以後ライスは注文したことがない。夜は私の大好きなマンゴーを食べる。フルーツは皆安くて美味しい！スイカ、マンゴー、ミラン、マンゴスチン、バナナ、グアバーノ等など。

11月7日

マニラにあるイミグレーションオフィスにビザの申請に行く。その後、ツーリストビザで入国しているので何回も足を運ぶことになろうとは思っても見なかった。学校からは遠いので留学担当の人に車で連れて行ってもらう。朝6時に学校出発、到着したのは8時過ぎ、交通渋滞がとてつもないためだ。手続きも延々として進まずお役所仕事か？お国がらか？終わったのは3時過ぎ、帰りは交通渋滞も無く1時間15分程で帰れた。

11月8日

フィリピンに台風上陸、部屋にテレビがなくてパソコンも繋がらず、又学校からも何の連絡もないので朝教室まで確認に行くが学内は人っ子一人おらず、やはり休校のようだった！ここマニラは被害もなく一安心だがレイテ島での被害が激しく心痛む！

11月11日

やっと授業が始まった。この日から私の苦難の戦いが始まるとも知らず喜び勇んで指定されたクラスに行く。いきなりテストがあつが全く出来ず呆然とする！留学する前に説明されていたこととは全く違っていた。留学生だけのクラスで、レベル別に分けて授業が行われると思っていた。まさか本科生のクラスに入れられるとは思ってもいなかった。

12月3日

やっと先生が見つかり英語の授業をマンツーマンにしてもらう。でもまだ2つは本科生のクラスで授業を受けている。

12月7日

今日は一人でタガイタイ（世界で一番小さい活火山がある観光名所）に行こうとしたが、タイ人留学生が一人では危険だと言ってついて来た。途中、トライシクルという乗り物（オートバイの横に2人が乗れるサイドカーがついた物）に乗った。行きと帰りでは料金が倍以上に違った。乗る前に、値段交渉しなくては行けないが相場が分からず、相手の言うままに乗ってしまった為だ！

12月10日

9日から14日は第一回目のテスト週間である。私の履修している Cross-Cultural Communication,の授業の試験はパワーポイントで名古屋の食べ物、施設、などを紹介するものだった。食べ物は、味噌煮込みうどん、味噌カツ、ひつまぶしなどを紹介した。特に味噌煮込みうどんの中に生卵が入っているのが不思議がられた。日本では生で、卵、魚が食べられて幸せだと思った。

施設では、熱田神宮、名古屋城、白鳥庭園、国際会議場、などを紹介し、特に白鳥庭園、国際会議場は自分が学んでいる大学のすぐ傍にあることも強調したがあまり関心を持ってくれなかったようだ。自分としては一生懸命取り組み満足のいく発表が出来たと思う。

12月13日

ランチをクラス担当の先生におごってもらおう。私の好きなランチは、春巻きを油で揚げた物。焼売は“シャオマイ”と発音している。正しく中国語である。昔から中国とは関係が深いためだろう？

2014年1月7日

冬休みも終わり、今日から授業が始まる。本科生のクラスに行って授業を受ける。休み前に約束した、(来年からは新しいスケジュールで、個人レッスンの授業に変更する)も守られず。ここフィリピンのダサール大学ではすべてにおいてスローペース、時間は守られず、約束したことも然り、日本人の私にとっては本当に信じ難いことです。だんだんとフィリピンの習慣に慣らされていきます。

1月15日

個人レッスンの先生が見つかったと、連絡が入る。やっと新しいスケジュールが決まったのが1月半ば過ぎ、3月には帰国するというのに！

1月20日

風邪が流行っている為か、私もうつる。

1月25日

五日間経っても喉の痛みが取れず。折角病院内の宿舎に住んでいるので、病院に行ってみることにする。後学の為に診察を受けに行く。ここの病院のシステムはどうなのか？と、ちょっと不安を抱えながらも行ってみた。まず受付に行って、症状を言うと、医者の名前と彼らがいる部屋の番号を書いた紙をくれた。それを持ってその部屋に行く。口を開けて喉を見ただけですぐその部屋で600ペソを払った。薬の名前を書いた紙をもって薬局にいった薬を買った。部屋に戻ってすぐ薬の名前を調べてみると、なんと抗ヒスタミン剤である。これはアレルギーの薬である。この喉の痛みはアレルギーではないことを自分が一番よく知っている。薬は飲まず、昔からやっている熱いお湯にレモン、蜂蜜、しょうがを入れて飲んだ。やはり病院に行くだけでなんだかとても疲れたのでその日は早く寝た。高い授業料を払ったが、いい経験が出来たと思う！

1月31日

中国では春節だ！なんとフィリピンでも、チャイニーズセレブレーションと言って、会社、官庁、学校すべて休みである。やはり華僑の影響も大きいのだろうか！聞くところによると中華街では夜通しのお祭りであるらしい？

2月10日

学校内に居るときは日本とさほど変わらず、掃除は行き届きとてもいい環境であるが門を一步出たとたん学校に行っていない子供達(行けない子供達)が裸足で“お金頂戴”と手を出して寄ってくる。貧富の格差を考えずにはいられない。なんでこんなにも学校に行けない子ども達がいるのだろうか？と、フィリピンでも小学校の授業料は無料であるはずだが本代、学用品代、その他諸々費用が必要である為その費用が払えない、又、親の考え方にも問題があるらしい？親は仕事が無い！仕事をしようと思わず隣近所に借金して日暮しているらしい？親の考え方から直さないとこの国は豊かにはなれないと思う。

街中では、裸足で歩いている人もいるのに、日本製の車を多く見かける。学内の駐車場では日本と全く変わらない程日本車が多い！あるとき“VIOS”という名前のトヨタ車を発見！日本では見たことがない。早速調べてみると、やはり中国、タイで製造、アジア圏で販売している。価格は180万円以上もする高級車である。日本にないトヨタ車がフィリピンにあるとは初めて知った。

2月14日

バレンタインデー。ここフィリピンでも日本と同じようにあるが、チョコレートではなく花(バラの花1本)等が多い、男性から女性に贈り、義理チョコは無くまたホワイトデーも無い。

2月19日

学校の図書館で日本について書かれている(文化、習慣など紹介している本)を、スタッフに頼んで探してもらおう。日本語と英語で書かれた本が1冊だけあった。7年前に購入した本でもうボロボロ状態である。それを借りて部屋で読む。返却日は1週間後だと聞いた(私の聞き間違えか?)のでその日に返しに行くと、10ペソを請求された。初めは本を借りるのは有料だと思ったが、1日遅れた為の罰金だとわかった。1日につき10ペソなのだ！この制度も悪くないと思ったが日本を紹介する本がもっとあってもいいと思う。

2月28日

宿舎の近くにある韓国レストランに行く。普段の食事の10倍ほどの値段である。韓国風の寿司、韓国風のギョーザ、キムチスープを注文する。ここフィリピンでは餃子はGyoza (ギョーザ) といいます。餃子 (jiaozi) とは発音しません。シュウマイ (焼売) は (shaomai) と発音するのに、ちょっと面白いです。シュウマイはチャイニーズとジャパニーズの2種類あり、ジャパニーズは海苔が巻いてあります。でも久しぶりに日本食に近い食事を堪能しました。

3月2日

バタガス州 TUY という田舎に行く。(宿舎からバスで2時間) 私の担当の先生の家を訪問し、近くにある教会に行く。そこからサトウキビ畑を30分以上歩いて小さな村を訪問した。ここで先生は田舎の子供達に勉強や、キリスト教について毎週教えている。もちろんボランティアである。春休みには、学校に行けない子供達を集めて勉強を教えていると

いう。その集落は、質素な家で周りはサトウキビ畑が広がり、牛や、山羊がいて庭には鶏がひよこと共に歩き回っていた。日本の沖縄のサトウキビ畑の風景と同じだ。森山良子の歌「さとうきび畑」ザワワ～ザワワ～♪と歌が聞こえてきそうな気がした！近くには川が流れ、マンゴーの木には実がたわわになっていた。又見たこともないような実がなっている木もあった（カミヤス、Kamyas という）私はこの場所がとても気に入ったが、生活となると厳しい環境だ。

3月6日

先生に頼んで他のクラス（教職課程）を見学させてもらう。クラスのみん中は本当に気持ちよく迎えてくれてホッとす。振り返って見られたり、ジロジロ見られたりもせず、“HI～～！”と言って挨拶してくれとてもフレンドリーな人達ばかりだったので連続3回も見学させてもらう。パワーポイントで発表したり、自分で資料を作ったり、幼稚園の生徒に教えることを想定して自分が先生になって実演していた。先生の指摘も厳しく発音が違っていたとか、アイコンタクトができていなかったとか注意を受けていた。

3月25日

宿舎のハウスキーパーの青年とその上司（若い女性）にグッバイパーティーをしてもらった。たった3人のパーティーであったがとても楽しい時を過ごした。私が近くの店でピザを買い、ハウスキーパーの青年が母親に作ってもらったというアドボ（フィリピンの伝統料理）その上司が私の大好きな揚げ春巻き（上海、シャンハイルンピア）、パンシッド（春雨に蟹風味のソースがかけてある）を持ってきてくれ、とても嬉しかった！

長いようであつという間の留学生活であった。生徒たち、先生もみんな親切で優しくフレンドリーな人が多い、しかしその反面、時間にルーズ、約束が守れない人も多い。こんなことでは国際社会では通用しないと思う、又大学卒業年齢20歳、日本と比べて2歳も若い。16歳で大学入学、本当に幼いし、又授業レベルも低かった。これではいつまでたっても発展途上国から抜け出せないと思う。もう一つは気候である、毎日毎日暑ければ勉強にしろ、仕事にしろ、なかなかやる気も起きないし継続するのも大変だと思う。

本科生と一緒にクラスにも入れ、貴重な体験が出来ました。私を気持ちよく送り出してくれた家族、又名古屋学院、ダサール大学の先生、本当にありがとうございました。

